



岐阜市版レッドデータブック 2023



■表紙写真

●種名	(撮影者名)
①サギソウ	(岐阜市)
②ニホンリス	(梶浦敬一)
③ゴイサギ	(大塚之稔)
④シマヘビ	(向井貴彦)
⑤ヤマトサンショウウオ	(高木雅紀)
⑥ウシモツゴ	(向井貴彦)
⑦アオハダトンボ	(中島和典)
⑧ケハダヒロウドマイマイ	(川瀬基弘)
⑨ミゾレヌマエビ	(向井貴彦)
⑩ヒメコウホネ	(平田 亨)
⑪ヤマコウモリ	(梶浦敬一)
⑫ヒクイナ	(大塚之稔)
⑬ニホンイシガメ	(楠田哲士)
⑭ニホンアカガエル	(高木雅紀)
⑮トウカイヨシノボリ	(向井貴彦)
⑯ヒメタイコウチ	(岐阜市)
⑰クチベニマイマイ	(川瀬基弘)
⑱モクズガニ	(鈴木 彰)

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮
⑯	⑰	⑱

2.1 総論

(1) レッドリスト見直しの背景と目的

わが国では、戦後の高度経済成長により、人々の生活基盤は豊かになり、比較的安定した暮らしを維持できるようになりました。しかしその一方で、身近であった豊かな自然環境は失われ、それとともに普段目にしていた生きものたちが姿を消しつつあります。

こうしたなか、国際社会では、国際自然保護連合(IUCN)が1966年に「レッドデータブック(絶滅のおそれのある野生生物のリスト)」を作成し、2006年以降、ほぼ毎年改訂が行われています。

国内では、1989年に我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物種分科会から「我が国における保護上重要な植物種の現状」が発刊されました。

また、1991年には当時の環境庁から「日本の絶滅のおそれのある野生生物(脊椎動物編)」、「同(無脊椎動物編)」が発刊され、これ以降、植物編の発刊や改訂作業が行われ、現在、第4次リストが公開されており、第5次リストも2024年度以降の公表にむけて作業が進められています。

このような流れを受け、各都道府県においてもレッドデータブックやレッドリストが作成されており、岐阜県でも2001年に「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物」が発刊され、その後、2009年に「岐阜県レッドリスト(動物編)改訂版」、2015年に「岐阜県レッドリスト(植物編)改訂版」が公表されています。

さらに現在、次期の改訂作業が進められています。

こうした国や県レベルでのレッドデータブックやレッドリストは、国全体あるいは県全体をベースに作成されたものであり、市町村レベルでは、必ずしも現状に即したものではありません。こうしたことから、市町村においてもレッドデータブックやレッドリストを作成する動きが出ており、すでに多くの市町村で作成・改訂作業が行われています。

岐阜市では、1996～1999年度にかけて、自然環境実態調査を行い、「自然環境と保全－岐阜市自然環境実態調査報告書－」を作成しました。さらにその後の様々な資料、調査データや2009～2013年度に行った自然環境基礎調査によって、「岐阜市の自然情報～岐阜市自然環境基礎調査～」を作成したことで、岐阜市内の自然環境の現状がより明らかになりました。

また、本市は、平野部から丘陵地が主要な環境であり、平野部から3,000mを超える山々を抱える岐阜県全域とでは生物相も異なり、あわせて、重要性も異なると考えられます。そこで、岐阜県版との差異を示すとともに、岐阜市の現状に合った評価を行うことにより、岐阜市版レッドリストを作成することとしました。

岐阜市版レッドデータブックは、本市における絶滅の可能性のある野生生物の分布や生育・生息状況について、詳細にとりまとめたものです。

そして、2015年に本市の貴重な自然環境の保全を目的として、岐阜市版レッドリスト(2015)を作成しました。

その後、野生生物の生育・生息状況は、時代とともに大きく変化しており、また、野生生物についての新たな知見も得られたことから、内容の見直しが必要となりました。

そこで、2019～2021年度にかけて、自然情報調査と合わせ、国、県、大学、関係機関等に働きかけて生物情報資料・文献の収集を行いました。

そして、これらに基づいて2022年度に岐阜市版レッドリストに掲載すべき各分類群の野生生物について、絶滅のおそれの程度でランク付けしたリスト(レッドリスト)の見直しとともに、従前のレッドリストの改訂を進め、今回、改訂版の岐阜市版レッドデータブックとしてとりまとめました。

(2) レッドリスト見直しの体制

岐阜市版レッドデータブックの改訂にあたり、岐阜市に生育・生息する野生動植物について、専門家で構成する「専門調査部会」を設置し、レッドリスト候補種の選定を行いました。

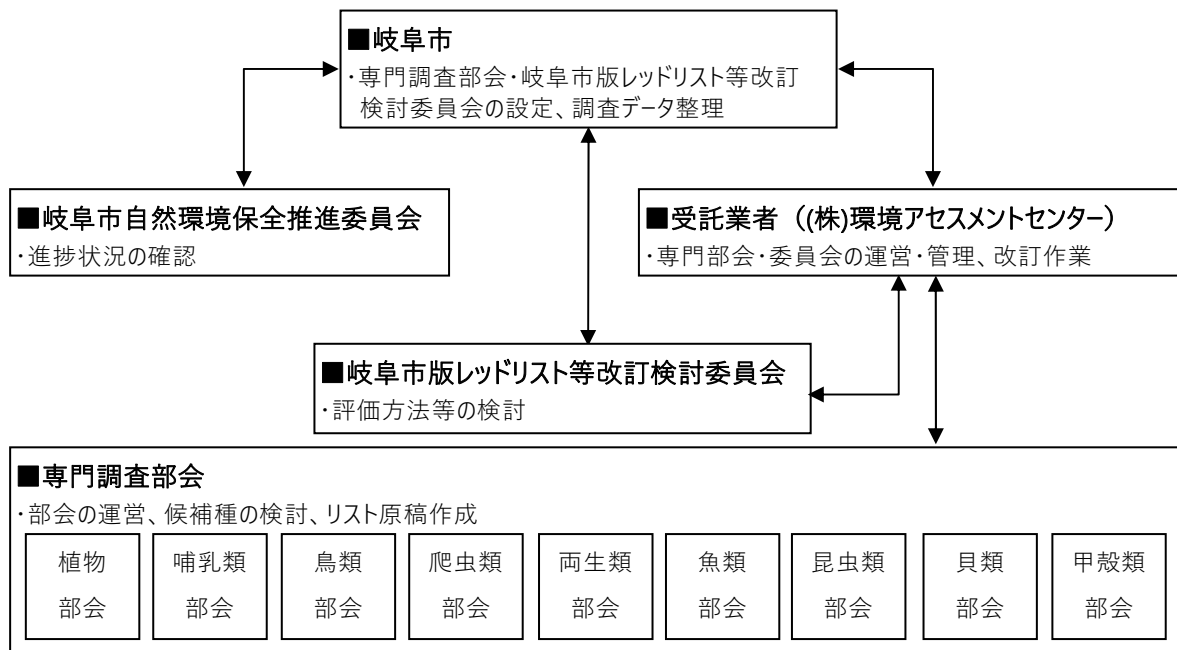
さらに6名からなる岐阜市版レッドリスト等改訂検討委員会（以下、改訂検討委員会）が評価方法等について検討しました。

また、改訂検討委員会の進捗状況は、岐阜市自然環境保全推進委員会へ報告し、承認を得ながら作業を進めました。

専門調査部会・岐阜市版レッドリスト等改訂検討委員会

分野等	委員名	所属
植物	近藤慎一	岐阜県植物研究会 会員
哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会 会員
鳥類	◎ 大塚之稔	日本野鳥の会 岐阜 顧問
爬虫類	● 楠田哲士	岐阜大学応用生物科学部 准教授
両生類	高木雅紀	岐阜県立大垣北高等学校 教諭
魚類	兼 寺町 茂	水圏域研究会、岐阜県自然共生工法研究会 理事
昆虫類	● 野平照雄	岐阜県昆虫分布研究会 会員、一般財団法人 自然学総合研究所
貝類	● 川瀬基弘	愛知みずほ大学 人間科学部 准教授
甲殻類	兼 寺町 茂	水圏域研究会、岐阜県自然共生工法研究会 理事
自然環境全般	○ 田中俊弘	岐阜県生物多様性研究会
自然環境全般	● 野村典博	特定非営利活動法人 森と水辺の技術研究会

注) ◎・○・●：検討委員会（◎：検討委員長 ○：検討副委員長 ●検討委員）、兼：他分類群との兼務



岐阜市版レッドリスト・ブルーリスト 改訂体制

(3) 改訂の経緯

岐阜市では、これまで2度に亘って自然環境に関する調査を実施し、それぞれ冊子として取りまとめ、その調査結果などを基に岐阜市版レッドリスト2015（以下、前回リスト2015）を作成しました。

今回、さらに現地調査と資料・文献収集を実施し、その結果を反映し、岐阜市版レッドデータブックを改訂しました。

■1996～1999 年度	・岐阜市自然環境実態調査の実施 『自然環境と保全 ー岐阜市自然環境実態調査報告ー』発刊
■2009～2013 年度	・岐阜市自然環境基礎調査の実施 ・国、県、大学、関係機関等に働きかけて生物情報資料・文献を収集 『岐阜市の自然情報 ～岐阜市自然環境基礎調査～』発刊
■2014 年度	・第1～3回検討委員会の実施 『岐阜市の注目すべき生きものたち 岐阜市版レッドリスト・ブルーリスト 2015』発刊
■2018～2021 年度	・岐阜市の自然情報調査の実施 ・国、県、大学、関係機関等に働きかけて生物情報資料・文献を収集



■2022 年度 ・第1～3回改訂検討委員会の実施 『岐阜市の注目すべき生きものたち 岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023』発刊
--

(4) 選定対象の分類群

評価対象は、岐阜市内に記録がある、または今回の調査で確認された野生生物とし、原則として外来種（国外・国内）は対象外としました。

また、レッドリスト選定対象分類群は、前回リスト2015での調査対象分類群である「植物(維管束植物)」「哺乳類」「鳥類」「爬虫類」「両生類」「魚類」「昆虫類」「貝類（軟体動物）」「甲殻類(十脚類)」の9分類群としました。

岐阜市版レッドリスト 選定対象の分類群

分類群	対象
植物(維管束植物)	維管束植物の種、亜種及び変種、品種を対象とした。
哺乳類	全種を対象とした。
鳥類	全種を対象とした。
爬虫類	全種を対象とした。
両生類	全種を対象とした。
魚類	全種を対象とした。ただし、水産資源上の管理等が優先する種については、野生生物としての評価対象から除外した。
昆虫類	トンボ目、バッタ目、チョウ目、コウチュウ目及びカメムシ目（水生種）を対象とした。
貝類（軟体動物）	陸域・淡水域に生息するものを対象とした。
甲殻類（十脚類）	全種を対象とした。

(5) レッドリスト掲載種の選定要件

これまでに岐阜市では、上記の 9 分類群で、計5,809種の生育・生息記録があります。

今回のレッドリスト掲載種の選定にあたり、岐阜市内に生育・生息記録のあるこれら種のうち、次に示す選定理由により絶滅が危惧される種をレッドリスト掲載種として選定しました。

岐阜市版レッドリスト 掲載種の選定基準

No.	選定基準	
A	分布限界	北限や南限など、生育・生息地が分布の限界になっている。
B	希少	個体数が少ない、または減少している。
C	特殊環境	特定の環境や、小規模の開発によっても影響を受けやすい環境に生育・生息している。
D	特異生態	特異な生態のため、環境変化の影響を受け易い。
E	環境改変	開発行為あるいは放置により、生育・生息環境が減少・消失している。
F	営利目的	採集・捕獲などにより個体数が減少している。
G	外来種の影響	外来種による捕食や生育・生息環境の競合などにより、個体数が減少している。

(6) カテゴリー定義

岐阜市版レッドリストでは、その絶滅の可能性により対象種をカテゴリー区分しました。

カテゴリー定義については、前回リスト2015を踏襲し、次に示す定性的要件により整理しました。

なお、前回リスト2015からカテゴリー変更があった種については、変更コードを記録しました。

岐阜市版レッドリスト カテゴリー定義

区分	基本理念	定性的要件
絶滅	市内では、すでに絶滅したと考えられる種。	過去に市内に生育・生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。
野生絶滅	市内において、飼育・栽培下でのみ存続している種。	過去に市内に生育・生息したことが確認されており、飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態では存続しているが、市内において本来の自然の生育・生息地ではすでに絶滅したと考えられる種。
絶滅危惧Ⅰ類	市内において、絶滅の危機に瀕している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	市内において次のいずれかに該当する種。 ①既知の全ての個体群で、危機的水準にまで個体数が減少している。 ②既知の全ての生息地で、生育・生息要件が著しく悪化している。 ③既知の全ての個体群でその再生産能力を上回る捕獲・採取圧あるいは被食圧を受けている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種、または生態的に優越すると考えられる別種が侵入している。 ⑤生育・生息地面積や成熟個体数について、継続的な減少が予測されるあるいは、極度の減少が見られる。 ⑥それほど遠くない過去(約30年～50年)の生息記録以降確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
絶滅危惧Ⅱ類	市内において、絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	市内において次のいずれかに該当する種。 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生育・生息地で生育・生息要件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧あるいは被食圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種または生態的に優越すると考えられる別種が侵入している。
準絶滅危惧	市内において、存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	市内において次のいずれかに該当する種。 生息状況の推移からみて、種の存続への圧迫が強まっていると判断されているもの。具体的には分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 ②生育・生息条件が悪化している。 ③過度の捕獲・採取圧あるいは被食圧による圧迫を受けている。 ④交雑可能な別種、または生態的に優越すると考えられる別種が侵入している。
情報不足	市内において、評価するだけの情報が不足している種。	ランクを判定するに足る情報はないが、次のいずれかに該当する種。 ①どの生育・生息地においても生育・生息密度が低く希少である。 ②生育・生息地が局限されている。 ③生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等)。 ④生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。

岐阜市版レッドリスト 変更コード

No.	ランクアップ・新規
1	生息環境が限定される（含む宿主依存）
2	繁殖力がきわめて弱い
3	外敵の分布、食害が拡大している
4	新たに確認され絶滅危険度が高い
5	確認が容易な種だが確認記録がない
6	生息地が消失した
7	研究等の新知見で急性性が示唆された
8	新種記載され1種が複数種に細分化された
9	その他
No.	ランクダウン・削除
10	絶滅したと考えられたが再発見された
11	個体数が多いことが確認された
12	個体数の増加傾向がみられる
13	新産地の確認数が増加している
14	信頼性のある確認記録・標本がない
15	岐阜市内では外来個体群に該当する
16	近年記録がなかった種が確認された
17	その他

(7) レッドリスト見直しの結果総括

■ 岐阜市版レッドリスト掲載種数

これまでに岐阜市では5,809種の動植物の生育・生息が記録されており、今回のレッドリストでは、そのうちの420種（7.2％）を選定しました。

岐阜市内で生育・生息記録がある種のうち、植物については1,772種のうち268種（15.1％）、動物については4,037種のうち152種（3.8％）を選定しました。分類群ごとでは、哺乳類：10種（28.6％）、鳥類：24種（9.4％）、爬虫類：6種（27.3％）、両生類：11種（68.8％）、魚類：27種（36.5％）、昆虫類：28種（0.8％）、貝類：42種（37.2％）、甲殻類：4種（44.4％）という内訳です。

レッドリスト2015と比較して、植物、魚類の掲載種数は減少していますが、これは調査の進捗により、多くの個体が確認されたことや、魚類については、水産上の管理があるものを除外したことなどが主な要因です。その他の分類群は概ね同数かやや増加しています。また、両生類、貝類などは絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅰ類・絶滅危惧Ⅱ類）の種数は増加しています。

カテゴリー別 レッドリスト掲載種数一覧

カテゴリー	植物	動物								合計	
		哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	貝類	甲殻類		
絶滅	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	
野生絶滅	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	
絶滅のおそれのある種	絶滅危惧Ⅰ類	50 (72)	2 (2)	7 (8)	0 (0)	5 (1)	7 (7)	3 (3)	13 (8)	0 (0)	87 (101)
	絶滅危惧Ⅱ類	75 (100)	0 (0)	8 (4)	1 (0)	1 (2)	5 (7)	8 (8)	12 (9)	1 (2)	111 (132)
準絶滅危惧	109 (101)	8 (8)	9 (10)	1 (1)	2 (2)	8 (17)	8 (8)	11 (16)	2 (2)	158 (165)	
情報不足	33 (35)	0 (0)	0 (0)	4 (5)	3 (6)	6 (4)	8 (5)	6 (9)	1 (0)	61 (64)	
合計	268 (309)	10 (10)	24 (22)	6 (6)	11 (11)	27 (36)	28 (25)	42 (42)	4 (4)	420 (465)	

岐阜市内での生育・生息記録種数	1,772 (1,541)	35 (35)	254 (238)	22 (16)	16 (16)	74 (67)	3,514 (3,358)	113 (101)	9 (8)	5,809 (5,381)
レッドリスト掲載種の割合（％）	15.1 (20.1)	28.6 (28.6)	9.4 (9.6)	27.3 (37.5)	68.8 (68.8)	36.5 (53.7)	0.8 (0.7)	37.2 (41.6)	44.4 (50.0)	7.2 (8.6)

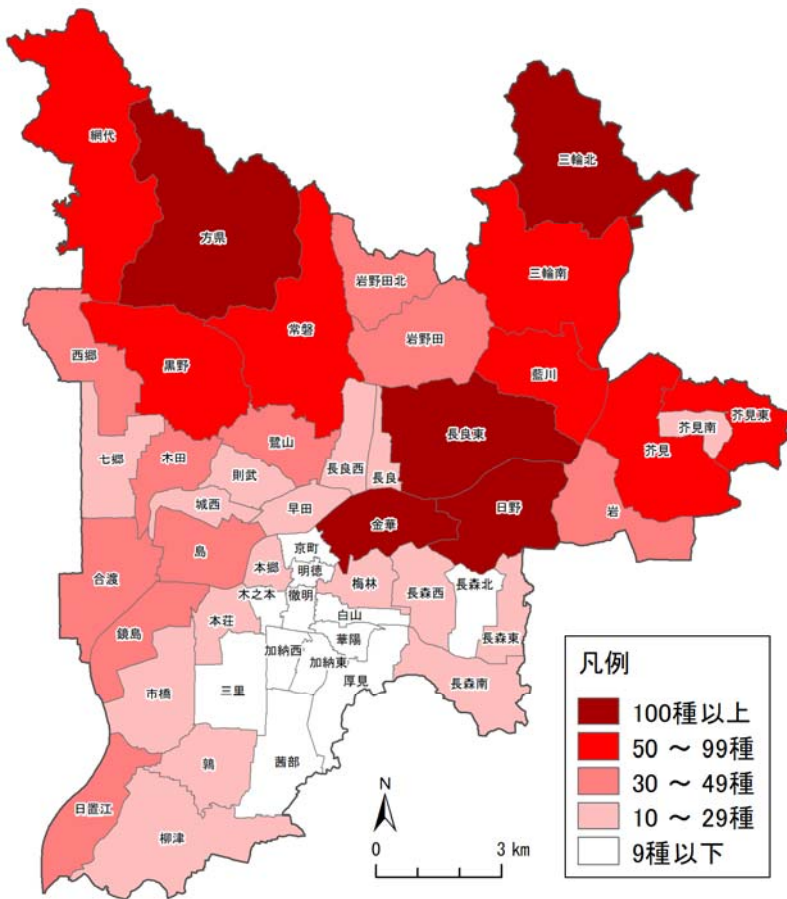
新規	7	0	4	1	0	3	3	2	0	20
変更	85	0	5	1	6	1	0	9	1	108
削除	48	0	2	1	0	12	0	2	0	65

（ ）は前回リスト2015の種数を示す

■地区別の記録種数等

岐阜市では、自治会連合会を基準に、市域を50の地区に区分しています。この地区ごとにレッドリスト掲載種の分布状況を見ると、北部の里山環境が残されている地区では、レッドリスト掲載種が多く記録されていることがわかります。

特に、金華、日野、長良東、方県、三輪北の5地区でレッドリスト掲載種が100種以上となっています。また、それらに隣接する網代、常磐、芥見東、三輪南、芥見、黒野、藍川の各地区でも50種以上の記録があります。



この図は、これまでの調査データに基づき、レッドリスト掲載種について、詳細な確認地点がわかるデータから作成しました。なお、分類群によっては対象種を絞って調査を行っているため、全てのレッドリスト掲載種の正確な分布を示すものではありません。

地区別レッドリスト掲載種記録種数

地区名	絶滅	野生絶滅	絶滅 I類	絶滅 II類	準絶滅 危惧	情報 不足	合計
金華	0	0	22	39	77	33	171
日野	0	0	21	46	79	9	155
長良東	0	0	18	30	66	6	120
方県	1	0	18	28	60	12	119
三輪北	0	0	15	25	51	12	103
網代	0	0	12	21	56	10	99
常磐	0	0	22	24	41	8	95
芥見東	0	0	18	22	36	4	80
三輪南	0	1	7	19	37	5	69
芥見	0	0	9	13	38	7	67
黒野	1	0	16	15	22	7	61
藍川	0	0	5	20	31	4	60
合渡	0	0	7	11	26	5	49
岩	0	0	6	9	27	5	47
岩野田北	0	0	8	8	19	3	38
日置江	0	0	5	13	16	4	38
鏡島	0	0	8	10	14	4	36
岩野田	1	0	6	6	16	4	33
西郷	0	0	5	5	17	6	33
木田	0	0	6	10	12	4	32
鷺山	0	0	5	9	14	3	31
島	0	0	4	9	13	5	31
市橋	0	0	4	8	12	3	27
長良	0	0	3	4	17	0	24
梅林	0	0	4	9	10	0	23
柳津	0	0	5	4	10	1	20
七郷	0	0	3	4	7	5	19
長森西	0	0	1	6	11	1	19
長森南	0	0	0	7	8	4	19
長良西	0	0	2	2	13	2	19
早田	0	0	4	1	9	3	17
本郷	0	0	2	5	9	1	17
則武	0	0	3	4	5	4	16
鶉	0	0	2	5	5	3	15
芥見南	0	0	4	6	4	0	14
城西	0	0	0	3	7	1	11
長森東	0	0	0	5	5	1	11
本荘	0	0	5	2	3	0	10
厚見	0	0	0	2	4	3	9
京町	0	0	2	1	5	0	8
三里	0	0	1	1	4	2	8
茜部	0	0	0	0	5	1	6
長森北	0	0	0	3	3	0	6
明德	0	0	1	2	2	0	5
徹明	0	0	1	1	0	2	4
加納東	0	0	2	0	1	0	3
華陽	0	0	0	0	2	1	3
加納西	0	0	2	0	0	0	2
白山	0	0	1	0	1	0	2
木之本	0	0	0	0	0	0	0

レッドリスト掲載種記録種数の分布状況

(8) 岐阜市版レッドリスト

■植物 268種 (1/2)

カテゴリー	種名		
絶滅 1種	ジュンサイ		
野生絶滅	該当なし		
絶滅危惧Ⅰ類 50種	ミズシロ ヒメコウホネ ヘラオモダカ コウガイモ ギンラン セッコク ホシクサ ミズタカモジ カザグルマ バイカモ ミヤコミズ ハルリンドウ スズサイコ オオアブノメ ヒメサルダヒコ ミズトラノオ スイラン	メヤブソテツ ヒツジグサ スプタ アマナ キンラン サギソウ イトイヌノヒゲ ヤマエンゴサク クサボタン チダケサシ モウセンゴケ イヌセンブリ ヤマルリソウ イヌノフグリ ラショウモンカズラ イヌタヌキモ サワギク	オグラコウホネ ウラシマソウ ヤナギスプタ ムギラン サイハイラン ミヤマナルコユリ カンガレイ ヘビノボラス トウゴクサバノオ タヌキマメ ジュズネノキ アイナエ イワタバコ シモバシラ ミズネコノオ タヌキモ
絶滅危惧Ⅱ類 75種	クジャクシダ ビロードシダ フタリシズカ オオハンゲ エビネ アキザキヤツシロラン コケイラン キツネノカミソリ クロヒナスゲ オガルカヤ ヤマグルマ アカショウマ ツメレンゲ カワラサイコ エイザンスミレ ツルシキミ ヒロハコロンソウ シロバナサクラタデ アオハコベ ギンレイカ センブリ ニシキゴロモ ママコナ タウコギ センボンヤリ	カミガモシダ マツブサ シデコブシ ホッスモ ツチアケビ オノノヤガラ ノハナショウブ シロイヌノヒゲ フトイ マツモ ヤブサンザシ ツルネコノメソウ ホドイモ ヤマモモ ヒカゲスミレ ヒシ ユリワサビ サデクサ ヒメウツギ ベニドウダン ハダカホオズキ ヒメナミキ サワギキョウ リュウノウギク ウグイスカグラ	ヘラシダ ヒトリシズカ ニッケイ コオニユリ カキラン エンシュウムヨウラン カキツバタ オニスゲ コマツカサススキ ニリンソウ トリアシショウマ ナメラダイモンジソウ ヒメハギ ミヤマカタバミ ヒメオトギリ ヤマハタザオ ハタザオ ホソバナウナギツカミ ウラジロウツギ ギンリョウソウモドキ シソクサ ツルニガクサ キキョウ ヤマニガナ オミナエシ
準絶滅危惧 109種	ミズスギ オウセベニシダ フトヒルムシロ カタクリ カヤラン アマドコロ ウマスゲ ヒメコヌカグサ トウササクサ イブキザサ ヒメレンゲ コゴメウツギ ワレモコウ ケンボナシ イチイガシ	ウチワゴケ シロモジ シライトソウ クロヤツシロラン アヤメ ニッポンイヌノヒゲ オオハライ ヒメノガリヤス コメガヤ ミヤマキケマン ジャケツイバラ ワタゲカマツカ トウグミ カテンソウ カワラハンノキ	ホソバカナワラビ アギナシ チゴユリ トンボソウ ナルコユリ マツパスゲ ノテンツキ チョウセンガリヤス ミヤコザサ オノマンネングサ タンキリマメ ミヤマフユイチゴ アキグミ クヌギ ゴキツル

■植物 (2/2)

カテゴリー	種 名			
準絶滅危惧	ヤマアイ シロバナオオタチツボスミレ ミズユキノシタ ツタウルシ マツカゼソウ ニガキ ミズタガラシ ネバリタデ ミヤマハコベ ツリフネソウ アブラツツジ マルバナホロシ ナギナタコウジュ ヒメシロネ クチナシグサ ミヤマヨメナ サワアザミ オグルマ シロバナタンポポ オオカメノキ ハリギリ ムカゴニンジン	シラキ スミレサイシン ミツバウツギ エンコウカエデ コクサギ ヤマガラシ カナビキソウ フシグロ タマアジサイ リュウキュウマメガキ ヒカゲツツジ サワトウガラシ ヒキオコシ ウツボグサ ヌマダイコン センダングサ ヤクシソウ ナガバノコウヤボウキ サワオグルマ ツルカノコソウ シャク	オノエヤナギ ヒメアギスミレ キブシ コハウチワカエデ キハダ ジャニンジン タニソバ サワハコベ ヤマアジサイ マタタビ オオアリドオシ スズメノハコベ コシロネ タツナミソウ イヌヨモギ ヤブタバコ フジバカマ メナモミ ソクズ オオバチドメ ウシミツバ	
情報不足	33種	イヌスギナ ナガバノイタチシダ* オオヤマレンゲ マメヅタラン オキナワジュズスゲ* ウシノシツパイ* サンショウソウ ハナノキ ウナギツカミ ヒトツバタゴ キセワタ	コハナヤスリ ホノノカワシダ* イヌガシ ウスキムヨウラン* オオアオスゲ タチモ シロスミレ マツグミ ヌカボタデ シオジ オケラ	トキワシダ ミヤマウラボシ ヒルムシロ クロホシクサ ウンヌケモドキ* クサフジ ヒメビシ ナガバノウナギツカミ* マメダオシ ツルカコソウ オナモミ

■哺乳類 10種

カテゴリー	種 名		
絶滅	該当なし		
野生絶滅	該当なし		
絶滅危惧Ⅰ類	2種	ヤマコウモリ	ヒナコウモリ
絶滅危惧Ⅱ類	該当なし		
準絶滅危惧	8種	ニホンリス カヤネズミ コキクガシラコウモリ	ムササビ ニホンジネズミ キクガシラコウモリ
情報不足	該当なし		
			ハタネズミ ヒミズ

■鳥類 24種

カテゴリー	種 名		
絶滅	該当なし		
野生絶滅	該当なし		
絶滅危惧Ⅰ類	7種	ヨタカ タマシギ トラツグミ	ヒメアマツバメ コアジサシ シロチドリ セッカ
絶滅危惧Ⅱ類	8種	ゴイサギ* バン ハヤブサ*	ササゴイ ハチクマ コサメビタキ ヒクイナ* サンバ
準絶滅危惧	9種	ヤマドリ イカルチドリ サンショウイ	カイツブリ オオタカ サンコウチョウ コサギ* アオバズク オオルリ
情報不足	該当なし		

* : 前回リスト2015から新規に追加した種

■爬虫類 6種

カテゴリー	種 名		
絶滅	該当なし		
野生絶滅	該当なし		
絶滅危惧Ⅰ類	該当なし		
絶滅危惧Ⅱ類	1種	ニホンイシガメ	
準絶滅危惧	1種	シマヘビ*	
情報不足	4種	ニホンスッポン ジムグリ	タカチホヘビ シロマダラ

■両生類 11種

カテゴリー	種 名		
絶滅	該当なし		
野生絶滅	該当なし		
絶滅危惧Ⅰ類	5種	ヤマトサンショウウオ ニホンアカガエル	アカハライモリ ヤマアカガエル アズマヒキガエル
絶滅危惧Ⅱ類	1種	ナゴヤダルマガエル	
準絶滅危惧	2種	オオサンショウウオ モリアオガエル	
情報不足	3種	タゴガエル	ツチガエル カジカガエル

■魚類 27種

カテゴリー	種 名		
絶滅	該当なし		
野生絶滅	1種	ウシモツゴ	
絶滅危惧Ⅰ類	7種	ニホンウナギ カワバタモロコ トウカイヨシノボリ	イチモンジタナゴ デメモロコ シロヒレタピラ ハリヨ
絶滅危惧Ⅱ類	5種	スナヤツメ北方種 ウツセミカジカ	スナヤツメ南方種 カマキリ (アユカケ) ヤリタナゴ
準絶滅危惧	8種	アブラボテ ホトケドジョウ ドンコ	カワヒガイ アカザ シマヨシノボリ ニシシマドジョウ スズキ
情報不足	6種	ナガレカマツカ* アシシロハゼ	カワアナゴ スミウキゴリ* マハゼ ボウズハゼ*

■昆虫類 28種

カテゴリー	種 名		
絶滅	1種	シルピアシジミ (日本亜種)	
野生絶滅	該当なし		
絶滅危惧Ⅰ類	3種	アオハダトンボ	ベニイトトンボ アオヤンマ
絶滅危惧Ⅱ類	8種	ホンサナエ ヒメタイコウチ ツマグロキチョウ	キイロヤマトンボ タガメ コクロオバボタル ミドリシジミ
準絶滅危惧	8種	モートンイトトンボ マイコアカネ トラフカミキリ	ナゴヤサナエ クロゲンゴロウ ウラギンスジヒョウモン トラフトンボ ペーヅヒラタカミキリ
情報不足	8種	オグマサナエ コオイムシ* ゴマフツトガ	クツムシ ヨツボシカミキリ エソスジトウ タイコウチ* スゲハムシ*

* : 前回リスト2015から新規に追加した種

■貝類（軟体動物） 42種

カテゴリー	種 名		
絶滅	該当なし		
野生絶滅	該当なし		
絶滅危惧Ⅰ類 13種	ミナミタガイ カタハガイ イボイボナメクジ レンズガイ ヤマタカマイマイ	オバエボシガイ イシガイ キセルモドキ クチベニマイマイ	ヨコハマシジラガイ* ミズコハクガイ* ナタネキササナギ ミノマイマイ（クロイワマイマイ亜種）
絶滅危惧Ⅱ類 12種	ササノハガイ オオタニシ ナミギセル ヒラベッコウ	マツカサガイ東海固有種 クロダカウニナ タカキビ ヤマナメクジ	ヌマガイ ミジンナタネ ヒゼンキビ コベソマイマイ
準絶滅危惧 11種	キュウシュウゴマガイ ニホンケシガイ ヒメカサキビ オトメマイマイ	マルタニシ ナガオカモノアラガイ コオオベソマイマイ ヒルゲンドルフマイマイ	ヒラマキミズマイマイ ウメムラシタラ ケハダピロウドマイマイ
情報不足 6種	カラスガイ コシダカヒメモノアラガイ	カワシンジユガイ ヒメオカモノアラガイ	マシジミ ピロウドマイマイ属の一種

■甲殻類（十脚類） 4種

カテゴリー	種 名	
絶滅	該当なし	
野生絶滅	該当なし	
絶滅危惧Ⅰ類	該当なし	
絶滅危惧Ⅱ類 1種	ミゾレヌマエビ	
準絶滅危惧 2種	サワガニ	モクスガニ
情報不足 1種	ヌカエビ	

*：前回リスト2015から新規に追加した種

(9) 前回リストから削除した種

専門調査部会による検討の結果、次に示す種を削除対象としました。

岐阜市版レッドリスト2015から削除した種

分類群	前回 カテゴリー	種名	変更 コード	削除理由	
植物	絶滅危惧Ⅰ類	ムカゴイラクサ	11,12,13	個体数が多い、増加傾向、新産地の確認数増加	
		48種	絶滅危惧Ⅱ類		コチャルメルソウ
	ナガバノスミレサイシン				
	絶滅危惧Ⅱ類	キツリフネ	11,12,13	個体数が多い、増加傾向、新産地の確認数増加	
		アケボノソウ			
	絶滅危惧Ⅱ類	イヌゴマ	11,12,13	個体数が多い、増加傾向、新産地の確認数増加	
		48種			準絶滅危惧
	クサソテツ				
	イヌガヤ				
	アブラチャン				
	カゴノキ				
	ノカンゾウ				
	ナガエミクリ				
	ヒメガマ				
	ホソイ				
	クロカワズスゲ				
	サンカクイ				
	イヌアワ				
	ムベ				
	マンサク				
	ミカワチャルメルソウ				
	カワラケツメイ				
	テリハノイバラ				
	クサイチゴ				
	スダジイ				
	キカラスウリ				
	ナガバタチツボスミレ				
	ミズマツバ				
	ワサビ				
	ミズキ				
	ガクウツギ				
	カラタチバナ				
	クロミノニシゴリ				
	リンドウ				
	アオダモ				
	ミゾコウジュ				
	タラヨウ				
	タニギキョウ				
	カワラハハコ				
	カワラヨモギ				
	タニウツギ				
	ツボクサ				
	情報不足	情報不足	ヒメイトラノオ	14	信頼性のある確認記録・標本がないため
			キケマン		
			カシワ		
			ノウルシ		
			イシモチソウ		
	ガガブタ				

岐阜市版レッドリスト2015から削除した種

分類群	前回 カテゴリー	種 名	変更 コード	削除理由	
鳥類 2種	絶滅危惧Ⅱ類	コシアカツバメ	11	個体数が多いことが確認されたため	
	準絶滅危惧	フクロウ	11	個体数が多いことが確認されたため	
爬虫類 1種	情報不足	クサガメ	11,12,13,17	国内外来種と考えられる場所が増加、外来種の可能性があるため	
魚類 12種	絶滅危惧Ⅱ類	アマゴ（サツキマス）	17	水産資源上の管理等が優先し、放流個体との区別が困難であるため	
	準絶滅危惧	ヌマムツ	11	個体数が多いことが確認されたため	
		タカハヤ			
		イトモロコ			
		トウカイコガタスジシマドジョウ			
			ナマズ	12	個体数の増加傾向がみられるため
			アユ	17	水産資源上の管理等が優先し、放流個体との区別が困難であるため
			ボラ	11	個体数が多いことが確認されたため
			ウキゴリ		
			ゴクラクハゼ		
		ヌマチチブ			
	情報不足	コイ（野生種）	17	水産資源上の管理等が優先し、放流個体との区別が困難であるため	
貝類 2種	絶滅危惧Ⅱ類	ヒメマルマメタニシ	15	岐阜市内では外来個体群に該当するため	
	情報不足	モノアラガイ	11	モノアラガイとして記録されていたものはナデガタモノアラガイであり、生息地及び個体数が多いことが確認されたため	

2.2 各論

(1) 植物

岐阜市内で生育記録があるシダ植物以上の維管束植物は1,772種であり、今回は、そのうちの268種（15.1%）を選定しました。

カテゴリー別にみると、絶滅はジュンサイの1種、絶滅危惧Ⅰ類はヒメコウホネ、カザグルマ、シモバシラなど50種、絶滅危惧Ⅱ類はシデコブシ、ニリンソウ、キキョウなど75種、準絶滅危惧はカタクリ、ワレモコウ、ミズタガラシなど109種、情報不足はヒルムシロ、ハナノキ、オナモミなど33種で、野生絶滅に該当する種はありませんでした。

絶滅種として挙げられたジュンサイは、「自然環境と保全 岐阜市自然環境実態調査報告」(2000岐阜市)によると、かつては三田洞に生育していましたが、2000年時点では、すでに消失していたとされています。

岐阜市版レッドリスト2023に新たに掲載された種は、ナガバノイタチシダ、ホオノカワシダ、ウスキムヨウラン、オキナワジュズスゲ、ウンヌケモドキ、ウシノシッパイ、ナガバノウナギツカミなど7種で、2015年以降の調査で岐阜市内での生育が確認された種です。一方、岐阜市版レッドリスト2015で掲載されていたムカゴイラクサ、キツリフネ、アケボノソウなど48種は、個体数が多いことが確認されたことなどから除外しました。また、コチャルメルソウ、ナガバノスミレサイシンについては、信頼性のある確認記録・標本がないため除外しました。

和名及び学名、各カテゴリー内での配列は、「BG Plants植物和名-学名インデックス YList」(米倉・梶田, 2011) に準拠しました。なお、各種の概要等の参考とした文献については、巻末の「参考・引用文献」に記載しました。

選定種一覧（植物）

カテゴリー区分	種名	種数
絶滅	ジュンサイ	1種
野生絶滅	該当なし	—
絶滅危惧Ⅰ類	ミズニラ、ヒメコウホネ、アマナ、サギソウ、ミヤマナルコユリ、ヘビノボラズ、カザグルマ、モウセンゴケ、ハルリンドウ、イワタバコ、シモバシラ、ミズネコノオ、タヌキモ など	50種
絶滅危惧Ⅱ類	クジャクシダ、シデコブシ、コオニユリ、エビネ、ノハナショウブ、キツネノカミソリ、ニリンソウ、アカショウマ、ヒメハギ、ヒカゲスミレ、ヒシ、センブリ、キキョウ、オミナエシ など	75種
準絶滅危惧	チゴユリ、カタクリ、トンボソウ、ミヤコザサ、ヒメレンゲ、ワレモコウ、アキグミ、イチイガシ、スミレサイシン、キブシ、ツタウルシ、ミズタガラシ、ヤマアジサイ、フジバカマ など	109種
情報不足	ホオノカワシダ、オオヤマレンゲ、ヒルムシロ、マメヅタラン、ウシノシッパイ、シロスミレ、ハナノキ、ヒトツバタゴ、オナモミ など	33種
合計		268種

ジュンサイ

スイレン科

Brasenia schreberi

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> <変更コード> -

<種の概要> 水質が酸性に偏り、底に有機物の堆積が見られる比較的古い池に生育する多年生の水生植物。根茎は泥中を横走り、葉は水面に浮かぶ。葉身は楕円形で径5~10cm、裏面は紫色を帯びる。花期は6~8月。水面で開花し、花被片は紫褐色。粘質物に被われた若芽は、吸い物の具や酢の物として古くから賞味されている。

<分布> [市内] 岩野田で記録があった。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅
岐阜市2015（前回）：絶滅
環境省2020：-



撮影：佐藤克則(市外撮影)

ミズナラ

ミズナラ科

Isoetes japonica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 池沼や川底、湿地に生育するやわらかい夏緑性の水生シダ植物。葉は長さ10~30cmで4稜のある円柱状、先端はしだいに細くなる。葉の基部は広がって卵状となり、そのくぼみに1個の胞子嚢がある。大胞子の表面にはハチの巣状の模様がある。

<分布> [市内] 岩で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国(徳島県)、九州(鹿児島県)に分布。

<特記事項> 貧栄養の水域に生育するが、開発等による直接的な影響や、富栄養化に伴う他の植物との競争により、生育場所を失っている。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：大塚英樹

メヤブソテツ

オシダ科

Cyrtomium caryotideum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 常緑性のシダ植物で、葉は頂羽片の発達する単羽状複生。長さは50cmに達することがある。側羽片は2~6対で短い柄があり、頂羽片共に革質。辺縁には鋭鋸歯がある。胞子嚢群は葉裏に多数散在し、胞膜は灰白色で、辺縁は不規則な鋸歯縁となる。

<分布> [市内] 合渡、鏡島で記録がある。
[県内] 平野部を除いてほぼ全域に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：則行雅臣(市外撮影)

オグラコウホネ

スイレン科

Nuphar oguraensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 浅い池や沼に生育する多年生の水生植物。水上葉は広卵形、長さ5~10cm、幅4~6cm、裏面に毛がある。花期は7~10月。花卉は黄色、径3~4cm。

<分布> [市内] 黒野、方県で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(中部以西)、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：岐阜市

ヒメコウホネ

スイレン科

Nuphar subintegerrima

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 湖沼、ため池、河川の淀みなどに生育する多年生の浮葉植物。地下茎で広がる。沈水葉は広卵形で薄い膜質。浮葉と抽水葉は広卵形～円心形で革質。花期は5～10月、花は径2.5～4cmで黄色。花弁と思われるものは萼であり、花弁はその内側の萼状のものである。

<分布> [市内] 金華、三輪南、日野で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：平田 亨

ヒツジグサ

スイレン科

Nymphaea tetragona

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 古い池や沼に生育する多年生の浮葉植物。太短い塊状の根茎から葉を根生する。沈水葉は薄く幅広い矢じり形～半円形で、浮葉は革質の楕円形～卵形で基部は深く切れ込む。花期は6～11月。径3～7cmで多数の白色の花弁からなる。

<分布> [市内] 芥見、芥見南、網代で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：岐阜市

ウラシマソウ

サトイモ科

Arisaema thunbergii subsp. *urashima*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 平地から低山地の原野、林縁、林中に生育する多年草。球茎は偏球形で、多数の子球を付ける。偽茎は葉柄より短い。葉は1～2個、鳥足状に11～17枚の小葉を付ける。小葉は狭倒卵形、長楕円形または狭卵形。花期は4～5月。花序は葉よりも下に位置する。仏縁苞の特に内面は濃紫色で白条があり、筒部は白色を帯びて淡紫褐色。付属体は下部で膨らみ、しだいに細くなって、先は長く糸状に伸び、長さ60cmにもなる。

<分布> [市内] 市内の数カ所で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道(日高、渡島)、本州、四国、九州(佐賀県)に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ハラオモダカ

オモダカ科

Alisma canaliculatum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 水田や浅い池に生育する多年草。葉は根生し、葉柄がある。葉身は披針形で全縁、長さ10～30cm、幅2～4cm、基部は次第に細くなり葉柄につづく。花期は8～10月。直立する花茎を出し、高さ40～130cmにもなる。花茎は3個ずつの枝を輪生し、さらに3個ずつの小枝を輪生する。これを繰り返すことで、先端に多数の両性花を付ける。花弁は3個、卵円形で白色。

<分布> [市内] 日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：則行雅臣(市外撮影)

スプタ

トチカガミ科

Blyxa echinosperma

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 水田や溝などに生育する一年生の沈水植物。葉は根生し株状となる。葉は線形で紫褐色を帯び、長さ10~30cm、幅5~8mm、先は次第に細くなり、縁に細かい鋸歯がある。花期は8~10月。花柄は葉腋から水面上に伸び、苞鞘は円筒形、3枚の細い白色の花弁を持つ花を付ける。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：大塚英樹

ヤナギスプタ

トチカガミ科

Blyxa japonica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 水田や溝などに生育する一年生の沈水植物。茎は水中に伸長・分枝し植物体の長さは30cmにも達する。葉は互生し線形で紫褐色を帯び、長さ3~5cm、幅1.5~2mm、先は次第に細くなり、縁に細かい鋸歯がある。花期は7~10月。花柄は葉腋から水面上に伸び、苞鞘は円筒形、3枚の細い白色の花弁を持つ花を付ける。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

コウガイモ

トチカガミ科

Vallisneria denseserrulata

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 平地の湖沼、河川、水路に生育する多年生の水中植物。葉は根生し線形(リボン状)で長さ10~60cm、幅5~11cm、縁には鋸歯がある。葉腋からは走出枝を伸ばし、先端に新苗を付ける。花期は8~10月。雌雄異株で雌株は直径1mmほどの花柄を水面近くまで長く伸ばし雌花を水面に浮かべる。雄花は葉の基部から数cm伸びた花茎の先の苞鞘に多く詰まっている。

<分布> [市内] 合渡で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州・九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

アマナ

ユリ科

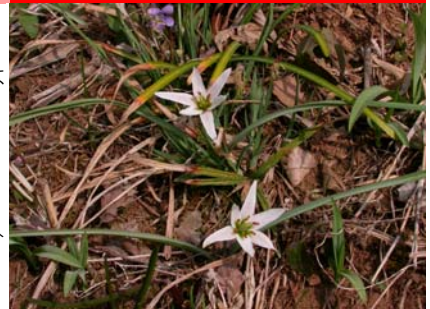
Amana edulis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 原野に生育する多年草。外皮鱗茎は広卵形で長さ3~4cm。葉は線形で花茎の下部に2個付き、それ以下は地中にあるので、根出葉のように見える。花期は3~5月。花茎は高さ15~20cm、先に白色で暗紫色の脈がある1花が付く。

<分布> [市内] 金華、長良、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(福島県以南、石川県以西)、四国、九州、奄美大島に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：則行雅臣(市外撮影)

ムギラン

ラン科

Bulbophyllum inconspicuum

<選定理由> B,C,D,E,F <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 常緑樹林内の樹上や岩上に着生する多年草。根茎は横に這い、まばらに偽球茎をつけ、その先端に1葉を付ける。葉は肉質で厚く、長さ1~3cm、幅6~8mmで円頭。花期は6~7月。偽球茎の基部から花茎を出し、帯黄白色の花を1個付ける。

<分布> [市内] 岩野田北で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(関東以西)~九州に分布。

岐阜市2023: 絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回): 絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020: 準絶滅危惧



撮影: 佐藤克則(市外撮影)

ギンラン

ラン科

Cephalanthera erecta

<選定理由> B,C,D,E,F <定性的要件> ①②④ <変更コード> 6

<種の概要> 山地樹林下に生育する多年草。茎は直立し、高さ10~30cm。葉は3~6個で互生、狭長楕円形で長さ3~8cm、幅1~3cm、鋭尖頭、基部は茎を抱く。花期は5~6月。白色の数花を付ける。

<分布> [市内] 市内の数カ所で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州~九州に分布。

岐阜市2023: 絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回): 絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020: -



撮影: 近藤慎一(市外撮影)

キンラン

ラン科

Cephalanthera falcata

<選定理由> B,C,D,E,F <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 山地や丘陵地の疎林下に生育する多年草。茎は直立して高さ30~70cm、稜線がある。葉は互生し広披針形、長さ8~15cm、幅2~4cm、先端は尖り基部は茎を抱く。花期は4~6月。黄色い花を3~12個付ける。

<分布> [市内] 市内の数カ所で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州~九州に分布。

岐阜市2023: 絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回): 絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020: 絶滅危惧Ⅱ類



撮影: 近藤慎一(市外撮影)

サイハイラン

ラン科

Cremastra appendiculata var. *variabilis*

<選定理由> B,C,D,E,F <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 山地の林床に生育する多年草。偽球茎は卵形。ふつう1個の葉を頂生する。葉は狭長楕円形、革質、長さ15~35cm、幅3~5cm、長鋭尖頭で基部は柄となる。花期は5~6月。花茎は高さ30~50cmで基部は鞘葉に包まれる。総状花序で10~20花をやや密に付ける。花は淡緑褐色で紅紫色を帯びる。和名は、花序が「采配」に似ていることによる。

<分布> [市内] 市内の数カ所で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 南千島、北海道~九州に分布。

岐阜市2023: 絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回): 絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020: -



撮影: 佐藤克則(市外撮影)

セッコク

ラン科

Dendrobium moniliforme

<選定理由> B,C,D,E,F <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 常緑樹林内の樹上や岩上に多数の根を出し着生する多年草。茎は束生し、高さ5～25cmで多数の節がある。葉は披針形で長さ4～7cm、2～3年生、互生し光沢がある。花期は5～6月。葉の落ちた節から細い花茎を出し、白色または淡紅色の花を1～2個付ける。甘い芳香がある。

<分布> [市内] 市内の数カ所で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～琉球に分布。

<特記事項> 「岐阜県野生生物保護条例」の指定希少野生生物。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

サギソウ

ラン科

Pecteilis radiata

<選定理由> B,C,D,E,F <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 日あたりの良い湿地に生育する多年草。前年の走出枝の先端に生じた円形の球茎から地上茎を出す。茎は高さ15～40cm。花期は7～8月。茎の上部に1～数個の白色の花を付ける。その姿は白鷺が舞うようで美しい。

<分布> [市内] 芥見東、三輪南で記録がある。
[県内] 県北部、西部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

<特記事項> 各種開発や山野草ブームなどにより、急激に減少している。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：岐阜市

ミヤマナルコユリ

クサシギガズラ科

Polygonatum lasianthum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②③⑤ <変更コード> -

<種の概要> 山地の林下に生育する多年草。根茎は肥厚し節間が短い。茎は高さ30～70cm、稜角があり、上部は斜上する。葉は互生し、卵形または長楕円形で、長さ6～10cm、裏面は粉白を帯びることが多い。花期は5～6月。花冠は白色。葉腋に花柄が斜上し、その頂から2～3の小花柄が垂れて花が付く。花筒は長さ15～20mm、先は6浅裂する。

<分布> [市内] 常磐で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：佐藤克則(市外撮影)

ホシクサ

ホシクサ科

Eriocaulon cinereum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 湿地あるいは乾いた水田などに生育する無茎の一年草。葉は束生し、線形で長さ3～8cm、下部の幅1～2mm。花期は8～9月。花茎は高さ4～15cmで、先端に径4mmほどの卵状球形の頭花を付ける。雄花は少数で花弁は3個、雌花は多数あり花弁はない。

<分布> [市内] 金華、岩で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 本州～琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：佐藤克則(市外撮影)

イトイヌヒゲ

ホシクサ科

Eriocaulon decemflorum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④⑤ <変更コード> -

<種の概要> 山地の湿地に生育する一年草。茎はごく短く、根出葉は線形で、長さ3~10cm、3~9脈があり、格子状になり先は著しく尖る。花期は8~9月。高さ5~30cmの花茎が出て、頂に頭花を付ける。頭花は倒円錐形で径3~7mm、白色。総苞片は卵状披針形で頭花より長く、緑白色。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

カンガレイ

カヤツリグサ科

Schoenoplectus triangulatus

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④⑤ <変更コード> -

<種の概要> 池沼、川岸の湿地に生育する多年草。茎は株立ちになって高さ50~120cm、鋭3稜形。花期は7~10月。花序は側生状で、無柄の小穂が4~20個集まって頭状をなす。小穂は長楕円形、長さ1~2cm、幅4~6mm、淡緑色または淡褐色で角ばらない。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：則行雅臣(市外撮影)

ミズタカモジ

イネ科

Elymus humidus

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④⑤ <変更コード> -

<種の概要> 水田跡などに生育する多年草。葉鞘の外縁はまったく無毛。茎はのちに倒れて地を這い、各節から新苗が出て、翌年の茎となって開花する。花期は5~7月。花穂は太くて直立し、小穂は圧着する。

<分布> [市内] 岩、三輪北で記録がある。
[県内] 県西部、中部、南部に分布。
[県外] 本州~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

ヤマインゴサク

ケシ科

Corydalis lineariloba

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②③⑤ <変更コード> -

<種の概要> 樹林地または開墾地に生育する多年草。全体に弱々しい。地下に径1~2cmの塊茎がある。茎は高さ10~20cm。葉は柄があり、1~3回3出複葉。小葉は長さ1~3cm、全縁または3裂する。花期は4~5月。花は青紫色。蒴果は広披針形または狭卵形で長さ10~13mm、幅2.5~4mm。

<分布> [市内] 長良東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ヘビノバラズ

メギ科

Berberis sieboldii

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④⑤ <変更コード> -

<種の概要> 小型の落葉低木で幹は高さ80cm程度。葉はやや革質、倒卵形ないし倒披針形、鋭頭ときにやや鈍頭、長さ3~9cm、幅1~2cm、先が刺状になった細かい鋸歯がある。花期は5月。短枝の先より垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色い花を付ける。果実はほぼ球形。赤色に熟し径約6mm。

<分布> [市内] 芥見東、芥見南で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(中部地方南西部・近畿地方)、九州(宮崎県)に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回)：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：近藤慎一(市外撮影)

カザグルマ

キンポウゲ科

Clematis patens

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ②③⑤ <変更コード> -

<種の概要> 林縁に生育する落葉性のつる植物。茎は褐色で木化する。葉は羽状複葉、小葉は3~5枚、卵形で先は尖るが鋸歯はない。1年目の枝に1~3対の葉をつけ、1個の花を頂生する。花期は5~6月。花は上向きに完全に開き、径7~12cm、花弁は無く、花弁に見えるのは萼である。萼が8枚で、淡紫色または白色。先端は急に尖る。湿り気の多い場所を好む。

<分布> [市内] 芥見、芥見東、芥見南で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州、四国、九州北部に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回)：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：近藤慎一(市外撮影)

クサボタン

キンポウゲ科

Clematis stans

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 山地の林縁や草地に生育する多年草。茎は直立して蔓にならず、高さ1mくらい。茎の下部は木化する。葉は長い柄があり、1回3出複葉。小葉は長さ4~13cm、ほぼ卵形で3浅裂し、先は鋭くとがり基部はくさび形~切形で不揃いな粗い鋸歯がある。花期は夏~初秋。茎の先端や葉腋に集散状の花序を生じ、しばしば集まって大きな円錐状となる。花弁は無く、萼が下向きの鐘状となり、先は反り返る。長さ1.2~2cm、多数付ける。外面は短い白毛を密生し、内面は淡紫色。

<分布> [市内] 長良東で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 本州~四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回)：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：佐藤克則(市外撮影)

トウゴクサバノオ

キンポウゲ科

Dichocarpum trachyspermum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 林内に生育する一年草~二年草。地下茎は発達せず、茎は高さ10~20cmで、基部に数枚の根出葉を束生する。茎葉は全て対生し、対になった葉の基部の鞘は合着する。頂小葉は広卵形~倒卵形で、しばしば3中裂し、鈍い鋸歯がある。花期は4~5月。花は全開せずやや垂れ下がって咲き、径6~8mm、淡黄緑色~白色。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部、南部に分布。
[県外] 本州(宮城県以南)、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回)：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

バイカモ

キンポウゲ科

Ranunculus nipponicus var. *submersus*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②③ <変更コード> -

<種の概要> 浅くてきれいな流水に生育する多年生の沈水植物。茎は長さ1～2mにもなり、節から根を出す。葉は3～4回3出し、裂片はさらに2分裂し全体的に房状になる。花期は6～8月。葉腋に単生し梅に似た白色の花を付ける。日本特産種。

<分布> [市内] 七郷、西郷で記録がある。
[県内] 県北部、中部、西部に分布。
[県外] 北海道と本州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：近藤慎一(市外撮影)

チダケサシ

ユキノシタ科

Astilbe microphylla

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④⑤ <変更コード> -

<種の概要> 明るい林床、林縁および山麓の草地に生育する。根茎は太く斜上する。葉は2回奇数羽状複葉～4回奇数羽状深裂。小葉は楕円形～倒卵形で長さ2～4cm、幅1～2cm、縁にやや不揃いの鋭い重鋸歯がある。花期は6～8月。花茎は高さ40～80cm。花は複総状で、側枝は下部のもので長さ3～5cm。淡紅色の小さな花を密に付ける。花軸には長さ0.5mmほどの淡褐色の腺毛を密生する。

<分布> [市内] 金華、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：佐藤克則(市外撮影)

タヌキマメ

マメ科

Crotalaria sessiliflora

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④⑤ <変更コード> -

<種の概要> 平地や丘陵などの日あたりの良い草地や道端に生育する一年草。茎は高さ20～70cmになり、全体に褐色の長毛がある。葉は線形～狭長卵形で長さ4～11cm、幅3～10mm、ほとんど無柄。花期は7～9月。総状花序は長さ1～10cm、青紫色の花を2～20個付ける。

<分布> [市内] 芥見東、芥見南、金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(東北地方南部以西)～琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：岐阜市

ミヤコミズ

イラクサ科

Pilea kiotensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 山地のやや湿った場所に生育する一年草で、草丈は20～40cm。植物体はやや多汁でやわらかい。葉は対生し、狭卵形～長楕円形で長さ3～12cm、先は尾状に尖り、基部はくさび形。葉縁にはまばらに鋸歯があり、葉面には3脈が目立つ。花期は9～10月。葉腋に集散花序が付く。花序の柄には乳頭状の短毛がある。最初に京都付近で発見されたことから都ミズの名がつけられたと言われている。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県南部に分布。
[県外] 本州(近畿以西)～九州北部に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

モウセンゴケ

モウセンゴケ科

Drosera rotundifolia

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 日あたりの良い酸性湿地に生育する多年草。根出葉の葉身は倒卵状円形で、長さ5~10mm、裏面に長い消化腺毛があり、基部は細くなって柄となる。この消化腺毛で小さな昆虫類を捕え、栄養源とする。花期は6~8月。高さ6~20cmの花茎が出て、数個の白色の花を総状に付ける。花序の先は巻き状となり、花は片側に付く。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：岐阜市

ジュズネノキ

アカネ科

Damnacanthus macrophyllus

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 林内に生育し、まばらに分枝して高さ1~2mになる常緑低木。若枝には短毛が密生する。ふつう托葉の内側に長さ1~2mmの短い刺がある。葉は楕円形~長楕円形で先は鋭く尖り、基部は鋭形または鈍形。葉柄は1~3mm、葉は長さ4.5~10cm、幅1.8~3cm。花期は4~5月。枝先または葉のわきにできる短い花序に1~2個の白色の筒状の花を付ける。液果は球形で径3~5mm、赤く熟す。

<分布> [市内] 金華、長良、長良東、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(近畿地方以西)、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ハルリンドウ

リンドウ科

Gentiana thunbergii var. *thunbergii*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②③ <変更コード> 6,9

<種の概要> 日あたりの良いやや湿った山野に生育する越年草。高さ5~15cm。根出葉はロゼット状につき卵形で長さ1~3cm。茎葉は卵状披針形で長さ5~10mm。花期は3~5月。花は茎頂に1個付く。花冠は青紫色で、長さ2~3cm。

<分布> [市内] 市内の数カ所で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：近藤慎一(市外撮影)

イヌセンブリ

リンドウ科

Swertia tosaensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 山野のやや湿った場所に生育する一年草~越年草。茎は基部から分枝し、高さ5~30cm。葉は倒披針形で長さ2~5cm。花期は10~11月。花卉は白色で淡紫色の条があり、径15mm、5深裂する。全草には苦味が無く、同属のセンブリのように薬には用いられない。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：大塚英樹

アイナエ

マチソコ科

Mitrasacme pygmaea

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 日あたりの良い暖地の低湿地に生育する小さな一年草。茎は短く、花茎を除いて0.5~1cm程度。葉は対生で2~4対つき、卵形または長楕円形、長さ5~15mm、幅3~6mm。花期は8~9月。茎頂や葉腋から高さ2~10cmの花茎を1~3本伸ばし3~15個の花を散形状に付ける。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：野々目徳弘

スズサイコ

キョウチクトウ科

Vincetoxicum pycnostelma

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> 6,9

<種の概要> 日あたりの良いやや乾いた草地に生育する多年草。茎は細く、直立して高さ40~100cm。葉は対生で、長披針形~線状長楕円形、長さ6~13cm、幅4~15mm。花期は7~8月。花序は茎の先や葉腋から出る。2~3cmの総花柄があり、集散状に黄褐色の花を付ける。袋果は細長い披針形で長さ5~8cmになる。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

<特記事項> 以前は耕作地の法面などにもよく見られたが、草刈などの管理が行われなくなり、減少傾向にある。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：岐阜市

ヤマルリソウ

ムラサキ科

Omphalodes japonica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> 6,9

<種の概要> 山の木陰や道端などに生育する多年草。茎は多数斜上し、高さ7~20cm、開出した白毛が多い。根出葉はロゼット状に広がり、倒披針形で長さ7~20cm、幅2~5cm。茎葉は基部茎を抱き、上部に向かい小さくなる。花期は4~5月。花は淡青紫色で径約1cm、8~17mmの小花柄がある。

<分布> [市内] 長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(福島県以南)~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：則行雅臣(市外撮影)

イワタバコ

イワタバコ科

Conandron ramondioides

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ②④⑤ <変更コード> -

<種の概要> 日陰の岩壁などに生育する多年草。根茎に褐色の長毛があるほかは無毛。ふつう1~2枚の大きな葉がある。葉には長さ3~10cmの翼のある柄があり、葉身は長さ10~30cm、幅5~15cm、楕円状倒卵形で先は尖り、不揃いな鋸歯がある。葉質はやわらかく、表面の脈はへこんでしわのあるように見える。花期は6~8月。葉腋から長さ10~30cmの花茎を伸ばし、2~30個の花を付ける。花冠は紅紫色で径1.5cm。

<分布> [市内] 岩、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(福島県以南)~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

オオアブノメ

オオバコ科

Gratiola japonica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 湿地に生育する一年草。茎は直立して高さ10~20cm、肉質でやわらかい。葉は対生し、披針状長楕円形で柄がない。長さ1~3cm、幅2.5~7mm。花期は5~6月。葉腋ごとに1花を付ける。花冠は白色。筒形で長さ4~5mm、多くは閉鎖花。

<分布> [市内] 柳津で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部、南部に分布。
[県外] 本州(宮城県以南)、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：大塚英樹

イヌノフグリ

オオバコ科

Veronica polita var. *lilacina*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 土手や道端などの草地に生育する越年草。茎は基部で分枝し、横に広がり長さ10~25cm。毛が散生する。葉は茎の下部では対生し、上部では互生となる。長さ幅とも4~11mmの卵円形で数対の先の鈍い鋸歯がある。花期は3~4月。茎の上部の葉腋ごとに1花を付ける。花柄は3~7mmで曲がった毛が生える。花冠は淡紅白色で紅紫色の条があり、径3~4mm。

<分布> [市内] 三輪北で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部、南部に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：佐久間智子(市外撮影)

シモバシラ

シソ科

Collinsonia japonica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 山の木陰に生育する多年草。茎は四角で高さ40~70cm。葉は対生で8~20cm、幅3~5.5cm、鋸歯縁で両端は尖り、短い葉柄がある。花期は9~10月。葉腋から白色の花冠を持つ総状花序を出す。冬季、枯れた根元から霜柱に似た氷柱が出る特性からこの名がある。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：岐阜市

ヒメサルダヒコ

シソ科

Lycopus ramosissimus var. *ramosissimus*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②③⑤ <変更コード> -

<種の概要> 湿地に生育する多年草。茎は下部が地を這って多数分枝し、高さ10~40cmになる。基部から多くの細い地下匍枝を伸ばす。葉は対生、菱状狭卵形で、縁には粗い鈍鋸歯があり、長さ3~4cm、幅1~2cm。花期は8~10月。葉腋に群がって付く。花冠は白色で径約3mm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ラショウモンカズラ

シソ科

Meehania urticifolia

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④⑤ <変更コード> -

<種の概要> 山の木陰に生育する多年草。花茎は直立して高さ20～30cm、長毛がまばらに生える。全体に香気があり、花が終わると長い走出枝が茎の下部から伸びる。葉は2～3cmの葉柄があり、三角状心形で長さ2～5cm、幅2～3.5cm、粗い鈍鋸歯がある。花期は4～5月。花冠は紫色で、長さ4～5cm。

<分布> [市内] 長良東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州から九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：佐藤克則(市外撮影)

ミズネコノオ

シソ科

Pogostemon stellatus

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 水田や低湿地に生育する高さ15～50cmの軟弱な一年草。茎は中央付近で多数枝を出す。葉は1～6個ずつ輪生し、長さ2～6mm、幅2～4mm。花期は8～10月。花穂は茎頂と枝先に直立し、長さ2～5mm、幅4～5mm。花冠は白色または淡紅色で密に付く。

<分布> [市内] 黒野、常磐、方県で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～九州、奄美(徳之島)に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：大塚英樹

ミズトラノオ

シソ科

Pogostemon yatabeanus

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 低湿地に生育する多年草。茎は横に這う地下茎から立ち上がって、高さ30～50cmになり、3～4個ずつ葉を輪生する。葉は線形～広線形で長さ3～7cm、幅2～5mm、先は鈍く全縁でやわらかい。花期は8～10月。茎頂に長さ2～8cmの花穂を1個立て、淡紅色の花を密に付ける。

<分布> [市内] 芥見、岩で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：大塚英樹

イヌタヌキモ

タヌキモ科

Utricularia australis

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 低地のため池に生育する多年生の浮遊植物。茎は細く径0.3～2mm、長さ1mに達する。葉は全体の長さが1.5～4.5cm、基部で2本に分枝し、さらに二又状に何回か分枝する。捕虫囊を持ち、プランクトンなどを捕食し栄養源とするいわゆる食虫植物である。花期は7～9月。花茎は長さ10～30cmで水上に3～10個の黄色い花を付ける。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：大塚英樹

タヌキモ

タヌキモ科

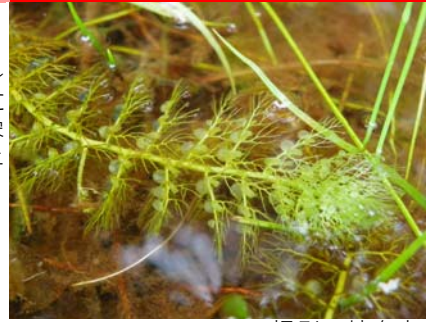
Utricularia japonica

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 低地のため池に生育する多年生の浮遊植物。茎は細く径2～3.5mm、長さ1mに達する。葉は全体の長さが2～6cm、基部で2本に分枝し、さらに二又状に何回か分枝、各裂片は糸状。捕虫嚢を持ち、プランクトンなどを捕食し栄養源とするいわゆる食虫植物である。花期は7～9月。花茎は長さ10～30cmで水上に3～10個の黄色い花を付ける。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：岐阜市

スイラン

キク科

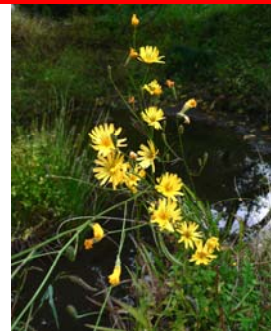
Holoieion krameri

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 水辺や湿地に生育する多年草。茎は高さ50～100cmになり、よく分枝する。根出葉は茎葉と同様線状披針形で互生し、長さ15～50cm、幅1.2～3cm。縁にはまばらに鋸歯があり、両面とも無毛で厚い。花期は9～10月。3.5～10cmの花茎に径3～3.5cmの黄色い花を付ける。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(中部以西)～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

サワギク

キク科

Nemoseneo nikoensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 山地の木陰に生育する多年草。茎は高さ35～110cm、根出葉は密に白毛があるが、花時にはない。茎葉は薄く羽状に深裂する。花期は6～8月。花は枝の先にやや散状に多数つき、径12mm。舌状花冠は長さ8mm、幅1mm。そう果は長さ1.5mmで細毛があり、冠毛は白色。

<分布> [市内] 金華、長森西、梅林で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

クジャクシダ

イノモトソウ科

Adiantum pedatum

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 山地の林下の地上や岩上に生育する夏緑性のシダ植物。根茎は短く匍匐し、径約2mm、鱗片をつけ、葉を叢生状に付ける。葉柄は光沢があり、紫褐色から赤褐色、長さ15～45cm。葉身は卵形～円形、長さ15～25cm、幅15～30cm、偽叉状に分岐して各枝の上側に単羽状の小羽片を付ける。小羽片は披針形、長さ10～30cm、幅2～3cm。小葉は半月状の長楕円形。孢子嚢群は裂片の上縁に生じる。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、中部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国の一部、福岡県に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：則行雅臣(市外撮影)

カミガモシダ

チャセンシダ科

Asplenium oligophlebium

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ② <変更コード> 11,13

<種の概要> 山地の岩上や地上に生育する固有種。常緑性のシダ植物。根茎は短く斜上し葉を叢生する。葉柄は長さ2~8cm、紫~茶褐色で光沢があり、基部に鱗片を付ける。葉身は単羽状で線形~狭披針形、長さ7~20cm、幅1.5~3.5cm。羽片は薄い草質、無柄で狭長楕円形、基部に耳状突起があるため三角状長楕円形に見える。胞子嚢群は長楕円形~線形、羽片に数個ずつ付く。和名は京都の上賀茂神社に由来する。

<分布> [市内] 三輪北、方県で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(新潟県、岐阜県以西)、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ハラシダ

メシダ科

Deparia lancea

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ② <変更コード> 11,13

<種の概要> 山地の林床、崖地や溪流沿いの陰湿な場所に生育する単葉の常緑性のシダ植物。根茎は長く横走り、黒褐色で長さ2.5~3mm、幅約0.8mmの線状披針形~線形の鱗片がある。葉柄は3~25cm、わら色~褐色で基部に鱗片がある。葉身は単葉で披針形~線形で革質、全縁から浅い波状縁。長さ10~30cm、幅2.5cm以下。胞子嚢群は脈に沿って線形。包膜は全縁。

<分布> [市内] 長良東で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(関東地方中・南部以西の暖地)、四国、九州、琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ピロードシダ

ウラボシ科

Pyrrosia linearifolia

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 山地のやや薄暗い岩上や樹幹などに着生する常緑性のシダ植物。根茎は長く横走り、径約1.7mm、密に鱗片を付ける。葉身が基部まで流れるため、葉柄と葉身はほとんど区別がつかない。葉身は線形、先端は円形、長さ2~15cm、幅5mm、全面に黄褐色から灰褐色の宿存性の星状毛が密に付く。胞子嚢群は中肋の両側に1~2列並び、円形。

<分布> [市内] 京町、金華、梅林、明徳で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道~九州(南部除く)、沖縄県に広く分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

マツブサ

マツブサ科

Schisandra repanda

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 落葉性のつる性木本。コルク質が発達し、樹皮が縦に割れる。葉は厚い膜質で、卵形から広楕円形、長さ2~6cm、幅3.5~5cm、縁には3~5個の波状鋸歯がある。葉柄は葉身の長さの半分以上。雌雄異株。花期は5~7月。花は黄白色で、径約1cm、花被片は9~10枚。集合果は長さ4.5~6.5cm、長い柄で垂れ下がり、果実は黒藍色に熟す。

<分布> [市内] 金華、三輪北、長森西、梅林で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：則行雅臣(市外撮影)

ヒトリシズカ

センリョウ科

Chloranthus japonicus

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 林中に生育する多年草。短い根茎から数本～多数の茎が直立する。茎ははじめ赤紫色で、のちに緑色となり、無毛で高さ15～30cm、下部の3～4節には鱗片葉があり、上部2節に大型の葉がある。上部2節の節間はごく短く、4枚の葉が輪生しているように見える。葉は長さ4～9cm、幅2～7cm、縁には先の尖った鋸歯がある。花期は4～5月。頂生する1本(まれに2本)の穂状花序を伸ばし、密に多数の花を付ける。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015(前回)：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－



撮影：佐藤克則(市外撮影)

フタリシズカ

センリョウ科

Chloranthus serratus

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 林中に生育する多年草。短い根茎から数本の茎が直立し、高さ30～60cm。葉は対生し、下部の3～4対は鱗片状で小さく、広卵形で膜質。上部の2～3対の葉は大きく、節間は5～20mm、葉柄は長さ5～15mm、葉身は楕円形または卵状楕円形で先は尖り、長さ5～17cm、幅2～8cm、縁に多数の鋸歯がある。花期は5月。頂生ときに腋生する2～6cmの穂状花序を伸ばす。通常1～2回分枝する。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015(前回)：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－



撮影：大塚英樹

シデコブシ

モクレン科

Magnolia stellata

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 低山に生育する落葉小高木または低木。高さはせいぜい5m程度。若枝には密に毛がある。葉は互生し長楕円形から倒披針形、長さ5～10cm、幅1～3cm、鈍頭または円頭。葉柄は2～5mmで有毛。花期は3～4月。葉の展開前に開花し、径7～10cm。花被片は12～18枚あり、萼と花卉の区別は無く、淡紅色または白色、狭倒披針形で鈍頭。集合果は垂れ下って赤熟し、長さ3～7cm。

<分布> [市内] 芥見東、芥見南、網代で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(中部地方南西部)に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015(前回)：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：近藤慎一(市外撮影)

ニツケイ

クスノキ科

Cinnamomum sieboldii

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 常緑高木。葉は革質、卵状狭長楕円形または狭楕円形で、長さ8～15cm、幅2.5～5cm、先は長く尖り基部も狭くなる。3行脈は基部よりやや上で分枝し、側方の脈は上向き葉の先端近くまでおよぶ。葉柄は8～15mm。花期は5～6月。花序は新枝に腋生し、葉より短い。花は淡黄緑色。果実は長さ11mmほどの楕円形で黒紫色に熟す。

<分布> [市内] 金華、長森西、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 原産地は中国と言われ、栽培からの逸出個体が徳之島、沖縄島、石垣島のほか、各地で野生化している。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015(前回)：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：佐久間智子(市外撮影)

オオハンゲ

サトイモ科

Pinellia tripartita

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 山地の常緑樹林下に生育する多年草。葉は1~4個。葉身は3深裂し、裂片は広卵形または狭卵形で短鋭尖頭、長さ8~20cm。花期は6~8月。花茎は高さ20~50cmで、葉の上にやや突き出るか、ほぼ同高。苞は緑色または帯紫色で長さ6~10cm、舷弦部は卵形で鈍頭。内面に小突起を密生し、外面はなめらか。付属体は長さ15~25cm。

<分布> [市内] 長良東、日野で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 本州(中部地方)~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：中尾茂樹(市外撮影)

ホッスモ

トチカガミ科

Najas graminea

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 淡水に生育する沈水性の一年草。茎は長さ約30cmになり、細くよく分枝し、節から根を出す。葉は長さ約2cm、幅約0.5mm、縁には微小な鋸歯がある。葉鞘の上端は耳状に付き出る。花期は7~9月。種子の表面の細胞は小さく、稜がある。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：中尾茂樹(市外撮影)

コオニユリ

ユリ科

Lilium leichtlinii f. *pseudotigrinum*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 山地の草地に生育する多年草。茎は直立し、高さ1~2mになる。葉は多数つき、披針形で長さ5~15cm。花期は7~9月。花被片は橙赤色で濃色の斑点があり、披針形。オオニユリに似るが、鱗茎は白色で小型、葉腋には珠芽がないことなどで区別できる。

<分布> [市内] 岩野田北、常磐、方県で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：則行雅臣(市外撮影)

エビネ

ラン科

Calanthe discolor

<選定理由> B,D <定性的要件> ①②③ <変更コード> 4

<種の概要> 雑木林の下などに生育する多年草。偽球茎は球状。葉は2~3枚ついて、長さ15~25cm、幅5~8cm。花期は4~5月。花茎は高さ20~40cm、花序には短毛があり、ややまばらに8~15花を付ける。花被片は暗褐色。側花弁は萼片よりやや狭く同長。唇弁は萼片と同長、帯紅色または白色で扇形、3深裂し、側裂片は広くさび形。花被片や唇弁の色に種々の変異がある。

<分布> [市内] 三輪北、日野で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道(西南部)~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：近藤慎一(市外撮影)

ツチアケビ

ラン科

Cyrtosia septentrionalis

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 落葉樹林下またはササ類の群落中に生育する多年草。葉緑体を持たない菌従属栄養植物。全体に褐色で、根茎は太く横に長く這い、大型の鱗片葉を付ける。地上茎は高さ50~100cm、まばらに分枝し、複状花序となる。花期は6~7月。黄褐色の花を多数付ける。果実は肉質、バナナ状で下垂し、長さ6~10cm、径約3cm、秋に赤く熟す。

<分布> [市内] 長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道(札幌以南)~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

カキラン

ラン科

Epipactis thunbergii

<選定理由> B,C,D,E,F <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 日あたりの良い湿地に生育する多年草。根茎は横に這い、節から根を出す。茎は高さ30~70cm。葉は狭卵形で互生し、長さ7~12cm、幅2~4cm。著しい縦脈があり、基部は茎を抱く。花期は6~8月。黄褐色の花を10個程度付ける。花の色が柿の実の色に似ていることからこの名がある。

<分布> [市内] 市内の数カ所記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

アキザキヤツシロラン

ラン科

Gastrodia verrucosa

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 常緑広葉樹林下や竹林下に生育する多年草。葉緑体を持たない菌従属栄養植物。塊茎は紡錘状で斜上し、長さ2~3cm、表面に単細胞に毛がある。茎は細く円柱状で高さ3~4cm。花期は9~10月。

<分布> [市内] 黒野で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 本州(千葉県以西)~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

オニノヤガラ

ラン科

Gastrodia elata

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 13

<種の概要> 山地の樹林下に生育する多年草。葉緑体を持たない菌従属栄養植物。ナラタケと共生するといわれている。塊茎は楕円形で長さ10cm前後、表面に多数の節がある。茎は円柱状で直立し、高さ40~100cm、帯黄褐色。花期は6~7月。20~50個の花を総状花序に付ける。花は黄褐色、3萼片が合着しつぼ状となる。

<分布> [市内] 長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

エンシュウムヨウラン

ラン科

Lecanorchis suginoana

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 樹林の林床に生育する多年草。葉緑体を持たない菌従属栄養植物。茎は硬く、高さ20～30cm。花期は5～6月。花は長さ約1.5cm、淡褐色～鮮やかな黄色、唇弁は淡色、内側に黄色の肉質の毛があり、赤紫色を帯びない。花後は花茎まで黒くなる。日本固有種。

<分布> [市内] 常磐、網代で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 愛知県、静岡県に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－



撮影：大塚英樹

コケイラン

ラン科

Oreorchis patens

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 13

<種の概要> 林内のやや湿った場所に生育する多年草。偽球茎は卵形。葉はふつう2個つき、披針形で長さ20～30cm、幅1～3cm、鋭尖頭。花期は5～7月。高さ30～40cmの花茎に多数の黄褐色の花を総状に付ける。

<分布> [市内] 市内の数カ所で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－



撮影：大塚英樹

ハナショウブ

アヤメ科

Iris ensata var. *spontanea*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②③ <変更コード> －

<種の概要> 山野の草地や湿原に生育する多年草。葉は剣状で長さ30～60cm、幅5～12mm、太い中脈が目立つ。花期は6～7月。高さ40～80cmの花茎が立ち、頂部に数個の苞があり、その中から数個の花を次々に開く。花は赤紫色で径約10cm、外花被片は楕円形で先が垂れ、中央から基部の爪にかけては黄色となる。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－



撮影：岐阜市

カキツバタ

アヤメ科

Iris laevigata

<選定理由> B,E,F <定性的要件> ①②④ <変更コード> 6

<種の概要> 水湿地に生育する多年草。根茎は分枝して多くの繊維に覆われる。葉は長さ30～70cm、幅20～30mm。花期は5～6月。高さ40～70cmの花茎が立ち上がり、頂部に2～3花がつく。径12cm内外の青紫色の花を付ける。

<分布> [市内] 金華、三輪南、三輪北、長良東、日野、方県で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：加藤範夫

キツネノカミソリ

ヒガンバナ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－

Lycoris sanguinea

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山野に生育する多年草。鱗茎は広卵形で径2～4cm、外皮は黒褐色。葉は春に出て帯状、長さ30～40cm、幅8～10mm、淡緑色で夏には枯れる。花期は8～9月。高さ30～50cmの花茎が立ち、黄赤色の3～5花を散形状に付ける。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 本州～九州に分布。



撮影：大塚英樹

シロイヌノヒゲ

ホシクサ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－

Eriocaulon sikokianum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 湿地に生育する無茎の一年草。葉は線形で長さ12～18cm、基部の幅3～5mm。花期は8～9月。花茎は高さ15～38cm。頭花は半球形で総苞を含み径約10mm。総苞片は卵状披針形。頭花の中心部には雄花と雌花があり、それぞれに白色の短毛があることから全体的に白色の花に見える。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。



撮影：大塚英樹

オニスゲ

カヤツリグサ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－

Carex dickinsii

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 平地の水湿地に生育する多年草。長い地下匍枝がある。茎は高さ20～50cm。葉は扁平で幅4～8mm。花期は5～7月。頂小穂は雄性で長い柄があり淡いわら色。側小穂は雌性で1～3個、大型の楕円形で無柄。果苞は開出して著しく膨らみ、長さ1cm程度。この形などから鬼菅の名がある。別名：ミクリスゲ。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。



撮影：大塚英樹

クロヒナスゲ

カヤツリグサ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Carex gifuensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 比較的明るい林内に生育する多年草。大株となり、匍枝を欠く。稈は20～30cm。葉は幅1.5～2.5mm、開花時は稈より短い、その後著しく伸長する。花期は4～6月。小穂は2～3個。頂小穂は雄性で、狭披針形。長さ1～1.5cm、幅1～1.5mm、帯赤色。側小穂は雌性。無柄で楕円形、長さ5～10mm、幅3mm。

<分布> [市内] 金華、長森西、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 岐阜県のほか、栃木県、三重県、愛媛県に隔離分布。



撮影：大塚英樹

フトイ

カヤツリグサ科

Schoenoplectus tabernaemontani

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 平地や山地の池沼などの浅水中に生育する大型の多年草。根茎は太く横に這い、茎は粉緑色で円く高さ1~2m、径7~15mm。花期は7~10月。花序は側生状で数個の枝が出て、枝端に1~3個の小穂が付く。小穂は卵形で赤褐色を帯び、長さ5~10mm。果は長さ2mm、倒卵形、レンズ型。柱頭はふつつ2個。

<分布> [市内] 黒野、方県で記録があった。
[県内] 県中部、南部に分布。
[県外] 北海道~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：中尾茂樹(市外撮影)

コマツカサススキ

カヤツリグサ科

Scirpus fuirenoides

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 平地の湿地に生育する多年草。茎は高さ1~1.5m。茎の葉は伸長し、扁平で幅4~8cm、葉鞘は長さ3~10cm。花期は8~9月。花序は側生の分花序となり、1~2個の小穂集団をつけ、頂生の分花序は1回分枝して3~6個の枝に小穂集団を生じる。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

オガルカヤ

イネ科

Cymbopogon tortilis var. *goeringii*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②③④ <変更コード> -

<種の概要> 丘陵から低山の草地に生育する多年草。茎は直立し高さ100cm前後になる。葉は線形で、幅3~5mm。茎はやや硬くて平滑、短く分枝し、多数の分花序をつけ、長さ20~40cmの円柱花序となる。花期は8~11月。

<分布> [市内] 芥見で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州~琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

マツモ

マツモ科

Ceratophyllum demersum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 池や河川に生育する多年生の沈水植物。根は無く、水中に浮遊していることが多い。茎は20~120cm、盛んに分枝する。葉は5~10個が輪生し、線状の裂片が1~2回二又状に分かれ、裂片の辺縁には鋸歯がある。花期は5~8月。花を付けない個体も多い。別名：キンギョモ。

<分布> [市内] 鏡島、合渡、黒野、鷺山、則武、木田で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道~琉球に広く分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ニリンソウ

キンポウゲ科

Anemone flaccida

<選定理由> B,E,F <定性的要件> ①②④ <変更コード> 6,9

<種の概要> 林縁や林床、草地にも生育する多年草。根茎はやや太く、長さ5cm程度。先端に数枚の根出葉と1~3本の花茎を束生する。根出葉は3全裂し、側裂片はさらに2深裂する。茎葉は3枚が輪生し、無柄で深く欠刻する。花期は4~5月。花茎に径2cm位の白色の花を1~4個付ける。花卉のように見える部分は萼片で、5~7枚ある。葉や茎は早春に現れ、初夏には枯れる。

<分布> [市内] 長良東、日野、網代で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：—



撮影：近藤慎一(市外撮影)

ヤマグルマ

ヤマグルマ科

Trochodendron aralioides

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> 6,9

<種の概要> 常緑高木。急峻な場所に生育する。樹高20m、太さ1mを超えることもある。樹皮は黒褐色を帯びた灰色であまり割れない。葉は2~9cmの長い柄があり、葉身は革質で広倒卵形~狭倒卵形、長さ5~14cm、幅2~8cm。先は多少尾状になり、上部には波状鈍鋸歯がある。花期は5~6月。枝端に長さ7~12cmの花序を付ける。花は1花序に10~20個つき、花被片は無く、黄緑色で径10~12mm。果実は偏球形で径7~10mm、秋に褐色に熟す。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(山形県南部以南)、四国、九州、琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：—



撮影：大塚英樹

ヤブサンザシ

スグリ科

Ribes fasciculatum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> —

<種の概要> 山野に生育する高さ1m程度の落葉低木。下部からよく分枝し、若枝は灰白色で軟毛を密生するがのち無毛、樹皮は縦方向にはがれ褐色に変わる。葉は互生し、短枝に付く。葉身は広卵形で長さ2~7cm、幅2.5~9cm、掌状に浅・中裂し鈍鋸歯縁、両面には短い軟毛がある。葉柄は長さ2~3.5cm、羽状の長毛や長腺毛がある。花期は4~5月。雌雄異株。花は短枝の葉腋に束状に付く。花卉はへら形で小さい。液果は球形で径7~8mm、赤く熟す。

<分布> [市内] 三輪南、藍川で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：—



撮影：大塚英樹

トリアシショウマ

ユキノシタ科

Astilbe odontophylla

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> 6,9,

<種の概要> 亜高山帯および温帯の林床や草地に生育する多年草。葉は3回3出複葉、小葉は卵形~広卵形で、長さ5~12cm、幅4~10cm、縁には不揃いの鋭い重鋸歯がある。花期は7~8月。花茎は高さ40~100cm。花序は円錐状で側枝は長さ12~25cm、よく分枝し、短腺毛を密生する。花卉は白色、さじ型で長さ4~6mm。

<分布> [市内] 常磐、方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州(中部以北)に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：—



撮影：室伏幸一(市外撮影)

アカショウマ

ユキノシタ科

Astilbe thunbergii var. *thunbergii*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> やや明るい林床や林縁に生育する多年草。葉は光沢なく、3回3出複葉で、小葉は楕円形～狭卵形、長さ4～12cm、幅2～4.5cm、先端は尾状に伸びて鋭形、縁には重鋸歯がある。花期は5～7月。花茎は高さ40～80cm、基部はしばしば紅色を帯びる。花序は複総状、側枝は下部のもので長さ6～9cm、短腺毛を密生。花弁は白色。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(東北地方南部～近畿)、四国に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－



撮影：大塚英樹

ツルネコノメソウ

ユキノシタ科

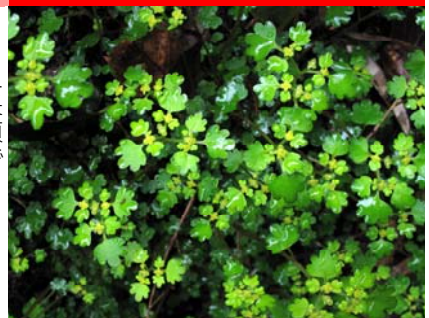
Chrysosplenium flagelliferum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 落葉広葉樹林下などの沢沿いの水湿地に生育する多年草。地上性の走出枝があり、花茎の葉と同形の葉を互生する。花後に走出枝は急速に伸長し、新個体をつくる。根出葉は有柄、円形で長さ2～3.5cm、幅3～5cm、縁に円頭に終わる鋸歯がある。茎葉は扇形で長さ2～8mm、幅3～9mm、有柄。花は黄色で径3～6mm、単柄がある。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州(近畿以北)、四国(剣山)に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－



撮影：大塚英樹

ナメラダイヤモンドソウ

ユキノシタ科

Saxifraga fortunei var. *suwoensis*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②③ <変更コード> －

<種の概要> 河川や溪流沿いの岩上に生育する多年草。根茎は短く葉を束生する。葉は腎円形、長さ1～15cm、幅4～20cm、基部は心形、掌状に5～7中裂し、裂片は倒卵形。金平糖状の蔕酸塩の結晶があり、長毛を生じる。花期は7～10月。花茎は高さ5～40cm。花弁は花時に平開し、白色まれに淡紅色。上側の3弁は楕円形で長さ3～4mm、下側の2弁は線状楕円形で長さ4～15mm。

<分布> [市内] 岩、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(中部地方以西)、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－



撮影：大塚英樹

ツメレンゲ

ベンケイソウ科

Orostachys japonica

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ②③ <変更コード> －

<種の概要> 日あたりの良い岩上や民家の屋根上に生育する多年草。多肉で披針形の葉を密集させ顕著なロゼットとなる。花期は10～11月。高さ8～30cmの筒状の花茎に多数の白色の花を付ける。夏季のロゼットは径12cmにもなる。

<分布> [市内] 芥見、金華、長森西、長森北、長良東、日野、梅林で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：岐阜市

ホドイモ

マメ科

Apios fortunei

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> 1

<種の概要> 日あたりの良い林縁に生育するつる性の多年草。細長い地下茎があり、所々に紡錘体あるいは球形の塊根がある。塊根は親個体から離れると無性的に新個体を形成する。茎は塊根の頂端や地下茎の途中から地上に出て他物に巻きつき2m以上伸長する。葉は奇数羽状複葉で小葉は3～5枚。両面に伏した短剛毛がある。花期は7～9月。花序は開花期間中に次第に伸びて長さ18cmに達する。花は黄緑色。豆果は長さ6～8cm、5～6個の種子を入れる。

<分布> [市内] 方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。



撮影：奥田浩之(市外撮影)

ヒメハギ

ヒメハギ科

Polygala japonica

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> 1

<種の概要> 日あたりの良いやや乾いた場所に生育する常緑の多年草。茎は硬く、基部は分枝して地を這い、上方は斜上して高さ10～30cmになる。曲がった毛があり、粉をかぶったように見える。葉は互生し、卵形～広披針形で長さ1～3cm、幅3～15mm、先は鈍形で短い突起がある。花期は4～7月。花序はまばらな総状花序で、長さ1～3cm、葉腋の上方が葉に対生する。花は帯紫色、花弁は3個あり長さ6～7mm。

<分布> [市内] 芥見、芥見東、芥見南、岩、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～琉球に分布。



撮影：大塚英樹

カワラサイコ

バラ科

Potentilla chinensis

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 日あたりの良い川原や砂地に生育する多年草。根茎は太く、茎は30～70cmになり、長毛が生え、葉を互生する。葉は羽状複葉、小葉は15～25個、倒披針形で長さ2～5cm。花期は6～8月。花は黄色で、径10～15mm。

<分布> [市内] 合渡、長良東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。



撮影：近藤慎一(市外撮影)

ヤマモモ

ヤマモモ科

Morella rubra

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

<選定理由> A,B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 常緑高木で、高さ20mに達する。若枝は無毛でしばしば赤色を帯びる。古い枝は灰白色、葉の跡がこぶ状に残り、楕円形の皮目がある。葉は革質、広倒披針形、長さ5～10cm、幅1.5～3cm、両面無毛、裏面に淡黄色の透明な油点がある。葉の縁は全縁からまばらに小さな鋸歯がある。幼苗は大きな粗い鋸歯がある。花期は3～4月。葉のわきに穂状花序をだす。雌雄異株。花被はない。果実は球形で径1.5～2cm、6月に赤く熟し、食べられる。

<分布> [市内] 常磐、藍川で記録がある。
[県内] 県中部、南部に分布。
[県外] 本州(関東南部、福井県以西)、四国、九州、琉球に分布。

<特記事項> 延算寺と岩滝にあるヤマモモは、いずれも市の天然記念物に指定されている。



撮影：岐阜市教育委員会
(延算寺のヤマモモ)

ミヤマカタバミ

カタバミ科

Oxalis griffithii

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山地のスギ林やブナ林に生育する多年草。根茎は太い。葉柄、花茎、葉の裏面には密に軟毛がある。小葉は倒心形で幅2.5～4cm、先端は鈍端。花期は3～4月。花は白色で径3～4cm。蒴果は楕円形、長さ10～17mm。

<分布> [市内] 芥見、芥見東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(東北地方南部～中国地方)、四国に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－



撮影：近藤慎一(市外撮影)

エイザンスミレ

スミレ科

Viola eizanensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 山地の木陰に生育する多年草。葉は3全裂し、各裂片には柄があり、側裂片はさらに2分裂し鳥足状になる。夏の葉は3小葉からなり、各小葉は披針形で長さ10cm、分裂しない。花期は4～5月。大型で淡紅紫色。

<分布> [市内] 金華、長森西、梅林で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－



撮影：大塚英樹(市外撮影)

ヒカゲスミレ

スミレ科

Viola yezoensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 低山地の木陰に生育する多年草。全体にあら毛がある。地下茎は細短く、匍枝の先に苗を作ることがある。葉は卵形ないし長卵形、長く伸び先は鈍頭、長さ3～6cm、基部は深い心形、鈍鋸歯縁。葉柄は長さ5～10cm。花期は4～5月。花は大形で白色。

<分布> [市内] 金華、長良、長良東で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道南部～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－



撮影：大塚英樹

ヒメオトギリ

オトギリソウ科

Hypericum japonicum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 放棄水田や山沿いの小湿地に生育する草丈15～40cmの一年草。茎は4稜形で細く、上方で分枝する。葉は三角状卵形で円頭、長さ5～13mmで基部はなかば茎を抱く。葉には多数の小さな明点が入り、縁に腺体は見られない。花期は8～9月。径7～8mmの橙黄色の花を付ける。

<分布> [市内] 芥見東、金華、三輪南、三輪北、田野、方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(千葉県・東海地方以西)～琉球に生育。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－



撮影：大塚英樹

ツルシキミ

ミカン科

Skimmia japonica var. *intermedia* f. *repens*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②③ <変更コード> -

<種の概要> 高さ30~100cm程度の常緑低木。茎の基部は地を這い、斜上する。葉は長さ4~6cm、幅1~2.5cm。ほぼ全縁で両面無毛。花期は4~5月。枝先に散房状の円錐花序を付ける。花弁は白色、4枚で長楕円形。果実は球形で径8~10mm、赤熟する。

<分布> [市内] 常磐で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州(東北地方、中部地方以西の日本海側)に主に分布するが、関東以西の本州、四国、九州などでも山地上部に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：近藤慎一(市外撮影)

ヒシ

ミソハギ科

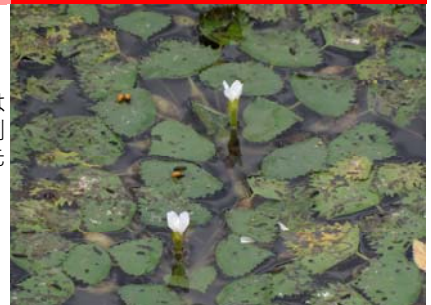
Trapa japonica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 池に生育する一年生の水生植物。浮葉は密生して水面に浮かび、三角状菱形。縁には鋸歯があり、径2.5~5cm、裏面や葉柄には毛がある。葉柄は長く、中央部が膨らむ。花期は7~10月。花は白色で径1cm程度。花弁は楕円状倒卵形で2浅裂する。石果はやや平らな倒三角形で、左右の両端が刺となり、刺の先に小さな下向きの刺がある。

<分布> [市内] 日置江で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部、南部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：加藤範夫(市外撮影)

ヤマハタザオ

アブラナ科

Arabis hirsuta

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 山野に生育する越年草。茎は直立して高さ30~90cmになり、下部には単毛と星状毛が混生する。根出葉は長楕円状へら型、長さ2.5~10cm、波状鋸歯縁で両面に2分毛がある。茎葉は柄がなく、基部は心形で茎を抱き、長さ2~7cm。花期は5~7月。花弁は白色で楕円状へら形、長さ3~6mm。長角果は無毛で、長さ2~6cm、幅1~2mm。

<分布> [市内] 金華、長良、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ヒロハコンロンソウ

アブラナ科

Cardamine appendiculata

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11


<種の概要> 山地の谷間の湿地に生育する多年草。根茎は水平に伸びる。茎は直立し枝を分け、高さ30~60cmになる。葉には長い柄があり、羽状複葉。小葉は同形で5~7個あり、卵形~卵状楕円形、長さ4~10cm、幅1~2.5cm。先は鋭形で粗い鋸歯がある。葉柄の基部に小さい耳部がある。花期は5~7月。総状花序に白色の花を十数個付ける。


<分布> [市内] 方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州中北部に分布。


岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-




撮影：佐藤克則(市外撮影)

ユリワサビ	アブラナ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
<i>Eutrema tenue</i>		
＜選定理由＞B,C,E ＜定性的要件＞ ②④ ＜変更コード＞ －		
<p>＜種の概要＞ 山間の溪流のほとりに生育する多年草。根茎は細くて短い。葉はワサビの葉より小さく、柄の基部は膨らむ。花期は3～5月。花序はまばらに白い花を付ける。長角果は開出するか下向きで、長さ10～15mm。</p> <p>＜分布＞ [市内] 長良東、日野で記録がある。 [県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。 [県外] 北海道～九州に分布。</p>		
		
		撮影：加藤範夫(市外撮影)

ハタザオ	アブラナ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
<i>Turritis glabra</i>		
＜選定理由＞B,C,E ＜定性的要件＞ ②④ ＜変更コード＞ －		
<p>＜種の概要＞ 山野に生育する越年草。茎は直立し、高さ35～135cm、下部に毛がある。根出葉は倒披針形で、長さ3～14cm、全縁が波状縁、低鋸齒縁となる。両面に2分毛と星状毛がある。茎葉は上へと小さくなり、基部は広がり矢じり形になって茎を抱く。花期は5～8月。花弁は黄白色で倒卵形、長さ5～7.5mm。長角果は平らな4稜形で、長さ4～8cm、幅1～1.5mm。</p> <p>＜分布＞ [市内] 島、本郷で記録がある。 [県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。 [県外] 北海道～九州に分布。</p>		
		
		撮影：大塚英樹

シロバナサクラタデ	タデ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類 環境省2020：－
<i>Persicaria japonica</i>		
＜選定理由＞B,C,E ＜定性的要件＞ ②④ ＜変更コード＞ 11,13		
<p>＜種の概要＞ 日あたりの良い水辺など湿地に生育する多年草。地下茎があり、茎は直立し、よく分枝し、高さ50～100cmになる。葉には短い柄があり、葉は披針形、長さ7～16cm、幅1～2cm。托葉鞘は1～2.5cmの筒状で伏毛があり、縁毛は長い。花期は8～11月。総状花序はややまばらな穂状で先は垂れる。萼は5深裂し腺点があり白色。そう果は3稜形かレンズ形、黒色で光沢があり、長さ1.5～2mm。</p> <p>＜分布＞ [市内] 金華、合渡、三輪南、島、日置江、日野、藍川で記録がある。 [県内] 県北部、西部、中部、南部に分布。 [県外] 北海道～九州に分布。</p>		
		
		撮影：大塚英樹

サデクサ	タデ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
<i>Persicaria maackiana</i>		
＜選定理由＞B,C,E ＜定性的要件＞ ①②④ ＜変更コード＞ －		
<p>＜種の概要＞ 低地の水辺に生育する一年草で、草丈は30～100cmになる。茎は斜上し多くの枝を分け、鋭い下向きの刺毛がある。葉は有柄、披針状長楕円形～披針形、先端は鋭形で基部は鈍型となる。葉の両面には星状毛を密生し、長さ3～8cm、幅2～7cm。花期は7～10月。短い頭状の総状花序で、白色(果時には紅色)の花を2～5個付ける。</p> <p>＜分布＞ [市内] 鏡島、黒野、合渡、島、日置江で記録がある。 [県内] 県西部、中部、南部に分布。 [県外] 本州～九州に分布。</p>		
		
		撮影：大塚英樹

ホソバノウナギツカミ

タデ科

Persicaria praetermissa

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 暖地の水辺に生育する一年草。茎は高さ30～80cm、下部から枝を分け、上部は斜上し下向きの刺毛がある。下部の葉は卵形、上部の葉は長楕円形～長披針形、先は鋭尖形、基部はほこ形、長さ2～10cm。花期は8～11月。総状花序は二又に分かれる花柄上につき、まばらに花を付ける。花柄の上部には腺毛がある。そう果はレンズ形または3稜形、光沢が無く長さ約2mm。

<分布> [市内] 長森東、長森南、長森北で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～琉球に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：中尾茂樹(市外撮影)

アオハコバ

ナデシコ科

Stellaria uchiyamana var. *apetala*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 山地の林床に生育する多年草。茎は地面を長く這い、斜上し高さ20～30cm。葉は対生でほとんど柄は無く、長さ1～2.5cm、幅0.8～2.5cm、先は鋭形で茎とともに分枝毛や星状毛がある。花期は4～6月。花卉は無い。

<分布> [市内] 岩、長良東、日野、網代、藍川で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 本州(近畿以西)～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹(市外撮影)

ヒメウツギ

アジサイ科

Deutzia gracilis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 川岸の岩上など日あたりの良い場所に生育する高さ1.5m程度の落葉低木。良く分枝する。樹皮は灰色で、古くなるとはがれる。葉は長楕円状披針形または狭卵形、先は長い鋭尖形、細かな鋸歯縁で、長さ4～8.5cm、幅1.5～3cm。表面には星状毛がある。花期は5～6月。花は径1.4cm程度、1年目の枝先に狭い円錐花序を付ける。花卉は白色で広倒披針形。

<分布> [市内] 芥見、金華、三輪南、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ウラジロウツギ

アジサイ科

Deutzia maximowicziana

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 山野の斜面や崖などに生育する高さ2m程度になる落葉低木で、よく分枝する。樹皮は灰色で、古くなるとはがれる。1年目の枝は紫褐色で、柄のある星状毛を密生する。葉柄は長さ2～7mm、葉身は狭卵形～長楕円状披針形、細鋸歯縁、長さ3.5～10cm、幅2.5～4cm。表裏ともに星状毛がありざらつく。花期は5月。1年目の枝先に円錐花序を付ける。花序や萼片にも星状毛を密生する。

<分布> [市内] 岩、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(中部地方ならびに近畿地方)、四国に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ギンレイカ

サクラソウ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－

Lysimachia acroadenia

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 山地の湿り気が多い場所に生育する多年草。茎には陵があり、高さ30～70cmになる。茎の上部や花序には粒状の腺毛が散生する。葉は互生し、広披針形～狭卵形、下部は翼のある柄となる。葉は柄と共に長さ5～14cm、幅1～3cm。裏面に赤褐色の細点が散らばる。花期は6～7月。枝先に総状花序を伸ばし、まばらに赤みを帯びた白色の小さな花を10～30個付ける。蒴果は球形で、径5mm、熟すと先が5裂する。

<分布> [市内] 金華、長良東で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。



撮影：大塚英樹

ベニドウダン

ツツジ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－

Enkianthus cernuus f. rubens

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 岩の多い山地に生育する高さ1～3mの落葉低木。葉は枝先に集まって互生し、葉柄は長さ2～4mm、葉身は倒狭卵形～倒卵形、長さ1.5～3cm、幅0.7～1.5cm、縁には鉤状で先が短い毛になる細鋸歯がある。花期は5～6月。枝先から長さ3～4cmの総状花序を下垂し、5～8個の朱紅色の広鐘形の花を付ける。

<分布> [市内] 常磐、日野、方県で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東地方、中部地方南部、福井県、近畿地方、中国地方瀬戸内海側)、四国、九州に分布。



撮影：大塚英樹

ギンリョウソウモドキ

ツツジ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－

Monotropa uniflora

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 林中のやや暗い場所に生育する多年草。葉緑体を持たない菌従属栄養植物。全体に白色で、高さ10～30cm。鱗片葉は卵状楕円形。花期は8～9月。茎の先に1花を付ける。蒴果は上向きに付き、球形または球状楕円形で長さ1～1.5cm。別名：アキノギンリョウソウ。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。



撮影：中尾茂樹(市外撮影)

センブリ

リンドウ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Swertia japonica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②③ <変更コード> －

<種の概要> 山野の日あたりの良い場所に生育する一年草～越年草。高さ5～20cm。茎は淡紫色を帯びる。茎葉は線形で長さ1.5～3.5cm。花期は8～11月。花は円錐状につき、花冠は白色で5深裂。裂片は広披針形で紫脈があり、長さ12～15mm。全草に強い苦みがあり、類似のイヌセンブリと区別できる。古くから健胃剤として利用されている。

<分布> [市内] 芥見東、芥見南、三輪北で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道西南部～九州に分布。



撮影：大塚英樹

ハダカホオズキ

ナス科

Tubocapsicum anomalum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> やや湿り気のある林縁に生育する多年草。茎は直立し多くの枝に分かれ、高さ60～90cm。葉は無毛で卵形～卵状楕円形、柄とともに長さ6～23cm、幅3～9cm。花期は8～9月。葉腋に細い柄のあるやや下向きの花を付ける。花冠は淡黄色で径8mm。

<分布> [市内] 網代で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～琉球、小笠原に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

シソクサ

オオバコ科

Limnophila chinensis subsp. *Aromatica*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 湿地に生育する一年草。茎は直立してあまり分枝せず高さ10～30cm。葉は対生し、柄が無く長楕円形で、長さ10～25mm、幅3～10mm、少数の鋸歯がある。葉には多くの油点があり、透かして見ると確認できる。これがシソの香りを出す。花期は9～10月。上部の葉腋から長さ7～15mmの花柄を出し、白色筒型の1花を付ける。

<分布> [市内] 金華、常磐、日野、方県で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～琉球南部に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ニシキゴロモ

シソ科

Ajuga yezoensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 丘陵地の林内に生育する多年草。茎は高さ8～15cm。葉は対生で数対あり、基部の2～3対は鱗片状となる。葉は長楕円形～広卵形で長さ2～6cm、幅1～3cm、葉柄は1～3cm。花期は4～5月。花は2～6個ずつ葉腋につき、淡紫色で、筒部は10～11mm。下舌は大きく3裂する。

<分布> [市内] 芥見東、岩野田北、三輪北、常磐で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州の主として日本海側に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ヒメナミキ

シソ科

Scutellaria dependens

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 湿地の草むらに生育する繊細な多年草。茎は直立し高さ20～40cm、地下に細長い走出枝を出す。葉は1～3mmの葉柄があり、狭卵状三角形で、長さ1～2cm、幅6～10mm。1～2対の低い鋸歯がある。花期は6～8月。花は葉腋に1個ずつ付き、白色でわずかに淡紅紫色を帯び、長さ7mm。

<分布> [市内] 金華、黒野、日野で記録がある。
[県内] 県北部、中部に分布。
[県外] 北海道、本州、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

ツルニガクサ

シソ科

Teucrium viscidum var. *miquelianum*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 山地の木陰に生育する多年草。茎は直立し高さ20~40cm。地下に細い走出枝を出す。葉はやや薄く、長さ4~10cm、幅1.5~5cm。花期は7~9月。花序は長さ3~5cm、一方向に偏って密に淡紅色の花を付ける。萼は長さ3mm程度で全面に腺毛がある。

<分布> [市内] 金華、合渡、城西、長良、長良東、日置江、日野、方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 日本全土に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：佐藤克則(市外撮影)

ママコナ

ハマウツボ科

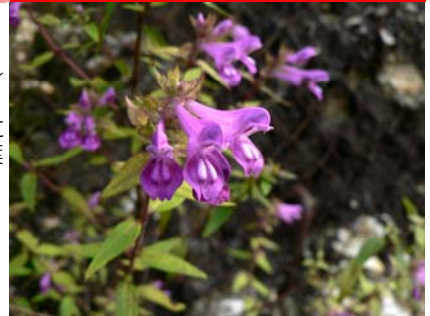
Melampyrum roseum var. *japonicum*

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 山地の林下に生育する半寄生の一年草。茎は直立し高さ20~50cm。葉は長卵形で両端尖り、長さ2~8cm、幅1~3cmで3~15mmの柄がある。花期は7~9月。枝先に長さ3~10cmの花序を作り、多くの花を付ける。花軸や萼にはやや密に白毛がある。苞は葉状で小さく、先は鋭く尖り、両縁に刺毛状の長い葉牙がある。花冠は紅紫色、花喉の両側に白色の斑がある。

<分布> [市内] 長良東、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道西部、本州、四国、九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

サワギキョウ

キキョウ科

Lobelia sessilifolia

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 山野の湿地に生育する多年草。根茎は短く太く横に這う。茎は直立し分枝せず中空、高さ50~100cm。葉は互生し披針形で長さ4~7cm、低鋸歯縁で柄はない。上部の葉は次第に小型になり、苞となってその腋に花をつけ密な総状花序となる。花期は8~9月。花柄は5~12mm、花冠は濃紫色で長さ2.5~3cm。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹

キキョウ

キキョウ科

Platycodon grandiflorus

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 山野の草地に生育する多年草。茎は高さ50~100cm。葉は互生、まれに対生・輪生となり、狭卵形で長さ4~7cm、先は尖り、縁には鋭鋸歯がある。花期は7~8月。茎頂近くに径4~5cmの青紫色の花を付ける。根茎は桔梗根として薬用にされる。

<分布> [市内] 芥見東、三輪北で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道~九州・奄美諸島に分布。

<特記事項> 以前は耕作地の法面などにもよく見られ秋の七草としても親しまれたが、草刈などの管理が行われなくなり、減少傾向にある。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：近藤慎一(市外撮影)

タウコギ

キク科

Bidens tripartita

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 水田の畔や湿地に生育する多年草。茎は高さ20～150cm。葉は対生し、やや翼のある柄があり、長さ5～13cm、ふつう3～5裂する。花期は8～10月。頭花ははじめ径7～8mm、のち25～35mmになる。舌状花は無い。そう果は長さ7～11mm、下向きの刺があり、芒は2本。

<分布> [市内] 芥見東、三輪北、日置江で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 日本全土に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：中尾茂樹(市外撮影)

リュウノウギク

キク科

Chrysanthemum makinoi

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 日あたりの良い山地の崖に生育する多年草。細長い地下茎がある。茎は高さ40～80cmで、まばらに分枝する。葉は卵形～広卵形、長さ4～8cm、3浅裂～3中裂、大きな鈍鋸歯がある。表面は短毛があり、裏面には密に丁字状毛があって灰白色。花期は10～11月。頭花は細長い枝の先に単生し、径2.5～5cm。舌状花は白色でのちに淡紅色となる。

<分布> [市内] 芥見東、芥見南で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(福島県・新潟県以西)、四国、九州(宮崎県)に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：岐阜市

ヤマニガナ

キク科

Lactuca raddeana var. *elata*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 山地の林縁や草地に生育する一年草～越年草。茎は高さ60～200cm。葉は下部のものは時に羽裂する。花期は8～9月。狭い円錐花序に濃黄色の径1cm内外の頭花を多数付ける。そう果の冠毛は白色。

<分布> [市内] 常磐で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：奥田浩之(市外撮影)

センボンヤリ

キク科

Leibnitzia anandria

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> -

<種の概要> 山地の丘陵地に生育する多年草。春型と秋型がある。春型の花期は4～6月。草丈は高さ10cm、頭花は径約1.5cm、白色で裏は紫色を帯びる。葉の裏面にはくも毛が密生し白い。秋型の花期は9～10月。草丈は高さ30～60cmに達し、花茎には小さな葉を付ける。そう果は長さ6mm、長さ11mmの褐色の冠毛がある。

<分布> [市内] 岩野田北、常磐で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～本州に分布。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-



撮影：大塚英樹(市外撮影)

ウグイスカグラ

スイカズラ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－

Lonicera gracilipes var. *glabra*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 日本特産の落葉低木。高さ3mに達する。枝は中実で白色の髄がある。茎から花まで全て無毛。葉は広披針形～卵形、先は尖り基部はくさび形、長さ3～8cm、幅1.5～5.5cm。葉柄は長さ3～5mm。花期は4～6月。葉より先あるいは同時に開花する。花柄は細く、垂れ、長さ1～2cm、先に1～2個の花を付ける。花冠は漏斗状で下垂し、バラ紅色。花筒は細く、長さ10～12mm。液果は紅熟し、広楕円形で長さ4～5mm。

<分布> [市内] 日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州、四国に分布。



撮影：佐藤克則(市外撮影)

オミナエシ

スイカズラ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Patrinia scabiosifolia

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 日あたりの良いやや乾いた草地に生育する多年草。茎は高さ60～100cm。葉は対生し、頭大羽状に深裂。花期は8～10月。集散花序に多数の黄色い小花を付ける。

<分布> [市内] 芥見東、芥見南で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

<特記事項> 以前は耕作地の法面などにもよく見られ秋の七草としても親しまれたが、草刈などの管理が行われなくなり、減少傾向にある。



撮影：野々目徳弘

ミズスキ

ヒカゲノカズラ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Lycopodium cernuum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 地上生の常緑性のシダ植物。匍匐茎は地上を長く這い、不規則に分枝し、所々で直立する側枝を出す。葉と共に径3～5mm、まばらに根を付ける。直立茎は高さ30cmを超えることもあり、分枝して樹木状となる。葉は匍匐茎、直立茎共に披針形～線状披針形。孢子嚢穂は卵形で小枝の先に1～2個頂生し、下向きに付く。やや湿った向陽の地に生じる。

<分布> [市内] 芥見東、岩野田北、金華、三輪北、常磐、日野、方県、網代で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(伊豆諸島、伊豆半島、東海地方以西の暖地)、四国、九州、小笠原に分布。

ウチワゴケ

コケシノブ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Crepidomanes minutum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 岩上や樹幹上に生育する常緑性のシダ植物。根茎は細長く横走り、暗褐色の毛が密生する。葉は直径15mm前後のうちわ形で、辺縁は不規則に浅裂～深裂する。低地のやや空中湿度の高い森林内などに生じる。別名：ムニンホラゴケ。

<分布> [市内] 岩野田北、金華、三輪北、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道と東北地方ではやや稀であるが、関東地方西部以西、沖縄、小笠原などではごく普通に生育する。

ホソバカナワラビ

オシダ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Arachniodes aristata

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 常緑性のシダ植物。葉は3回羽状複生から4回羽状深裂で、孢子葉では長さ50cmを超えることがある。羽片は5～10対で、最下のものが最も大きく、上部に行くほど短くなる。先端はさらに急に短くなり、頂羽片状となる。根茎は長く横走り、赤褐色の鱗片を付ける。葉柄はわら色で基部は褐色で鱗片が多い。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(関東地方以西)・四国・九州・琉球に分布。

オワセバニシダ

オシダ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Dryopteris ryo-itoana

<選定理由> B <定性的要件> ①②④ <変更コード> 4

<種の概要> 低山地の斜面の林床や石の多い場所に生育する常緑性のシダ植物。根茎は斜上し塊状、葉柄には茶褐色で微突起のある鱗片がやや密にある。葉身は三角状卵形、2回羽状複生、長さ40cmを超える。孢子嚢群は、小羽片の辺縁と小羽軸の中間につき、包膜は全縁で中央部が紅色。日本固有種。

<分布> [市内] 金華、長良東、方県で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(岐阜県のほか、紀伊半島・山口県)、四国に分布。

シロモジ

クスノキ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Lindera triloba

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地に生育する落葉低木。幹は叢生し、高さは6mに達する。小枝は細く、1年目の枝には秋になっても皮目が現れない。葉は互生し三角状倒広卵形、3中裂し、長さ7～12cm、幅7～10cm、基部から3脈が目立つ。両面共に無毛で裏面は粉白色。花期は3～4月。展葉に先だって咲く。花序は前年の枝に腋生する芽に数個付く。花序の柄は2～4mm、3～5個の花が散形に付く。花被片は黄色、雄花では長さ3mm、雌花ではそれより短い。果実は径10～12mmで球形、乾燥して黄褐色。

<分布> [市内] 三輪南、三輪北、網代で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 本州(中部地方以西)、四国、九州に分布。

アギナシ

オモダカ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Sagittaria aginashi

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> ため池や水田、湿地などに生育する抽水性～湿生の多年草。茎は短く葉は根生し、走出枝はない。葉は長さ20～50cmの柄があり、矢尻形、やや細い頂裂片と左右に下向する側裂片からなる。側裂片の先端は尖らず円みを帯びる。花期は7～10月。花茎は長さ45～100cmで白色の花を付ける。夏季以降に葉柄基部の内側に径3～6mmの小球茎(むかご)を付ける。

<分布> [市内] 芥見東、三輪南で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

フトヒルムシロ

ヒルムシロ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Potamogeton fryeri

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 池や沼、河川の淀みなどに生育する多年生の水生植物。地下茎は水底の泥の中を横走する。各節から根を出し、1節おきに水中茎を出す。水中茎は水深に応じて伸び、下部には沈水葉、上部には浮葉を付ける。沈水葉は披針形、浮葉は基部が円形または浅い心形で縁が葉柄に沿って流れる。花期は6～10月。浮葉の腋から穂状花序を出す。花序は長さ2.5～5cm、開花時には直立し、水面より上に出る。

<分布> [市内] 金華、常磐、三輪南、長森東、日野で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～琉球に分布。

シライトソウ	シロソウ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
---------------	-------	---

Chionographis japonica

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地の林中に生育する多年草。根出葉はロゼット状に出て、長楕円形～倒披針形で長さ3～14cm、下部はしだいに狭くなって柄となり縁は細かい波状になる。花期は5～6月。花茎は高さ15～50cm、線形の葉がある。花茎の頂に5～20cmの穂状花序がつく。花被片は白色。

<分布> [市内] 芥見、三輪北、方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(秋田県以南)～九州に分布。

チゴユリ	チゴユリ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
-------------	-------	---

Disporum smilacinum

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 山野の林下に生育する多年草。地下に細い根茎と匍枝がある。茎は高さ15～30cm。葉は楕円形～長楕円形で、長さ4～7cm、両面無毛だが縁に半円状の突起がある。花期は4～5月。茎頂に1～2個、横または下向きにつく。花被片は白色、披針形で長さ10～15mmで半開する。

<分布> [市内] 芥見東、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

カタクリ	ユリ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
-------------	-----	---

Erythronium japonicum

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 山野に生育する多年草。鱗茎は筒状長楕円形で長さ5～6cm。葉はふつう2個で、花茎の下部につき、長い柄があるが、地下に埋まっているため地上には葉だけが現れる。葉身は長楕円形～狭い卵形で、長さ6～12cm、緑色で暗紫色の斑紋がある。花期は4～6月。花は高さ10～20cmの花茎の先に1個つき、下向きに開く。花被片は紅紫色、披針形で長さ4～5cm。鱗茎から澱粉をとり、片栗粉として使用する。

<分布> [市内] 芥見、常磐、網代で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

クロヤツシロラン	ラン科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
-----------------	-----	--

Gastrodia pubilabiata

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 常緑照葉樹林やスギ植林、竹林などの林床に生育する多年草。葉緑体を持たない菌従属栄養植物。茎は高さ2～3cm。花期は9～10月。花序は短縮し、茎頂から数個の花が束生状にでる。花は汚紫褐色。茎は果実期には高さ数十cmに伸長する。

<分布> [市内] 黒野、常磐、方県で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(関東以西)、四国、九州に分布。

トンボソウ	ラン科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
--------------	-----	--

Platanthera ussuriensis

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 山林の樹下に生育する多年草。茎は高さ15～35cm、下部にやや接して2葉があり、その上に数個の鱗片葉がある。葉は狭長楕円形～倒披針形で長さ8～13cm、幅1～3cm。花期は7～8月。穂状花序に淡緑色の小花を多数付ける。

<分布> [市内] 岩野田北、常磐、方県、網代で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 南千島、北海道～九州に分布。

カヤラン	ラン科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
-------------	-----	--

Thrixspermum japonicum

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ② <変更コード> 11,13

<種の概要> 常緑樹林内の樹幹に着生する多年草。気根は茎の中部以下から出て細長い。茎は細く、長さ3～7cm、分枝することなく古い葉鞘に包まれる。葉は10～20個、左右2列に互生し、披針形で長さ2～4cm、幅4～6mm、鈍頭、基部は細く、葉鞘に関節する。花期は3～5月。花茎は細く、葉腋から出て淡黄色の花を数個付ける。

<分布> [市内] 芥見東、岩、金華、常盤、三輪北、日野、方県で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(岩手県以南)～九州に分布。

アヤメ	アヤメ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
------------	------	--

Iris sanguinea

<選定理由> B,C,E,F <定性的要件> ②③ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山地のやや乾いた草地に生育する多年草。葉は長さ30～50cm、幅5～10mm、中脈はあるが目立たない。花期は5～7月。花は高さ30～60cmの花茎に2～3個付く。花弁は紫色で径8cm内外。爪部は黄色地に紫色の細脈がある。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ナルコユリ	クサシギカズラ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
--------------	----------	--

Polygonatum falcatum

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山地の林下に生育する多年草。根茎は太く節間は短い。茎は円柱形で稜はなく、高さ50～100cm。上部は弓上に曲がる。葉は披針形で、長さ8～15cm、裏面脈状に小突起がある。花期は5～6月。葉腋に3～5個つき、散房状に下垂する。花筒は緑白色で長さ17～23cm、花糸は長さ5～7mm。液果は径8～10mmで黒紫色に熟す。

<分布> [市内] 芥見、方県で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

アマドコロ	クサシギカズラ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
--------------	----------	--

Polygonatum odoratum var. *pluriflorum*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山野に生育する多年草。根茎は長く、径4～7mm、白色で節間は長い。茎は高さ30～80cm、稜角があり、上部は弓上に曲がる。葉は長楕円形で、長さ5～15cm、裏面は白色を帯びる。花期は4～5月。花は葉腋に1～2個下垂する。花筒は長さ15～20cm、白色で先は緑色を帯びる。花糸には細突起がある。液果は径10mmで黒紫色に熟す。

<分布> [市内] 芥見、芥見東、金華、三輪南、日野、方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ニッポナイヌヒゲ	ホシクサ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
-----------------	-------	--

Eriocaulon taquetii

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 湿地や水中に生育する無茎の一年草。葉は多数束生し、披針状線形でやや厚く、長さ10～20cm。花茎は高さ15～22cm、ややねじれる。花期は8～10月。頭花は倒円錐形または半球形で径6～8mm。総苞片は披針形で先は尖り、頭花より長い。

<分布> [市内] 芥見東、金華、三輪北、日野で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

マツバスゲ	カヤツリグサ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
--------------	---------	--

Carex biwensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 湿地に生育する多年草。茎は高さ10～40cm、鈍3稜があって平滑。葉は幅約1.5mm。小穂は1個で頂生し長さ1～2cmで芒はなく、上部は雄花部で線形、下部は雌花部で長楕円形。雌鱗片は錆色。花期は5～6月。瘦果は3稜形で長さ約1.3mm、赤褐色。柱頭は3個。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

ウマスゲ	カヤツリグサ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：情報不足 環境省2020：－
-------------	---------	--

Carex idzuroei

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> 4

<種の概要> 水湿地に生育する多年草。太く長い匍匐枝がある。稈は高さ55～70cm、平滑で上部はややざらつく。葉は稈と同長あるいは長く、幅4～8mm、3脈が顕著。基部の鞘は長さ3～5cm、暗赤紫色。花期は5～6月。小穂は稈の先端から15～25cmの間に4～5個つく。頂小穂は雄性で長さ2.5～5cm、線形、鱗片は蒼白色。側小穂は雌性で、長楕円形、長さ1～3cm、鱗片は淡黄褐色、光沢がある。えい果はゆるく果胞に包まれ長さ3.5～3.8mm、幅1.9～2.1mmで3稜形。柱頭は3個。

<分布> [市内] 金華、合渡、城西で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(関東地方以西)、四国、九州に分布。

オオハリイ	カヤツリグサ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
--------------	---------	--

Eleocharis congesta var. *congesta*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 湿地や水田跡地に生育する多年草。茎は高さ10～30cm、幅0.2～1mm、鮮緑色。花期は6～10月。小穂は披針形～狭卵形、長さ3～8mm、幅1.5～2.5mm。時に基部に腋芽ができる。果は倒卵形、鈍3稜形で黄緑色、長さ0.7～1.2mm、刺針は6個。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～琉球に分布。

ノテツキ	カヤツリグサ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
-------------	---------	--

Fimbristylis complanata f. *exaltata*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 平地や山地の湿地に生育する多年草。茎は高さ20～80cm、扁平で平滑、ほとんど叢生しない。葉は幅1.5～3mm。花期は6～10月。小穂は披針形で長さ5～8mm、褐色の5～15個の小花からなる。瘦果は3稜ある倒卵形で長さ約0.9mm、淡色で表面は平滑あるいは瘤状の突起がまばらにある。

<分布> [市内] 芥見東、金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州～琉球に分布。

ヒメコヌカグサ	イネ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：準絶滅危惧
----------------	-----	--

Agrostis valvata

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山のやや湿った場所にまれに生育する多年草。根茎は発達せず稈は束生、高さ40～70cm。葉は扁平で長さ7～15cm、幅3～5mm。花期は5～6月。小穂は長さ2.5～3mm、淡緑色でしばしば赤紫色を帯びる。苞穎は同形、小花は淡白色で苞穎より少し長く、芒は無い。同じコヌカグサ属の中では、小花が苞穎よりやや長いことが特徴である。

<分布> [市内] 芥見東、金華、日野で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～九州に分布。

ヒメノガリヤス

イネ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Calamagrostis hakonensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 山地や丘陵地に生育する多年草。根茎は短くて硬く、茎は細く高さ30～60cm、時に群生する。葉は扁平で幅3～6mm、途中でねじれ、表裏反転することがある。葉鞘の上端には環状に短毛がある。花期は7～10月。長さ5～8cmの円錐花序に長さ3～5mmの淡黄緑色の小花を付ける。

<分布> [市内] 金華、長良、長良東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

チョウセンガリヤス

イネ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Cleistogenes hackelii

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 日あたりの良いやや乾燥傾向にある山道などに生育する多年草。茎は高さ40～100cm。葉は短線形で、葉鞘には長毛がある。花期は8～10月。長さ4～8cmの円錐花序に鉛緑色で赤紫色の小花を付ける。

<分布> [市内] 日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

トウササクサ

イネ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Lophatherum sinense

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山林の日陰あるいは半日陰に生育する多年草。茎は高さ40～80cm。葉は互生し、広披針形で長さ15～20cm、幅3～4cm、先は鋭く尖る。花期は8～10月。茎の頂から長さ15～30cmの円錐花序を出し、長さ7～8mmの小穂を多数付ける。護穎は広卵形で先端には短い芒があり、芒には下向きの小刺があって衣服に付着する。

<分布> [市内] 網代で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(北陸・近畿以西)～九州に分布。

コムギヤ

イネ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Melica nutans

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地の林内に生育する多年草。茎は細く直立し、高さ20～50cm。葉は線形で長さ5～15cm、幅2～5mm。花期は5～7月。花序は総状で長さ8～15cm、時に下方に小さい枝を少数付ける。小穂の長さは6～8mm、楕円形で帯赤紫色または白緑色。和名の由来は、このかわいらしい小穂が米粒に似ていることからきている。

<分布> [市内] 金華、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ミヤコザサ

イネ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Sasa nipponica

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 落葉樹林の林床や山地の稜線の風衝地に生育する木本植物。稈は高さ50～80cm、細く単一で分枝しない。稈鞘は無毛、節間は細長く無毛または逆向きの細毛がある。葉鞘は無毛。葉は長楕円状披針形で長さ15～25cm、幅2～5cm、上面無毛または長毛が散生し、裏面は軟毛が密生する。肩毛はよく発達し放射状、時に欠如。葉は冬季、縁が白く枯れることが多く、翌年の夏には全部更新する。

<分布> [市内] 金華、三輪北、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道(日高南部)、本州(太平洋側)、四国、九州に分布。

イブキザサ

イネ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Sasa tsuboiana

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 落葉樹林の林床や山地の稜線の風衝地に生育する木本植物。稈は高さ1.5～2mで剛壯、上方で密に枝を分岐する。時に下部でもまばらに枝を出す。稈鞘、葉鞘、節、節間など全て無毛。稈鞘は稈の下部では短く節間の半分以下。葉身は長楕円状披針形～披針形で長さ15～28cm、幅3～6cm、両面無毛。肩毛は放射状。花梗は枝から出て、葉より少し超出する。

<分布> [市内] 金華、長森西、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(中南部の太平洋側)、四国、九州(北部)に分布。

ミヤマキケマン

ケシ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Corydalis pallida

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地や低地の日あたりの良い草地に生育する無毛の越年草。茎は円く、下方はよく分枝し、高さは約50cmになる。葉は卵形～長卵形で1～2回羽状複葉、小葉は広卵形で羽状に深裂し、更に欠刻がある。花期は4～7月。総状花序は長さ3～10cmで密に多数の花を付ける。花は黄色で、長さ20～23mm。蒴果は線形、長さ2～3cmで著しく数珠状となる。

<分布> [市内] 金華、長良東、日野、方県、網代で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 本州(近畿地方以東)に分布。

オノマンネングサ

ベンケイソウ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Sedum lineare

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 低山地の岩上、林縁などに生育する多年草。茎は長さ10～25cm、基部は匍匐し上部は斜上する。葉は3個輪生し、柄は無く扁平で線形～線状披針形、長さ2～3cm、幅2～2.5mm、淡黄緑色。花期は5～6月。集散花序をつけ、花は5数性。花弁は黄色で披針形～狭披針形、長さ6～7mm。

<分布> [市内] 岩、金華、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

ヒメレンゲ

ベンケイソウ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Sedum subtile

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 沢沿いの岩上などに生育する多年草。花後に花茎の基部の葉腋から走出枝を出し、その先端に小さなロゼットをつくって越冬する。茎の下部の葉はさじ型、中・上部の葉は広線形～狭倒披針形、長さ5～20mm、幅1～3mmで鋭頭～鈍頭。花期は5～6月。花は5～10cmの直立する花茎に集散状に頂生する。花弁は黄色で菱状楕円形～菱状披針形、長さ4.5～6mm。

<分布> [市内] 岩、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～九州に分布。

ジャケツイバラ

マメ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Caesalpinia decapetala var. *japonica*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 急傾斜地や川原などに生育するつる性の落葉低木。茎は他の物に寄りかかるようにして伸び、枝、葉柄、葉軸と共に著しい逆刺がある。葉は偶数羽状複葉で、6～16個の小葉がある。小葉は長楕円形～倒卵形、長さ10～25mm、幅5～10mm。花期は4～6月。花序は頂生する総状花序で、長さ20～30cm、黄色の花を多数付ける。花柄は3～4cm。豆果は長楕円形で長さ7～10cm、幅約3cm。10個内外の種子を入れる。

<分布> [市内] 芥見、芥見東、三輪北、常磐、長良東、方県で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(宮城県・山形県以南)、四国、九州、琉球に分布。

タンキリマメ

マメ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－*Rhynchosia volubilis*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 海岸や平地から低山地の草地、林縁などに生育するつる性の多年草。つるは長さ2m以上になる。茎には下向きの黄褐色の短軟毛がある。小葉は菱状倒卵形～広倒卵形で、両面ともに黄褐色の腺点と脈状に伏した短軟毛が密にある。花期は7～10月。花序は基部の葉よりも短く、短柄があり、5～20花を付ける。花は黄色で長さ8～10mm。萼は短軟毛をやや密生し、腺点がある。

<分布> [市内] 三輪南、日野で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 本州(千葉県以西)～琉球に分布。

コゴメウツギ

バラ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Neillia incisa*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地の日あたりの良い場所に生育する落葉低木。樹高は2.5mに達する。若枝は細く紅褐色、軟毛があり、よく分枝する。葉は三角状広卵形で、長さ2～6cm、幅1.5～3.5cm、先は尾状に伸びて尖り、羽状に中裂または浅裂し、重鋸歯がある。葉の裏面には5～7対の側脈があり、脈上には軟毛をやや密生する。花期は5～6月。円錐または散房花序は頂生および腋生し、長さ2～6cm。花は黄白色で多数付ける。

<分布> [市内] 長良東、藍川で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

ワタゲカマツカ

バラ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Pourthiaea villosa var. villosa*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 丘陵地や低地に生育する落葉低木～小高木。樹高は7mに達する。葉は紙質でやや硬く、広倒卵形～狭倒卵形、長さ4～12cm、幅2～6cm、縁には鋭い小型の鋸歯が多数ある。花期は4～5月。花序は散房状で枝先に頂生し、10～20花を付ける。花は径10～13mm、花弁は白色、ほぼ円形～広腎臓形。果実は倒卵形～楕円形、長さ8～10mm、幅5～7mm、赤色または黄赤色に熟す。花の時期まで、若枝、葉柄、葉の裏面、花序の軸、萼の外面などに白色の綿毛が密生することで、近似のカマツカと区別できる。

<分布> [市内] 金華、長森西、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ミヤマフユイチゴ

バラ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Rubus hakonensis*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 林下などに生育するつる性の常緑低木。茎は細く、細い刺を散生し、軟毛がある。葉は卵形～広卵形、長さ5～8cm、幅4～7cm、3～5浅裂する。縁には小芒に終わる細鋸歯があり、表面には伏毛を散生、裏面には脈上に毛があり網脈が隆起する。花期は8～10月。花序は腋生し総状でやや密に数花を付ける。小花柄は花序の軸とともに短毛がある。花弁は白色、長さ4～5mm。果実は径約9mmの球形で、初冬に紅熟する。

<分布> [市内] 網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)、四国、九州に分布。

ワレモコウ

バラ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－*Sanguisorba officinalis*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 日あたりの良い丘や山地の草地に生育する多年草。根茎は太く、葉を根生する。茎は高さ30～100cmになり、上部で分枝する。根出葉は有柄で、5～11個の小葉からなる。小葉は楕円形～長楕円形、長さ2.5～5cm、縁には三角形のそろった歯牙がある。花期は8～10月。枝先に楕円形で長さ2～2.5cmの穂状花序を付ける。花は暗紅色で穂の上から咲き始める。

<分布> [市内] 芥見、岩、金華、三輪北、長良東、日野、方県で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

トウグミ	グミ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
-------------	------------	--

Elaeagnus multiflora var. hortensis

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 山地に生育する落葉低木。高さ2~4m、幹は黒褐色。枝はしばしば刺に終わる。枝には褐色から赤褐色の鱗状毛が密生する。葉は互生し長さ3~8cm、幅1~3cm、楕円形~長楕円形。表面には早落性の銀色の星状毛があり、裏面には銀色の鱗状毛が密生し、赤褐色の鱗状毛が混じる。花期は4~6月。花は花弁が無く、萼は淡黄色、銀色の鱗状毛を密生し、赤褐色の鱗状毛が混じる。葉腋から1~2花が下垂する。果実は大きく長楕円形で長さ15~20mm、夏に赤く熟す。庭木としても良く植栽される。

<分布> [市内] 金華、長良東、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州(近畿地方以北、但し静岡県~福島県の太平洋側を除く)に分布。

アキグミ	グミ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
-------------	------------	--

Elaeagnus umbellata var. umbellata

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 低地から山地の日あたりの良い場所や川原などに生育する落葉低木。樹高は2~3m。枝はしばしば刺に終わる。小枝、葉柄、花柄、子房の鱗片は銀白色または淡赤褐色で、薄い色をしているものが多い。葉は互生し倒卵状楕円形~倒披針形、長さ4~8cm、幅1~2.5cm、裏面は銀色の鱗片に厚く被われ、その上に黄褐色ないし赤褐色の鱗片を散生する。表面には脱落性の鱗片がある。花期は4~5月。花は葉腋に1~3個束生し、花弁は無く、萼には鱗状毛が密生する。果実は球形で径約7mm、9~10月に赤く熟す。表面には赤褐色や白色の鱗状毛がある。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道(渡島半島)、本州、四国、九州(屋久島まで)に分布。

ケンポナシ	クロウメモドキ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
--------------	-----------------	--

Hovenia dulcis

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> -

<種の概要> 丘陵地の斜面や沢沿いに生育する落葉高木。樹高25mにおよぶ。樹皮は縦に浅く裂け、薄くはがれる。葉は互生で広卵形、長さ10~20cm、幅6~14cm、基部から3出脈があり、やや粗い鋸歯がある。脈は裏面に隆起する。葉柄は長さ2~5cm、上端に目立たない数個の腺体がある。花期は6~7月。枝の上部の葉腋や枝先に集散花序を付ける。花は小さく径約7mmで帯緑白色。核果は球形で径約7mm。浅く3裂し紫褐色。

<分布> [市内] 長良東、方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道(奥尻島)、本州、四国、九州に分布。

カテンソウ	イラクサ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
--------------	--------------	---

Nanocnide japonica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山野の林下に生育する多年草。茎は高さ10~30cm。葉は互生し、葉身は扇状卵形、基部は切形、長さ幅共に1~3cm、先は円く、縁に数対の深い鈍歯牙がある。葉柄は葉身とほぼ同長。花期は4~5月。そう果はレンズ形で細点があり、長さ1mm内外。

<分布> [市内] 長良東、日野で記録がある。
[県内] 県中部、西部に分布。
[県外] 本州~九州に分布。

クヌギ	ブナ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
------------	------------	--

Quercus acutissima

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 落葉高木。樹高15m、径60cmに達する。樹皮は灰褐色で不規則に割れる。葉は互生し、長楕円状披針形で長さ8~15cm、側脈は13~17対で、先は2~3mmの芒となり葉縁から突出する。葉の表面は無毛、裏面は黄褐色の脱落性軟毛を密生するがのちほとんど無毛。花期は4~5月。雄花序は新枝や葉が伸びる前に出て、下垂し、長さ10cm内外で軟毛を密生する。雌花は新枝の中部から先の葉腋に1~3個付く。堅果は球形で、径2~2.3cm。総苞片は広線形でらせん状に密につき、反り返り灰白色の短い毛を密生する。薪炭材やしいたけ栽培のほだ木として広く栽植される。

<分布> [市内] 芥見、芥見東、合渡、三輪北、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(岩手県・山形県以南)。四国、九州、琉球に分布。

イチイガシ

ブナ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Quercus gilva

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 常緑高木。樹高は30m、径1.5mに達する。樹皮は灰黒褐色で皮目が多く、大小不揃いな薄片となって剥げ落ち、波状の紋様ができる。若枝は黄褐色の星状毛を密生する。葉は互生し、倒披針形～広倒披針形、革質で長さ6～14cm、上半分には鋭い目立つ鋸歯がある。葉の表面には初め黄褐色の星状毛を密生するが、のち無毛、裏面は宿存性の黄褐色の星状毛を密生する。花期は4～5月。雄花序は新枝の下部に数個ついて下垂し長さ5～16cm、黄褐色の毛を密生する。雌花序は新枝の上部の葉腋に直立し、数個の花を穂状に付ける。堅果は卵円形から広卵形、径1～1.3cm、年内に熟す。殻斗は杯形。

<分布> [市内] 金華、日野、梅林で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東地方南部以西の太平洋側)、四国、九州に分布。

カワラハンノキ

カバノキ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Alnus serrulatooides

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 川岸などに生育する落葉低木または小高木。樹高5～7m。幹は暗褐色で皮目があり、下部からよく枝分かれする。葉はやや厚く、広倒卵形、長さ5～10cm、幅3～7cm、先端は微凹頭。側脈は7～9対あり、裏面に隆起し、脈上または脈腋に毛がある。花期は2～3月。葉に先だって開く。雄花序は枝先に2～5個つき、雌花序はその下の葉腋に1～5個つく。堅果は広卵円形で長さ約3mm。

<分布> [市内] 芥見、芥見東、岩、金華、三輪南、長良、長良東、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(東海・近畿・中国地方)、四国、九州(宮崎県)に分布。

ゴキツル

ウリ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Actinostemma tenerum

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 水辺に生育する一年生のつる植物。葉は三角状披針形で先は尖り、長さ3～10cm。花期は8～11月。径7mm程度の黄緑色の花を付ける。果実は長さ2cm程度の卵状で、熟すと中央で上下に分かれる。この状況からゴキツル(合器蔓)の名がある。

<分布> [市内] 茜部、厚見、合渡、黒野、鷺山、西郷、城西、長森東・南、日置江、柳津、鶉で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

ヤマアイ

トウダイグサ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Mercurialis leiocarpa

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山林の下草として生育する多年草。地下茎は繰り返し分枝し、草丈は30～40cmになる。地下茎は乾燥すると紫色になる。雌雄異株。葉は対生し、葉身は長楕円状披針形～円状楕円形、長さ10cm前後、鋸歯縁。花期は4～7月。枝先の葉腋から花枝を出し、穂状花序を付ける。染料植物のアイヤリウキウアイと混同されるが、本種は、青藍の色素を含まないため、藍色にはならず緑色となる。

<分布> [市内] 芥見、日野で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 本州～琉球に分布。

シラキ

トウダイグサ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Neoshirakia japonica

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地に生育する落葉小高木。樹高は4～6m。幹は灰黒色で、縦に浅い裂け目がある。葉は互生し、長さ1～2.5cmの柄があり、卵状楕円形～倒卵状楕円形、長さ7～17cm、幅6～11cm、全縁。葉の基部には2個の有柄の腺点がある。花期は5～7月。花は頂生の長さ6～8cmの総状あるいは穂状花序につき、大きな腺体が基部の左右にある。花序の上には多数の雄花をつけ、下部には1～3個の雌花を付ける。花弁はない。果実は三角状偏球形、長さ6～9mm、幅18mm。

<分布> [市内] 金華、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(岩手県、山形県以南)、四国、九州、琉球(沖縄島・伊平屋島)に分布。

オノエヤナギ

ヤナギ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－*Salix udensis*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 落葉高木で、高さ15mに達する。小枝は褐色、ふつう無毛だが、若枝はまれに密に軟毛がある。若葉の縁は裏側に巻く。成葉は披針形から狭披針形、長さ10～16cm、幅1～2cm、先端は長く尖り基部は鋭形ないし鈍形。表面は暗緑色、無毛で光沢がある。裏面は帯白淡緑色、やや無毛が短圧毛を散生する。托葉は斜卵形。花期は4～5月。

<分布> [市内] 合渡、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道、本州、四国に分布。

シロバナオオタチツボスミレ

スミレ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Viola kusanoana* f. *alba*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地に生育する多年草。地下茎は長く横たわり、木化し肥厚する。大型のスミレで、茎は数本叢生し、果期には高さ40cmになる。葉は円心形で長さ3～5cm、低い鋸歯があり、基部は心形。托葉は羽状に深裂する。花柄は根生せず、茎上に腋生する。花期は4～5月。花は大きく白色。花弁は長さ15～18mm、距は長さ6～8mm、左右から平たく幅が広い。

<分布> [市内] 長良東で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道、本州(日本海側)、九州(北部)に分布。

スミレサイシン

スミレ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Viola vaginata*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地の林下に生育する多年草。地下茎はやや太くて横たわり、よく分枝する。葉は花に遅れて開き、きわめて大きく長さ5～14cm、円心形で基部は深い心形で先は尖る。縁には低い鋸歯がある。葉の裏面脈上にまばらに毛がある。托葉は離生、披針形で長さ6～8mm。花期は4～6月。花は大形で淡紫色、花弁は長さ15～20mm。距は太短くて、長さ4～5mm。

<分布> [市内] 網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部に分布。
[県外] 北海道(西南部)、本州(主として日本海側)に分布。

ヒメアギスミレ

スミレ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Viola verecunda* var. *subaequiloba*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 湿地や湿原に生育する多年草。ツボスミレに似るが、葉が三日月状となり、基部の湾入もきわめて広い。茎は地表を這い、途中からも根を出す。高さ5cm程度。葉は幅1.5～2.5cm。托葉は披針形。花期は4～5月。花は白色。

<分布> [市内] 岩野田、三輪南、三輪北、長良東、網代、藍川で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(近畿以西)～九州に分布。

ミズユキノシタ

アカバナ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－*Ludwigia ovalis*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 水辺に生育するやわらかい多年草。茎の下部は長く這い、上部は斜上・分枝し、長さ20～40cmになる。葉は互生し、広卵形～楕円状卵形。長さ1～2.5cm、幅1～1.8cm。花期は7～10月。葉腋に直径2mm程度の花を付けるが花弁は無い。

<分布> [市内] 黒野、三輪北、方県で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～琉球に分布。

ミツバウツギ

ミツバウツギ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Staphylea bumalda

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 林縁に生育する落葉小高木。樹高は1.5～3m。葉は対生、3小葉からなり、果期の葉では葉柄は長さ1.5～4cm、小葉は卵形で長さ2.5～7cm、幅1～3cm、先が芒状に尖る鋸歯があり、両面に細毛がある。花期は5～6月。花序は側枝に頂生し、長さ5～8cm、数個～十数個の花を付ける。花柄は8～12mm、花弁は5個で白色。蒴果は平たい風船状で上部が2～3に分かれる。

<分布> [市内] 金華、三輪南、長良、長良東、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

キブシ

キブシ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Stachyurus praecox

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山野の斜面や疎林に生育する落葉低木。樹高は7mに達する。樹皮は薄紫の汚褐色でやや光沢がある。葉は長さ1～3cmの柄があり、葉身は楕円形～卵形、長さ4～14cm、幅3～7cm、鋸歯縁、草質で表面はやや光沢がある。花期は3～4月。展葉前に前年枝の葉腋から長さ3～10cmの下垂する総状花序を出す。花は淡緑色、長さ7～9mm。果実は広楕円形～球形で、径7～12mm。黄褐色に熟す。

<分布> [市内] 芥見東、金華、長良、長良東で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道(西南部)、本州、四国、九州、小笠原に分布。

ツタウルシ

ウルシ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Toxicodendron radicans subsp. *orientale*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地から丘陵地に生育するつる性の落葉低木。気根を出して、木の幹を這い上る。若枝には褐色の毛が密生するがのち無毛となり赤褐色の皮目ができる。葉柄は3～10cm、褐色の毛が散生し、先に3枚の小葉がつく。葉身は卵状楕円形、側小葉の下部はゆがみ、頂小葉は左右相称、裏面には褐色の軟毛が密生する。花期は6～7月。葉腋から総状花序を伸ばして小さな花を多数付ける。雌雄異株。花弁は黄緑色。果実は偏球形で径約5mm、縦条がある。

<分布> [市内] 長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

エソウカエデ

ムクロジ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Acer pictum subsp. *dissectum* f. *dissectum*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 山地に生育する高さ20mに達する落葉高木。葉は対生し、葉身は5角形、長さ4～9cm、幅5.5～12cm、ふつう5中裂するが、若い木では5深裂し、鋸歯はなく基部は浅心形ないし切形、裂片の先は尾状鋭尖頭、裏面基部脈腋に短毛があるほかはほとんど無毛。葉柄は長さ3～13cm、枝の下部では葉身よりも長い。花期は4～5月。花序は複総状、有花枝に頂生し長さ3～4cm、上向きに10～50花を付ける。花は5数性で淡黄色。分果は長さ2～2.5cmで果翼は鋭角に開く。日本固有種。

<分布> [市内] 常磐、方県で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(岩手県～兵庫県)、四国、九州に分布。

コハウチワカエデ

ムクロジ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Acer sieboldianum

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 低山の林内に生育する落葉小高木。樹高は15mに達する。葉は対生、葉身は長さ4～7.5cm、幅5～10cm、7～11中裂し、よくそろった単鋸歯あるは重鋸歯がある。花時には花序や葉柄とともに裏面に白綿毛を密生するが、成葉では裏面脈状にわずかに残る程度。葉柄は長さ3～7cm、葉身と同長～2/3長。花期は5～6月。花序は複散房状、枝に頂生し、15～20花の雄花と両性花を混生する。花柄は長さ3～10mm。花弁は淡黄色。果期は6～9月。分果は長さ約2cm、果翼はほぼ水平に開き、短軟毛がある。日本固有種。

<分布> [市内] 常磐、方県で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

マツカゼソウ

ミカン科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Boenninghausenia albiflora var. *japonica*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地に生育する無毛の多年草。茎は高さ50～80cm、上方で分枝する。葉は互生し、3回3出羽状複葉でやわらかく、小葉は大きさが不同。頂小葉は倒卵形～楕円形で長さ10～25mm。葉裏には油点があり、独特の香りがある。花期は8～10月。花弁は白色で4個。

<分布> [市内] 網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(宮城県以南)～九州に分布。

コクサギ

ミカン科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Orixa japonica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 低地の二次林に生育する高さ3m程度の落葉低木。全体に臭気がある。若枝は緑色で2年目以降では灰白色となり皮目がある。葉は薄くて柔らかく、倒卵形で長さ5～13cm、幅3～7cm、表面には短毛が散生し、裏面には全体に毛がある。また全面に油点がある。花期は4～5月。花は緑色。

<分布> [市内] 芥見で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

キハダ

ミカン科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Phellodendron amurense

<選定理由> A,B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地に生育する落葉高木。樹高は25m、直径は1mに達する。樹皮にはコルク層がよく発達する。葉は対生し、5～11枚の小葉からなる奇数羽状複葉で、長さ15～35cm。小葉は卵形～卵状長楕円形、長さ4～12cm、幅1.5～5cm、縁に細かな鈍鋸歯がある。花期は6月。枝先に長さ7～13cmの散房花序を伸ばし、多くの花を付ける。雌雄異株。花弁は黄緑色で5枚、卵状長楕円形で長さ約4mm、内面に白毛が密生する。果実は径約1cmの球形で黒色に熟す。樹皮の内皮は黄色く黄蘗と呼ばれ、苦味健胃剤として利用される。

<分布> [市内] 常磐、方県で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部に分布。
[県外] 北海道、本州(東北地方・中部地方北部・近畿地方西部)、四国、九州に分布。

ニガキ

ニガキ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Picrasma quassioides

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 低地の山林に生育する高さ12mに達する落葉高木。枝は赤褐色で皮目が目立ち、樹皮には苦みがある。葉は奇数羽状複葉で、長さ15～25cm、小葉は対生あるいはやや対生し、1～13枚。長さ3～7cm、幅1～3cm、鋭鋸歯縁。花期は4～5月。葉腋の集散花序に多数の花を付ける。花弁は黄緑色で楕円形。株全体に苦み物質のカッシンを含み、薬にも使われる。

<分布> [市内] 芥見、芥見東、常磐で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ヤマガラシ

アブラナ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Barbarea orthoceras

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 深山の溪流のほとりに生育する多年草。茎は直立して上部は枝を分け、高さ20～60cmになる。葉は頭大羽状に中～全裂し、長さ6～12cm、頂小葉は楕円形～広卵形、側裂片は小さい。茎葉は基部が耳状に伸び、茎を抱く。花期は5～8月。花序は多数の花をつけ、花後に伸びる。花弁は黄色で倒卵形、長さ4.5～7mm。長角果は4稜形で直立し、長さ3～5cm。

<分布> [市内] 岩、三輪北、長良東、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県北部、西部に分布。
[県外] 北海道、本州(中部以北)に分布。

ジャニンジン	アブラナ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
---------------	-------	--

Cardamine impatiens

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 木陰や水湿地に生育する一年草～越年草。茎は細く直立して高さ10～80cmになる。葉は薄く、羽状複葉。小葉はあらかち切れ込み、側小葉は2～9対、柄の基部に小さい耳部がある。花期は3～6月。花弁は緑白色、長楕円状へら形で、長さ2～3.5mm。長角果は無毛で長さ15～25mm。

<分布> [市内] 長良東、日野で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ミズタガラシ	アブラナ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
---------------	-------	--

Cardamine lyrata

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 水田や水湿地に生育する多年草。全草無毛で高さ30～60cm。茎は花時まで直立し、花後は倒れて地を這う性質がある。葉は頭大羽状複葉、長さ1～7cm、短い柄がある。頂小葉は大きく広卵形、長さ6～25mm。側小葉は小さく卵形、2～7対ある。花期は4～6月。径1cm程度の白色の花を10～30個、総状花序に付ける。長角果は線形、長さ2～3cm、幅約1.2mm。

<分布> [市内] 金華、合渡、三輪北、常磐、長森西、長良東、日置江、日野、方県で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～九州に分布。

カナビキソウ	ビャクダン科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
---------------	--------	--

Thesium chinense

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 日あたりの良い草地に生育する多年草。半寄生植物。茎は高さ10～25cm、陵があり粉緑白色。葉は線形、鋭頭で長さ2～4cm。花期は4～6月。花は腋生し、白色で小型。

<分布> [市内] 金華、合渡、早田、長良、長良西、長良東、島、日野で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道南部～琉球に分布。

タニソバ	タデ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
-------------	-----	---

Persicaria nepalensis

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 原野や山地の日陰、湿地に生育する一年草。茎は高さ10～50cm、赤みを帯びよく分枝し無毛。葉は有柄で卵形、長さ1～9cm、幅0.5～3cm、裏面に毛と腺点がある。葉柄には広い翼があって基部は茎を抱く。花期は7～10月。総状花序は頂生か腋生、頭状に集まる。萼は広い筒状で4裂し緑色、白色または紅色。そう果はレンズ状で、表面には小さなこぶ状突起がある。

<分布> [市内] 藍川で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ネバリタデ	タデ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
--------------	-----	--

Persicaria viscofera var. *viscofera*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山野の日あたりの良い場所に生育する一年草。茎は直立し、高さ40～80cm、上部で枝を分け、葉と共にあらい毛がある。葉は披針形～広披針形で長さ4～10cm、幅1～2cm。托葉鞘は長い筒形で外面に毛があり縁毛は長い。花期は7～10月。総状花序は細い穂状で直立し、長さ3～5cm。そう果は3稜形で光沢のある黒色。長さ1.5～2mm。

<分布> [市内] 金華、日野で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

フシグロ	ナデシコ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
-------------	-------	--

Silene firma

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 低地から山地の日あたりの良い場所に生育する越年草。茎は直立し、高さ30～100cm、節は暗紫色を帯びる。葉は披針形～卵状披針形、長さ3～10cm、幅1～3cm。花期は6～9月。花は茎頂や葉腋につき、花柄は1～3cm。花弁は白色。

<分布> [市内] 合渡、長良東、島、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

サワハコベ	ナデシコ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
--------------	-------	---

Stellaria diversiflora

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山林下の湿地に生育する多年草。茎の下部は地を這い、上部は斜上し枝を分け、長さ5～30cm。葉は柄があり、卵形～三角状卵形、長さ1～4cm、幅0.8～2.5cm、表面には伏せ毛がある。花期は5～7月。花は長い柄があり、葉腋に単生する。花弁は5枚、白色で2中裂し、長さ4～7mm。種子は楕円形で長さ約2mm、星状の小突起を全面に密生する。

<分布> [市内] 金華、三輪北、方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州(日本海側)、九州(北部)に分布。

ミヤマハコベ	ナデシコ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
---------------	-------	--

Stellaria sessiliflora

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山間の川辺の半日陰地に生育する多年草。茎は株状で下部は地面を這い、高さ10～35cm。葉は長い柄があり、卵形～心円形、長さ1～4cm、幅0.7～2.5cm。花期は5～7月。花は葉腋に単生する。花弁は白色、2深裂して萼より長い。種子は腎円形、黒褐色で径1～1.2mm、点状突起がある。

<分布> [市内] 芥見、金華、長良、長良東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

タマアジサイ	アジサイ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
---------------	-------	--

Hydrangea involucrata

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 沢沿いの肥沃地や斜面などに生育する高さ2m程度の落葉低木。樹皮は灰白色で、不規則に裂け、はがれる。枝は太く円形の皮目を散生する。髄は太く、縦断面ははしご状。葉は両面ともに硬毛が生え、長楕円形～倒卵形、長さ10～25cm、幅4～12cm、縁には先が芒に終わる歯状の細かい鋸歯がある。花期は7～9月。花序は集散状で枝先に頂生し、初め円形の大きな数個の総苞に包まれて球形、のち脱落する。花弁様萼片は3～5個、広卵形～円形、長さ1～12mm、白色または紫色。普通花は小さく、花弁は5個、つぼみの時は紫色、のち淡紫白色となる。日本固有種。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(福島県～岐阜県)の主に太平洋側の山地に分布。

ヤマアジサイ	アジサイ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：－
---------------	-------	--

Hydrangea serrata var. *serrata*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 山地に生育する落葉低木。高さ1～2m。葉は草質で、長楕円形～卵状楕円形、長さ10～15cm、幅5～10cm、縁に三角状の鋸歯がある。葉柄は長さ1～3cm。花期は6～7月。花序は1～3cmの柄があり、集散状で径4～10cm。普通花の周辺に装飾花を付ける。装飾花は径1.3～3cm、有毛の長い柄がある。花弁様の萼片は4個のものが多く楕円形から円形、白色～淡青色でのちに淡紅色に変わるものが多い。

<分布> [市内] 芥見東、金華で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(福島県以南の主として太平洋側)、四国、九州に分布。

ツリフネソウ	ツリフネソウ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
---------------	---------	---

Impatiens textorii

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山麓の水辺に生育する一年草。茎は高さ50～80cmでやや赤みを帯び、節が隆起する。葉は互生し、葉身は菱状楕円形で長さ6～12cm、幅4～7cm、先は尖り縁に鋸歯がある。葉柄10～45mm。花期は8～10月。花序は葉腋から斜上し、花軸に紅紫色の突起毛がある。花柄は紅紫色で長さ10～15mm。花は紅紫色、正面の幅が25～27mm、側面の長さが35～40mm、内面に濃紫色の斑点がある。蒴果は披針形で長さ1～2cm。

<分布> [市内] 三輪北、常磐、長良東、日野、方県、網代で記録がある。

[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。

[県外] 北海道～九州に分布。

リュウキュウマメガキ	カキノキ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
-------------------	-------	---

Diospyros japonica

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地に生育する落葉高木。樹高は15mに達する。幹は灰白色で成木の樹皮は縦に浅く裂ける。葉は長さ7.5～17.5cm、幅3.5～7.5cm、裏面は粉白色。葉柄は1～3cm。花期は6月。雌雄異株。雌花は葉腋に単生し、黄色。花冠は長さ約7mm。果期は10～11月。果実は径1.5～3cmで球形～偏球形。橙黄色～橙赤色に熟す。

<分布> [市内] 網代で記録がある。

[県内] 県中部、東部に分布。

[県外] 本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球に分布。

マタタビ	マタタビ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
-------------	-------	---

Actinidia polygama

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 原野や丘陵地に生育する落葉性でつる性の木本植物で、よく分枝する。枝の髄は白色で太く中実、小枝は幼時には淡褐色の軟毛があり、のち無毛。葉は薄く、広卵形～長楕円形、長さ6～15cm、幅3.5～8cm、縁には尖った低平鋸歯があり、両面の脈状にはかたい毛が散生、裏面の脈腋には淡褐色毛がある。葉柄は長さ2～7cm。枝の上方につく葉は、表面全体あるいは先端が白色となる。花期は6～7月。花は白色で芳香があり、花弁は5枚で広楕円形～広倒卵形、長さ10～12mm。果実は長楕円形で、先端はくちばし状に細くなり、長さ2～2.5cm、橙黄色に熟し、多数の種子がある。

<分布> [市内] 金華、三輪北、網代で記録がある。

[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。

[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

アブラツツジ	ツツジ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
---------------	------	---

Enkianthus subsessilis

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地の林縁や岩地に生育する落葉低木。樹高は1～3m。葉は枝先に集まって互生し、葉身は倒卵形～楕円形、長さ1.5～4cm、幅0.8～2cm、表面主脈上に短軟毛、裏面脈状に短毛が散生し、しばしば褐色の縮れ毛が混じる。花期は5～6月。枝先から長さ3～5cmの総状花序を下垂し、5～14個の花を付ける。花序の軸には開出する軟毛が密生する。花柄は1～2cmで無毛。花冠は緑白色でつぼ形、長さ4～5mm、浅く5裂し、先は反曲する。雄蕊は10本。

<分布> [市内] 金華で記録がある。

[県内] 県北部、中部に分布。

[県外] 本州中北部に分布。

ヒカゲツツジ	ツツジ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
---------------	------	---

Rhododendron keiskei

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地の崖や岩上に生育する常緑低木。樹高は1～2m。若枝や葉柄に円形の鱗状毛と脱落性の長毛がある。葉は互生し、やや革質。葉柄は2～4mm。葉身は長楕円形で長さ3～8cm、幅0.8～2cm、両面に円形の鱗状毛があり、特に裏面では密生する。花期は4～5月。枝先1個の花芽から2～4個の花が散形状に開く。花柄は長さ1～1.5mm、円形の鱗状毛が散生する。花冠は淡黄色、上側内面に濃色の斑点があり、広漏斗形で径4～5cm、外面に円形の鱗状毛が散生する。

<分布> [市内] 芥見、芥見東、芥見南、岩、長良東、日野で記録がある。

[県内] 県中部、東部に分布。

[県外] 本州(関東地方以西)、四国、九州に分布。

オオアリドオシ

アカネ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Damnacanthus indicus var. major*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 常緑樹林内に生育する常緑低木。高さ10～100cm。節に刺があり、刺の長さは2～10mmと葉の長さの半分以下。葉は革質、長さ1～5cm、幅0.6～2cm、卵形で先は棘状に尖る。花期は4～5月。花は枝先あるいは葉のわきに1～2個つく。花冠は白色、漏斗形で筒は長さ約1cm、内面上部に毛が密生する。液果は球形で径4～5mm、赤熟する。別名：ニセジユズネノキ。

<分布> [市内] 岩、金華、長良、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(関東以西)、四国、九州、琉球(西表島まで)に分布。

マルバノホロシ

ナス科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Solanum maximowiczii*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地の林縁に生育する多年草。茎はつる状で無毛。葉は長楕円形～狭卵形、基部はくさび形に狭まって翼のある柄につながる。葉身は長さ5～10cm、幅1.5～4cm。花期は8～9月。茎の途中あるいは葉の反対側からまばらに分枝する集散花序を出す。花冠は淡紫色、深く5裂し、開くと背面に反り返り、径1cm。液果は径7～10mm、赤く熟す。

<分布> [市内] 金華、三輪北、長森西、長良東、梅林、網代で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～九州に分布。

サワトウガラシ

マタタビ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Deinostema violaceum*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 湿地に生育する一年草。茎は直立し高さ5～20cm、断面はやや4角。葉は対生し、やわらかく線状披針形、1本の主脈が顕著で、長さ5～10mm、幅1～2mm。花期は8～10月。上部の葉腋に長さ1～12mmの花柄を出しその先に1花を付ける。花冠は紅紫色で長さ5～6mm。茎の中部の葉腋には柄のない小さな閉鎖花を付ける。

<分布> [市内] 芥見東、金華、黒野、常磐、日野、方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、四国、九州に分布。

スズメノハコベ

オオバコ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類*Microcarpaea minima*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 休耕田など湿った場所に生育する小さな一年草。茎は多く分枝して地表を匍匐し、節ごとに細い根と小さな葉を付ける。葉は対生し柄がなく、長さ2～5mm、幅1～2mm。花期は7～10月。花は淡紅色で葉腋に1個付ける。

<分布> [市内] 芥見東、岩野田北、黒野、常磐、西郷、方県、網代で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～琉球に分布。

ナギナタコウジュ

シソ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Elsholtzia ciliata*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地の道端などに生育する一年草。茎は高さ30～60cm、4角で軟毛があり多く分枝する。葉は対生し、卵形～狭卵形、0.5～2cmの柄があり、葉身は長さ3～9cm、幅1～5cm。花期は9～10月。花穂はなぎなた状に曲がり、花は一方に偏ってつく。花冠は淡紅紫色で長さ約5mm、外面に毛が多く、雄蕊はわずかに花外につき出る。

<分布> [市内] 芥見、芥見東、芥見南、岩、金華、長良、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ヒキオコシ

シソ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Isodon japonicus

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> やや乾いた丘陵地に生育する多年草。茎は地下茎から数本直立し、高さ50～100cm、4稜があり、密に下向きの細毛がある。葉は広卵形で長さ6～15cm、幅3.5～8cm、鋸歯縁。花期は9～10月。茎の上部は多数分枝し、大きな円錐花序を作る。花冠は淡青紫色で、上唇には紫点がある。

<分布> [市内] 金華、三輪北、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道(西南部)～九州に分布。

コシロネ

シソ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Lycopus cavaleriei

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 湿地に生育する多年草。茎は直立し、高さ20～80cmになる。葉は菱状狭楕円形で、先は鈍く縁には粗い鋸歯があり、長さ3～4cm、幅1～2cm。花期は8～10月。花は葉腋に群がって付く。花冠は白色で径約3mm。

<分布> [市内] 金華、常磐、日野、方県で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ヒメシロネ

シソ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Lycopus maackianus

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山間の湿地に生育する多年草。茎は直立し高さ30～70cm、4稜がある。葉は対生し、厚く光沢があり、披針形～広披針形、長さ4～8cm、幅5～15cm、鋭い鋸歯がある。花期は8～10月。花は葉腋につき、白色で径約5mm。

<分布> [市内] 芥見東、岩、金華、三輪北、日野で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ウツボグサ

シソ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Prunella vulgaris subsp. *asiatica*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 山地の草地に生育する多年草。茎は高さ10～30cm、葉は対生で卵状長楕円形、長さ2～5cm、少数の低い鋸歯がある。花期は6～8月。茎頂に密な花穂をつくる。花冠は紫色で長さ1.5～2cm。

<分布> [市内] 芥見東、長良東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

タツナミソウ

シソ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Scutellaria indica

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,12

<種の概要> 丘陵地の半日陰に生育する多年草。茎は高さ20～40cm、短く這った地下茎から立ち上がり、白色の荒い開出毛が多い。葉は対生で数対あり、広卵心形～三角状卵形、長さ幅ともに1～2.5cm、両面ともに軟毛があり縁には鈍い葉牙がある。花期は5～6月。花序は開出毛が多く、長さ3～8cmでやや密に花を付ける。花は青紫色、長さ2cm内外、下唇には紫点がある。

<分布> [市内] 三輪北、長良東で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

クチナシグサ

ハマウツボ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Monochasma shearerii

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 低地のやや乾いた落葉広葉樹林下に生育する半寄生の越年草。茎はやや地を這い、長さ15～60cm、曲がった毛が散生する。茎上部の葉は線形で両面に毛が散生し、長さ20～35mm、幅2～3mm。花期は4～5月。茎上部の葉腋に淡紅紫色の長さ10mm程度の花を1個ずつ付ける。

<分布> [市内] 芥見東、芥見南、岩野田北、常磐、方県、網代で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東地方、中京地方、中国地方)、四国、九州北部のいずれも乾燥した地域に分布。

ヌマダイコン

キク科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Adenostemma lavenia

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 湿った場所や溝などに生育する多年草。茎は高さ30～100cm。葉は卵形～卵状長楕円形、長さ4～20cm、鈍鋸歯縁で両面にまばらに短毛がある。葉柄は1～6cm。花期は9～11月。開花時は径5～6mm、のち7～8mmとなる。小花は全て両性の筒状花からなる。

<分布> [市内] 三輪北、藍川で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 本州(関東地方以西)～琉球に分布。

イヌヨモギ

キク科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Artemisia keiskeana

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> やや乾いた丘陵地に生育する多年草。茎は叢生し、花を付けない茎は短く、先にロゼット状に葉を付ける。花茎は高さ30～80cm、下部の葉は花時には枯れる。中部の葉は倒卵形からさじ型で、長さ4.5～8.5cm、大きな鋸歯がある。花期は8～10月。総状円錐花序に多数の下向きの花を付ける。花は球形で、幅3～3.5mm。そう果は狭倒卵形で長さ2mm、毛は無い。

<分布> [市内] 芥見東で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ミヤマヨメナ

キク科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Aster savatieri

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山の陰地に生育する多年草。茎は直立し高さ20～50cm、根出葉は花時にもある。葉は長楕円形～卵状長楕円形で、長さ3.5～6cm、幅2.5～3cm、縁に大きな鋸歯がある。花期は5～6月。枝の先に径3.5～4cmの花を1個つけ、舌状花は淡青紫色。そう果は倒卵状長楕円形で冠毛はない。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

センダングサ

キク科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Bidens biternata

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 暖地の湿潤な草地や溝沿いに生育する一年草。茎は高さ30～150cm、断面はやや四角形。葉は対生し、1～2回羽状複葉。葉柄を含め長さ9～15cm、両面に毛が多い。花期は9～11月。頭花は径7～10mm。舌状花は黄色。そう果は線形で偏4稜形、長さ9～19mm、芒は3～4本。

<分布> [市内] 岩、合渡、城西、早田、長良東、島、日置江、日野、本郷で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～九州に分布。

ヤブタバコ	キク科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
--------------	-----	---

Carpesium abrotanoides

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 集落や藪などに生育する一年草～越年草。茎は高さ約1mまで直立し、その後頂点から放射状に長大な枝を開出する。葉は広楕円形～長楕円形で長さ20～28cm、幅8.5～15cm。基部は広い翼のある柄となり、裏面に腺点がある。花期は9～11月。放射状に延びた枝の葉腋に無柄の頭花が下向きにつく。

<分布> [市内] 長良東、日野、方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～琉球に分布。

サワアザミ	キク科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
--------------	-----	---

Cirsium yezoense

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地の溪流近くに生育する大型の多年草。茎にはくも毛があり、高さ1～2m。葉は薄く楕円形で、長さ50～60cm、幅30cmに達し、羽裂する。花期は9～10月。頭花は点頭し、頭花と同長またはそれより長い4～6枚の苞葉が頭花の直下から立ち上がる。総苞は幅2～3.5cm、総苞片は薄くくも毛があり先には刺針はない。花冠は長さ18～21mm、狭筒部は10～20mm。

<分布> [市内] 三輪北、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部に分布。
[県外] 北海道南部、本州(東北地方・北陸地方・滋賀県北部)に分布。

ヤクシソウ	キク科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
--------------	-----	---

Crepidiastrum denticulatum

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 日あたりの良い山地のやや乾いた場所に生育する越年草。茎は高さ30～120cm、よく分枝する。根出葉は花時には枯れる。茎葉は長楕円形で、長さ5～10cm、幅2～5cm、下部で茎を抱く。花期は8～11月。枝の先に黄色の花を多数付ける。そう果は黒褐色で長さ2.5～3.5cm、白色の冠毛がある。

<分布> [市内] 岩野田、金華、三輪南、梅林で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

フジバカマ	キク科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：準絶滅危惧
--------------	-----	---

Eupatorium japonicum

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 川の堤防などに生育する多年草。茎は高さ1～1.5m。葉は対生で普通3深裂し、裂片は長楕円形または長楕円状披針形、長さ8～13cm。花期は8～9月。花は枝の先に散房状に多数つく。オミナエシ、キキョウと共に秋の七草として知られるが、河川の環境の変化によりオミナエシ、キキョウに比べると最も減少傾向が高い。

<分布> [市内] 芥見、岩野田北、金華、三輪南、常磐、長良、長良東、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～九州に分布。

オグルマ	キク科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
-------------	-----	---

Inula britannica subsp. *japonica*

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 湿地や水田の縁、川岸など日あたりの良い湿潤な場所に生育する多年草。茎は高さ20～60cm、根出葉や下部の葉は花時には枯れる。茎葉は広披針形～長楕円形で、基部はなかば茎を抱き、長さ5～10cm、幅1～3cm。花期は7～10月。茎の先に数個の黄色の頭花を付ける。そう果は長さ1mm、有毛。冠毛は5mm。

<分布> [市内] 芥見東、鏡島、合渡、三輪南、市橋、日置江、方県、柳津、藍川、鶉で記録がある。
[県内] 県内全域に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ナガバノコウヤボウキ

キク科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Pertya glabrescens

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> やや乾燥した山地に生育する落葉低木。1年目の枝は卵形の葉を互生し、花をつけない。2年目以降の枝は、各節に5～6枚の細長い葉をつけ、その中央に頭花を付ける。花期は8～10月。花冠は白色で、長さ15～18mmで深く5裂する。近似のコウヤボウキに比べ、地下茎は太く、葉は無毛。

<分布> [市内] 金華、日野、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(宮城県以南)～九州に分布。

メナモミ

キク科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Sigesbeckia pubescens

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 山野に生育する一年草。茎は高さ60～120cm、上部には開出毛が密に生える。葉身は卵形～三角状卵形、長さ7.5～19cm、幅6.5～18cm。花期は9～10月。総苞片は5個、長さ10～12mm。舌状花冠は黄色で長さ3.5mm。

<分布> [市内] 黒野、方県で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

シロバナタンポポ

キク科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Taraxacum albidum

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 集落周辺に生育する多年草。葉は倒披針状線形で、長さ15～20cm、幅3～7cm、羽状中裂する。花茎は開花時に葉と同長かそれより長い。花期は2～5月。花は径4cm、花冠は白色。縁の小花は長さ25mm、裏面は灰色の広い帯がある。在来のタンポポである。

<分布> [市内] 岩で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(東京以西)、四国、九州に分布。特に西日本に多い。

サワオグルマ

キク科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Tephrosia pierotii

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 日あたりの良い山間の湿地に生育する多年草。茎は太くて柔らかく、中空で直立し高さ50～80cm。葉と共に白い毛がある。葉はやや厚く、根出葉は多数、ロゼット状で柄があり、狭長楕円形～披針形、長さ12～25cm、幅1.5～7cm。茎葉は卵状披針形で基部は茎を抱く。花期は4～6月。頭花は黄色で径3.5～5cm、6～30個が散房状につく。花柄は3～8cm。舌状花冠は長さ11～16mm、幅2mm。そう果は4mm、冠毛は白色。

<分布> [市内] 芥見東、三輪北、長良東、方県、網代、藍川で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～琉球に分布。

ソクズ

ガマズミ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Sambucus chinensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 人家付近に生育する大型の多年草。茎は直立し、高さ1～1.5m。葉は奇数羽状複葉で5～7の小葉がある。小葉は長さ5～17cm、幅2～6cm。花期は7～8月。大型の散房状集散花序で、白色の径3～4mmの小さい花を多数付ける。花序の所々に黄色の腺体がある。果実は赤く熟し、径4mm内外。

<分布> [市内] 長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

オオカメノキ

ガマズミ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Viburnum furcatum*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 山地に生育する落葉小高木。樹高6mに達する。ブナ帯～亜高山帯にかけて生育するが、これより低地でも見られる。枝は開出し褐紫色、中実で白い髄があり、若枝には細かい星状毛がある。葉は円状～広卵形、長さ幅ともに6～20cm、表面脈上には星状毛があり、裏面は細かい星状毛があり後無毛。若い時には方巻になっている。葉柄は長さ1.5～4cm、托葉は無い。花期は4～6月。散房花序は短い枝先の1対の葉とともにつく。花序には周辺に径2～3.5cmの不稔性の装飾花がある。中心部の正常花は白色で、5深裂し、径5～8mm。果期は7～10月。核果は広楕円形で長さ7～12mm、赤色で後黒くなる。

<分布> [市内] 方県、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州(対馬、屋久島を含む)に分布。

ツルカノコソウ

スイカズラ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－*Valeriana flaccidissima*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 山地の木陰に生育する多年草。茎は高さ20～40cm、花後に細い走出枝を伸ばす。葉は卵状楕円形～広披針形。花期は4～5月。花は散房花序につき、花冠は白色～紅色、漏斗状で2mm内外。羽状の白色冠毛がある。

<分布> [市内] 金華、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

オオバチドメ

ウコギ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Hydrocotyle javanica*

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②④ <変更コード> －

<種の概要> 山林下の湿った場所に生育する多年草。主茎は地を這い、斜上する枝に花序を付ける。葉は大きく両面脈状に毛があり、掌状にごく浅く切れ込む。花期は7～10月。枝の葉腋から1～数個の花序を出し、花は緑白色で球形に集まる。花序の高さは葉とほぼ同じ。

<分布> [市内] 金華、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～九州に分布。

ハリギリ

ウコギ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－*Kalopanax septemlobus*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11

<種の概要> 山地林内に生育する高さ30mにも達する落葉高木。若枝には軟毛が密生するが、のち無毛。太く鋭い刺があり、灰白色で長楕円形の皮目がある。葉は円形で5～9中裂し、径10～25cm、基部は切形または浅心形、縁に細鋸歯がある。花期は7～8月。花卉は黄緑色。

<分布> [市内] 常磐、方県で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

シヤク

セリ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－*Anthriscus sylvestris* subsp. *sylvestris*

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②④ <変更コード> 11,13

<種の概要> 山地の湿地に生育する多年草。茎は直立し、高さ80～140cmになる。葉は有柄で2回3出羽状複葉、小葉は細裂する。花期は5～6月。花は白色。果実は細長く、先は尖り、黒く熟す。

<分布> [市内] 金華、長良東、日野で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ウシミツバ

セリ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Cryptotaenia canadensis* subsp. *japonica* f. *dissecta*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 半日陰で湿気のある山地に生育する多年草。茎は高さ30～90cm。葉は3小葉からなり、小葉は無柄で長さ4～10cm、幅2～6cm、重鋸歯がある。花期は6～7月。花は白色で径2～3mm、花弁は5個。ミツバに似ているが、小葉に深い切れ込みがある。

<分布> [市内] 岩、三輪南、日野、藍川で記録がある。
[県内] 県西部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

ムカゴニンジン

セリ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－*Sium ninsi*

<選定理由> B,E <定性的要件> ②④ <変更コード> －

<種の概要> 湿地や水中に生育する多年草。根は太い。茎は30～100cm、多くの枝を出し、葉腋にむかごができる。小葉は円形～細長いものへと変化する。葉は奇数羽状複葉、下部の葉は側小葉が1～2対つき、上部の葉は3出複葉。小葉は卵形～線形、長さ2～8cm、幅5～10mm、鋭い鋸歯がある。花期は9～10月。花は散形花序につき、白色、5枚の花弁の先は内側に曲がる。

<分布> [市内] 金華、芥見、芥見東、芥見南、三輪北、日野で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

イヌスギナ

トクサ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－*Equisetum palustre*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 日あたりの良い湿地や沼沢地、河川に生育する夏緑性のシダ植物。地下茎は長く匍匐し、直立茎はしばしば群生する。茎は高さ20～60cm、基部で径2～4mm。上半分で規則正しく枝を輪生し、主軸の先は長く伸びて枝をつけない。葉鞘は歯片とともに長さ1～1.2cm、緑色、歯片は披針形で鋭頭、辺縁に白膜がある。胞子囊穂は主軸に頂生し、長さ1～3.5cm、柄の長さは0.5～3cm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道、本州(長野県、関東地方以北)に分布。

コハナヤスリ

ハナヤスリ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－*Ophioglossum thermale* var. *nipponicum*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 内陸の日あたりの良い砂地や草地に生育する小型の夏緑性のシダ植物。根茎は細く短く、1～数枚の葉を叢生する。葉は高さ10～25cm、葉体は長さ2～12cm、栄養葉は長さ2.5～12cm、幅0.8～2cm、長楕円形～卵形、中央より下で最も幅広い。葉の基部は次第に狭くなって胞子葉の柄と合体する。胞子葉は長さ6～18cm、胞子囊穂は長さ4cmに達するものもある。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

トキワシダ

チャセンシダ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－*Asplenium yoshinagae*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山林中の湿ったコケに被われた岩上に生育する常緑性のシダ植物。根茎は短く、斜上から直立し、鱗片が密生する。鱗片は黒褐色～黒色、披針形、長さ6mm、幅0.5mm、先端は槍形。葉柄は長さ15cmに達し、暗緑色～褐色。葉身は深緑色で厚く披針形、1回羽状複葉で長さ20cm、幅5cm。羽片は12～25対、短い柄があり、ゆがんだ菱形で基部前側はやや耳形、羽状に浅裂～深裂し、裂片には鈍鋸歯がある。胞子囊群は中肋に沿って2列に長く斜上し、長さ3～7mm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(関東地方、東海地方、紀伊半島)、四国、九州に分布。

ナガバノイタチシダ

オシダ科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：－

環境省2020：－

Dryopteris melanocarpa

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> 4

<種の概要> 低山地の林中に生育する常緑性のシダ植物。根茎は短く、直立から斜上、葉を叢生し鱗片をつける。葉柄は基部に向けて褐色を帯び、上部はわら色、長さ35cm以上。鱗片は膜質、淡褐色で中心部がやや濃くなることある。葉身は卵状楕円形、上部はやや急に狭くなり、長さ30～50cm、幅15～25cm、2回羽状複生から3回羽状深裂。葉質はやや厚い草質、鮮緑色。孢子嚢群は中肋近くにつき、包膜は全縁。

<分布> [市内] 方県で記録がある。
[県内] 県南西部、南中部に分布。
[県外] 本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄に分布。

ホオノカワシダ

オシダ科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：－

環境省2020：－

Dryopteris shikokiana

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> 4

<種の概要> 山地の陰湿な林下に生育する常緑性のシダ植物。根茎は短く、斜上、塊状となり、葉を叢生し、鱗片をつける。葉柄は長さ20～50cm、鱗片を密生する。葉柄下部の鱗片は広披針形～狭卵形、全縁、褐色～黒褐色で、光沢がある。葉身は三角状広卵形～長卵形、長さ30～80cm、幅30～70cm、3回羽状深裂。葉質は草質、葉。孢子嚢群は小羽片の辺縁と小羽軸の中間につき、包膜はない。

<分布> [市内] 方県で記録がある。
[県内] 本州、四国、九州に分布。
[県外]

ミヤマウラボシ

ウラボシ科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：情報不足

環境省2020：－

Phymatopsis veitchii

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 深山の森林中の岩壁に生育する夏緑性のシダ植物。根茎は横走し、細く径1.5～2.5mm、密に鱗片がある。鱗片は披針形で長さ2～2.5mm、淡褐色で中心部はやや濃い。葉柄は細く長さ3～12cm、淡緑色～わら色、基部付近は帯褐色で光沢があり、鱗片を付ける。葉身は羽状に深裂～全裂、三角状卵形で長さ4～25cm、幅3～15cm。側裂片は1～5対開出し、狭長楕円形～披針形、辺縁に低い鋸歯があり、幅6～14mm、最下裂片の基部はやや狭くなる。葉質は薄い紙質。孢子嚢群は葉の上半から下に向けてつき、裂片の辺縁よりは中肋近くに並び、円形、径約2mm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道(大雪山)、本州(山形県～福井県の山地と大峰山系)、四国(徳島県)に分布。

オオヤマレンゲ

モクレン科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：情報不足

環境省2020：－

Magnolia sieboldii subsp. *japonica*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山地に生育する落葉小高木。樹高は4～5m。幹は斜上し屈曲する。葉は互生し倒卵形、長さ6～18cm、幅5～12cm、先は短く突出し、裏面は前面に白毛がある。葉柄は有毛で長さ2～4cm。花期は5～7月。花は枝の先端について、下または横向きに開き、径5～10cm、芳香がある。花被片は9枚、外側の3枚は萼で赤色を帯びる。花弁は6枚、倒卵形で白色。集合果は楕円形で長さ5～7cm、赤く熟す。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東地方以西)、四国、九州に分布。

イヌガシ

クスノキ科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：情報不足

環境省2020：－

Neolitsea aciculata

<選定理由> A,B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 暖地の日あたりの良い山野に生育する常緑小高木。樹高は10mに達する。葉は互生で枝先に車輪状に集まり、倒卵状楕円形で長さ5～12cm、幅2～4cm、3行脈がある。表面は無毛、裏面は灰白色で無毛あるは少し伏せ毛が残る。葉柄は2～2.5cm。花期は3～4月。花序は枝の裸出部から上方の葉の間にかけて腋生する芽に数個つく。花被は暗紅色。果実は小型、長楕円形でやや先が尖り、その年の秋に黒紫色に熟す。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(関東南部以西)、四国、九州、琉球に分布。

ヒルムシロ

ヒルムシロ科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：情報不足

環境省2020：－

Potamogeton distinctus

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 池や沼に生育する多年生の水生植物。地下茎は水底の泥の中を横に這い、先端に越冬芽を作り、各節から根を出し、1節おきに水中茎を出す。水中茎は水深に応じて伸び、下部に沈水葉、上部に浮水葉を付ける。葉の大半は互生。沈水葉の葉身は披針形で薄く、長さ16cm、幅2.5cmになる。浮水葉の葉身は長楕円形で、長さ5～10cm、幅2～4cm、表面は緑色でつやがあり、裏面は黄緑色。花期は6～10月。浮水葉の葉腋から水上に花茎を上げ、先端にこん棒状の穂状花序を出す。花序は開花時に直立し水面より上に出て、花後には横たわり水中に沈む。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～琉球に分布。

マメツタラン

ラン科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：情報不足

環境省2020：準絶滅危惧

Bulbophyllum drymoglossum

<選定理由> B,D <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山地の樹幹や岩上に着生する多年草。根茎は細長く匍匐し、まばらに葉を付ける。葉は革質、長さ7～13mm、幅5～10mm、円筒。花期は5～6月。花茎は葉の基部から出て糸状、長さ7～10mm、基部に長さ1.5mmの小型の鱗片葉があり花を付ける。萼片は広披針形で長さ7～8mm、側花弁は長楕円形で長さ3～4mm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(関東地方以西)～琉球に分布。

ウスキムヨウラン

ラン科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：－

環境省2020：－

Lecanorchis kiusiana

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> 4

<種の概要> 常緑広葉樹林下に生育する多年草。葉緑体を持たない菌従属栄養植物。地上茎は細く直立し、高さ10～25cm。黄褐色であるが乾くと黒色になる。花期は5～6月。茎頂に数個の花をまばらに総状につける。花は淡黄色、長さ1cm未満で半開する。萼片および側花弁は倒披針形で同長。唇弁の先は3裂し、中裂片には波状歯があり、縁に乳頭状突起がまばらに生え、側裂片は小さい。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布。
[県外]

クロホシクサ

ホシクサ科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：情報不足

環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Eriocaulon parvum

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 水田、休耕田、ため池の畔、湿地に生育する一年草。茎はごく短く、1～3cm。葉は多数、ロゼット状または茎にらせん状につき、線形で長さ4～10cm、3～5脈が格子状になり、先は著しく尖る。花期は9～10月。花茎は高さ10～20cm、少しねじれる。頭花は球形で、藍黒色、径4～5mm、白色の短毛がある。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

オキナワジュズスゲ

カヤツリグサ科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：－

環境省2020：－

Carex ischnostachya var. *fastigiata*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> 4

<種の概要> 樹林内の路傍や林縁に生育する多年草。匍枝がなく、濃緑色で、大きな株をつくる。有花茎は直立し高さ30～60cm、基部の鞘は葉身がなく、強く赤褐色に着色する。葉は幅5～10mm。花期は4～6月。頂小穂は雄性、糸状で淡色、長さ2～3cm。側小穂は雌性で長さ2～5cm、上方3～5個が接近してつく傾向があり、果胞はジュズスゲより小さく長さ3～3.5mmで褐緑色、毛がなく、脈が多く、上方はしだいに長い嘴となる。柱頭は3個。

<分布> [市内] 日野で記録がある。
[県内] 県南中部、西部に分布。
[県外] 本州(関東以西)、四国、九州、対馬、南西諸島に分布。

オオアオスゲ

カヤツリグサ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－*Carex lonchophora*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山地の道端に生育する多年草。大株となり匍匐枝はない。稈は高さ40～60cm、上部はざらつき下部は平滑。葉は稈と同長または稈より長く、幅2～5mm。基部の鞘は長さ3～6cm、淡褐色～褐色、繊維状に細裂する。花期は5～7月。小穂は先端から8～15cmの間に4～5個つく。頂小穂は雄性で長さ1～3cm、紡錘状、鱗片は半透明。側小穂は雌性で円柱形、長さ0.8～3cm、鱗片は蒼白色で光沢があり、超出する長い芒がある。果胞には密に毛がある。穎果は密に果胞に包まれ長さ1.6～2mm、鈍3稜形、褐色～橙褐色で光沢がある。頂部には盤状付属体があり、柱頭は3個。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

ウンヌケモドキ

イネ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：－
環境省2020：準絶滅危惧*Eulalia quadrinervis*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> 4

<種の概要> 草地に生育する多年草。稈は直立し、高さ60～100cm、基部はほとんどふくらまず、無毛で光沢のある鱗片状の鞘に包まれる。葉身は線形で、長さ10～30cm、幅3～7mm、葉面に短毛が生える。葉舌は高さ約2mm。複合花序は掌状に長さ6～12cmの総を2～7本出す。包穎の背面には軟毛がまばらに生え、ふつう左右に1本ずつ緑色脈があり上部でつながる。

<分布> [市内] 三輪北で記録がある。
[県内] 県南中部、南東部に分布。
[県外] 本州中部～九州に分布。

ウシノシツパイ

イネ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：－
環境省2020：－*Hemarthria sibirica*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> 4

<種の概要> 低湿地に成育する多年草。稈は直立し、高さ60～100cm。葉身は長さ10～25cm、幅4～8mm。葉舌は高さ約0.5mmでへりに毛がある。花期は7～9月。複合花序は総状で、稈頂や葉腋から出た枝に単生しやや反る。有柄花序と無柄花序が対になって扁平な花軸に圧着してつく。

<分布> [市内] 城西、長森南で記録がある。
[県内] 県北部の一部、南部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

タチモ

アリノトウグサ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：準絶滅危惧*Myriophyllum ussuriense*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 沼や湿地に生育する多年草。茎は直立して枝は無く、湿地で地上に出たものは高さ5～20cm、水中では約50cmに伸びる。水中葉は3～4個輪生し、披針形～広披針形、羽状深裂し、長さ0.5～2cm、裂片は糸状線形で短い。茎の上方の葉は針形でふつう羽裂しない。花期は6～8月。雌雄異株。花弁は淡紅色で4枚あり、長楕円状卵形、長さ約2mm。石果は卵円形、長さ約0.7mm、幅約0.5mm、いぼ状突起をつけ4溝ある。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

クサフジ

マメ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－*Vicia cracca*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山野の日あたりの良い草地や林縁に生育するつる性の多年草。茎は長さ150cmに達し、木質の根茎がある。葉は羽状複葉で、長さ8～15cm、先端は分枝する巻ひげとなる。小葉は18～24枚、狭卵形で長さ15～30mm、幅2～6mm。托葉は狭卵形で基部に外向きの大きな歯牙が1個ある。花期は5～9月。花は長さ10～12mmで青紫色、長さ6～15cmの総状花序にやや1方に偏ってつく。豆果は長楕円形で長さ2～3cm、幅6～8mm、2～6種子を入れる。

<分布> [市内] 島、網代で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

サンショウソウ

イラクサ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Pellionia minima

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山地の林床に生育する多年草。茎は高さ10～30cmで、基部は多少分岐し地上を這う。葉は倒卵形で辺縁には4～5対の鈍鋸歯がある。花期は3～6月。花は葉柄の基部に付く。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州(関東以西)～琉球に分布。

シロスミレ

スミレ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Viola patrinii

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山地および低地の湿地に生育する多年草。地下茎は短く、少数の太くて長い黄赤褐色の根を出す。葉は少数でまっすぐに立ち、三角状披針形または長楕円状披針形、長さ2.5～7cm、低い鋸歯がある。葉柄は葉身よりも長く、長さ4～10cm、上方に翼がある。花期は4～6月。花柄は高さ7～15cmで立ち、花はやや大きく、白色～帯紫色。花弁は長さ10～13mm、側弁には毛があり、唇弁には紫条が入る。距は短く長さ3～4mm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ヒメビシ

ミソハギ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Trapa incisa

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 池に生育する一年生の水生植物。浮葉は広卵状菱形、径1～2cm、上部の縁は粗い鋸歯となり、表面は光沢があり、裏面脈状にはまばらに毛がある。葉柄の中央部は長楕円状に膨らむ。花期は7～10月。花は白色でときに紅色を帯び、径6～8mm。石果は倒三角形で4個の刺がある。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

ハナノキ

ムクロジ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Acer pycnanthum

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山間の湿地に生育する落葉高木。樹高は30mに達する。葉は対生し葉身は広卵形、長さ2.5～8cm、幅2～10cm、掌状3脈がある。先は浅く3裂し、裂片は重鋸歯縁、裏面は粉白色で、基部の脈腋および脈状に毛がある。葉柄は1.5～8cm、葉身の0.5～1.3倍程度。花期は4月。花序は前年枝の葉腋に束状に出て、3～6花を付ける。花は紅色で5枚、花弁は線形で萼片とほぼ同長、長さ約1.5mm、幅0.5mm。果翼は直角ないし鋭角に開く。日本固有種。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 岐阜・長野両県南部、愛知県北東部の3県県境一帯に分布。

マツグミ

オオバヤドリギ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Taxillus kaempferi

<選定理由> B,D <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> アカマツ、モミ、ツガなどの針葉樹に寄生する常緑低木。高さ20～50cm。若枝は初め褐色の短毛を密生するがのち無毛。葉は革質、倒披針形で長さ1.5～4cm、幅0.4～0.9cm、先は円く、下部は次第に狭くなって長さ1～2mmの葉柄に流れる。花期は7～8月。枝のわきに短い集散花序を伸ばし、数個の赤い花を付ける。花被は筒型で先は4裂し、長さ約1.5cm。裂片は線形で反曲し長さ約4mm。果実は楕円状球形で長さ約5mm、赤熟する。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県西部、中部、南部に分布。
[県外] 本州(関東地方・富山県以西)、四国、九州に分布。

ナガバノウナギツカミ

タデ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：－
環境省2020：準絶滅危惧

Persicaria hastatosagittata

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> 4

<種の概要> 水際に生育する一年草。茎の下部は地をはい、上部は直立し、まばらに下向きの刺毛があり、高さ30～80cmになる。葉には短い柄があり、長楕円状披針形～披針形、基部はほこ形またはやじり形で、長さ5～12cm、幅1～3.5cm、裏面脈上と葉柄に刺毛がある。花期は7～10月。花序は茎頂と上部の葉腋について、頭状に多くの花をつけ、花柄には腺毛がある。萼は5深裂し、上部は紅色、長さ3～4mm。そう果は3稜形、褐色で光沢があり、長さ3～3.5mm。

<分布> [市内] 長森西、長森南で記録がある。
[県内] 県南部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

ウナギツカミ

タデ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Persicaria sagittata var. *sibirica*

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 水辺や溝に生育する一年草。茎は高さ20～30cm、分枝し、稜角には短い下向きの刺毛がある。葉は互生し長卵形、長さ3～4cm、幅1.5cm、基部は矢じり形で茎を抱く。葉裏の中脈上に下向きの刺毛がある。花期は4～6月。枝頂に数花が頭状につく。花冠はない。萼は5裂し、上部は淡紅色。そう果は3稜形、黒褐色で光沢が無く、長さ約2.5mm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

ヌカボタデ

タデ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Persicaria taquetii

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 水湿地に生育する一年草。茎は細く、下部は地を這って根を出し、多くの枝を分け、上部は直立し、高さ20～40cmになる。葉はほぼ無柄で、長披針形、長さ2～6cm、両端は細まり、両面には伏せ毛があるかまたはない。托葉鞘は筒状で長さ2～6mm、同じ長さの縁毛がある。花期は9～11月。総状花序はまばらで細長く、線形、長さ1～3cm。花冠はない。萼は5裂し、紅色で長さ約1.5mm。そう果は卵円形で3稜形もしくはレンズ形。黒褐色で光沢があり、長さ1.5～1.7mm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

マメダオン

ヒルガオ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧ⅠA類

Cuscuta australis

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 日あたりの良い野原や海岸に生育するつる性で一年生の寄生植物。茎は細く糸状で、緑葉はなく、寄主からみつき黄色を帯びる。花期は7～10月。花は無柄で数個が束生し、花冠は長さ約2mm、5裂する。蒴果はほぼ球形で径約3mm、花冠を基部に残して大きく裸出する。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県西部、中部に分布。
[県外] 北海道～琉球に分布。

ヒトツバタゴ

モクセイ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Chionanthus retusus

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 丘陵地の山林に生育する落葉高木。樹高30mに達する。枝は灰褐色で若い時多少毛がある。葉は対生し、長さ1.5～3cmの葉柄があり、長楕円形～広卵形で長さ4～10cm、全縁。若木では細鋸歯～重鋸歯がある。表面の中肋上には細毛があり、裏面中肋基部には淡褐色の軟毛がある。花期は5月。雌雄異株。新枝の先端に長さ7～12cmの円錐花序を出し、白色の花を付ける。花柄は長さ7～10mm。花冠は4裂し、裂片は線状倒披針形で長さ1.5～2cm。核果は楕円形で長さ約1cm、黒く熟す。別名：ナンジャモンジャ。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部、東部に分布。
[県外] 本州(岐阜県のほか、木曾川流域の長野県と愛知県)、対馬に分布。

シオジ	モクセイ科	岐阜市2023：情報不足 岐阜市2015（前回）：情報不足 環境省2020：－
------------	-------	---

Fraxinus platypoda

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山の山間に生育する落葉高木。樹高は25mに達する。小枝は太く、灰黄褐色で無毛。葉は7～11小葉からなる奇数羽状複葉で長さ25～35cm、葉柄基部は著しく膨らむ。葉裏の中肋沿いに開出毛がある。頂小葉は長楕円状倒披針形で長さ8～20cm、幅3～7cm、長さ1～2cmの小葉柄がある。側小葉は無柄で基部がゆがみ、細鋸歯がある。花期は4～5月。落葉した前年の葉腋から長さ10～15cmの花序を出す。花には花冠がない。翼果は下垂し、狭長楕円形で長さ3～5cm、幅8～15mm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、西部、中部に分布。
[県外] 本州(関東地方以西)、四国、九州に分布。

ツルカコソウ	シソ科	岐阜市2023：情報不足 岐阜市2015（前回）：情報不足 環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類
---------------	-----	--

Ajuga shikotanensis

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 日あたりの良い丘陵地の草地に生育する多年草。茎は直立し高さ10～30cm。全体に多細胞の長い軟毛がある。ロゼット葉は、広倒披針形～倒卵形、波状鋸歯。茎葉は対生で1～2対あり、上部の5～10対は苞となり、その腋に仮輪をつくらせて花を付ける。花期は5～6月。花冠は淡紫色、背面で長さ約7mm。花が終わるところから花茎の基部から葉をつけた走出枝を出す。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県中部に分布。
[県外] 本州、南千島(色丹島)に分布。

キセワタ	シソ科	岐阜市2023：情報不足 岐阜市2015（前回）：情報不足 環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類
-------------	-----	--

Leonurus macranthus

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 山や丘陵の草地に生育する多年草。茎は直立し四角で高さ60～100cm。葉は卵形～狭卵形、用紙質で粗い毛があり、長さ5～9cm、幅3～7cm、長さ1～5cmの葉柄がある。花期は8～9月。花は数個ずつ上部の葉腋につき、紅紫色で長さ25～30mm。花冠は唇形で外面は密に白毛があって白く見える。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、中部に分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

オケラ	キク科	岐阜市2023：情報不足 岐阜市2015（前回）：情報不足 環境省2020：－
------------	-----	---

Atractylodes ovata

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> やや乾いた草地に生育する多年草。地下茎は長さ5～8cm、径1.5～3cmで、多数の丈夫な根がある。茎は硬く、高さ30～100cm、上部で分枝し、枝の先に頭花を付ける。葉は長柄があり、葉身は3～5深裂し硬い。花期は9～10月。雌雄異株。頭花の径は2～2.5cm、総苞直下に2列の魚骨状の苞がある。小花は雄花で長さ10～12mm、雌花で長さ9～11mm、白色または淡紅色。冠毛は8～9mm。

<分布> [市内] 金華で記録がある。
[県内] 県北部、中部、東部に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

オナモミ	キク科	岐阜市2023：情報不足 岐阜市2015（前回）：情報不足 環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類
-------------	-----	--

Xanthium strumarium

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 道端や荒地に生育する一年草。茎は高さ20～100cm、短毛がある。葉は互生し、3.5～10cmの長柄があり、葉身は卵状三角形、長さ6～15cm、3～5浅裂し、不揃いな鋸歯縁、両面に剛毛がありざらつく。花期は8～10月。雄花は葉腋から出る短い円錐花序につき、雌花は雄花序の下の葉腋につく。筒状花は白色。果実には先端が曲がった鉤状の刺があり、これらを含め長さ9～18mm、幅6～12mm。

<分布> [市内] 金華、三輪北で記録がある。
[県内] 県中部、東部、南部に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

(2) 哺乳類

岐阜市内で生息記録がある哺乳類は35種であり、今回は、そのうちの10種（28.6％）を選定しました。

カテゴリー区別にみると、絶滅危惧Ⅰ類はヤマコウモリ、ヒナコウモリ、準絶滅危惧はニホンリス、ムササビ、ニホンジネズミ、ヒミズ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ハタネズミ、カヤネズミで、絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅱ類、情報不足に該当する種はありませんでした。また、岐阜市版レッドリスト2023に新たに掲載された種及び岐阜市版レッドリスト2015から除外した種はありませんでした。

和名及び学名、各カテゴリー内での配列は「世界哺乳類標準和名目録」（川田ほか，2018）に準拠しました。なお、各種の概要等の参考とした文献については、巻末の「参考・引用文献」に記載しました。

選定種一覧（哺乳類）

カテゴリー区分	種名	種数
絶滅	該当なし	－
野生絶滅	該当なし	－
絶滅危惧Ⅰ類	ヤマコウモリ、ヒナコウモリ	2種
絶滅危惧Ⅱ類	該当なし	－
準絶滅危惧	ニホンリス、ムササビ、ハタネズミ、カヤネズミ、ニホンジネズミ、ヒミズ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ	8種
情報不足	該当なし	－
合計		10種

ヤマコウモリ

Nyctalus aviator

ヒナコウモリ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

＜選定理由＞ B ＜定性的要件＞ ① ＜変更コード＞ -

＜種の概要＞ 日本の小型コウモリ類の中で最大種。翼を広げると40cmにも達する。前腕長58～65mm、頭胴長89～113mm、尾長51～67mm、体重26～61g。背面の体毛は先端・基部とも明るい茶色で、光沢を帯びる。市街地の社寺や公園の大木から原生林まで広く生息する。ケヤキ、ブナ、スギなどの大木の樹洞に群れですむ。日没近くになるとキチキチと鳴く。

＜分布＞ [市内] 福光の民家とその周辺4km以内の神社と森林、金華山、鏡島大橋付近で記録がある。

[県内] 大野郡白川村、郡上市白鳥町に分布。

[県外] 北海道、本州(近畿以北)、対馬、壱岐、福江島、沖縄島に分布。



撮影：梶浦敬一

ヒナコウモリ

Vespadelus sinensis

ヒナコウモリ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-

＜選定理由＞ B ＜定性的要件＞ ② ＜変更コード＞ -

＜種の概要＞ 前腕長45～54mm、頭胴長60～76mm、尾長33～47mm、体重13～29g。暗褐色の体毛に白っぽい長毛が混じって霜降り状に見える。樹洞や海蝕洞を利用するほか神社や学校、民家などの建造物の屋根裏や間隙をねぐらとして利用している。出産・哺育コロニーをつくる雌親は樹洞で数十頭、建造物では4,000頭を超えることもある。

＜分布＞ [市内] 加納、本荘中ノ町、香蘭、鏡島、六条で記録がある。

[県内] 高山市荘川町、大野郡白川村などに分布。

[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。



撮影：梶浦敬一

ニホンリス

Sciurus lis

リス科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-

＜選定理由＞ C ＜定性的要件＞ ② ＜変更コード＞ -

＜種の概要＞ 頭胴長16～22cm、尾長14～17cm、体重250～310g。夏毛では背面は赤褐色、冬毛では灰褐色。腹は純白、尾の先は白く冬毛では耳先にふさ毛が生じる。平野部から亜高山帯までの森林に生息し、昆虫や植物の種子、果実のほか、特にキノコ類を多く食べている。

＜分布＞ [市内] 大洞、百々ヶ峰周辺、雛倉、石谷で記録がある。

[県内] 飛騨、中濃、西濃、東濃などに分布。

[県外] 本州(中国地方以西には少ない)、四国、九州(近年確実な記録はない)に分布。日本固有種。

＜特記事項＞ 市内の低山帯では松林に多く生息していたが、近年の松枯れにより、生息に適した環境が減少している。さらに開発などにより生息環境の分断や移動経路の遮断が見られる。こうしたことから、市内の個体群は、周辺地域から隔離された限られた範囲に生息している状況にある。



撮影：梶浦敬一

ムササビ

Petaurista leucogenys

リス科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-

＜選定理由＞ C ＜定性的要件＞ ② ＜変更コード＞ -

＜種の概要＞ 頭胴長30～50cm、尾長30～40cm、体重700～1,500g。体全体は褐色系であるが、親子でも個体間において色彩変異が多い。腹面は白く、目と耳の間から頬にかけて帯状に淡色の部分がある。飛膜が首から前肢・後肢・尾の間に発達している。夜行性で、低地帯から亜高山帯までの天然林や二次林のほか、杉林にも多く、樹上で生活している。神社仏閣の建物にねぐらを作っていることもある。木の芽、葉、花、果実、種子のほか、昆虫も食べることがある。

＜分布＞ [市内] 石谷、城田寺、三輪、彦坂、雛倉で記録がある。

[県内] 平野部を除いてほぼ全域に分布。

[県外] 本州、四国、九州に分布。日本固有種。

＜特記事項＞ 市内では生息している山林で開発が進んだことにより、生息環境の分断や移動経路の遮断が見られる。こうしたことから、市内の個体群は、周辺地域から隔離された限られた範囲に生息している状況にある。



撮影：梶浦敬一

ハタネズミ

キヌゲネズミ科

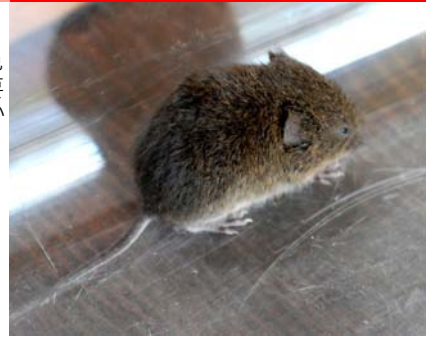
岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Microtus montebelli

<選定理由> C <定性的要件> ② <変更コード> －

<種の概要> 頭胴長95～135mm、尾長60mm。背面は茶色あるいは灰黄色で、腹面は灰白色。同じ体型にスミスネズミやヤチネズミがあり、その区別に注意を要する。低地から高山帯まで広く分布するが、捕獲することが難しく、詳しい生態はわかっていない。草の茎、実、根茎を食べる。

<分布> [市内] 長良川の河畔、上雛倉、石谷で記録がある。
[県内] 白川村、本巣市、瑞穂市、下呂市、高山市、郡上市、揖斐川町などに分布。
[県外] 本州、九州に分布。日本固有種。



撮影：梶浦敬一

カヤネズミ

ネズミ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Micromys minutus

<選定理由> E <定性的要件> ② <変更コード> －

<種の概要> 成体は頭胴長50～80mm、尾長61～83mm、後足長14～16.7mm、体重7～14g。背面は暗褐色で腹面は白色である。通常、草地、水田、畑、沼沢地などのイネ科が密生し、水気のあるところに生息する。水面を泳ぐ。鳥が作るような巣を作り、巣材にはススキ、チガヤ、ゴウソなどが用いられ、巣のある高さは地上から50～110cmで、晩春と初冬は低く、夏～秋に高い。冬季には地表の堆積物や地下に坑道を掘り、種子や昆虫を食べる。

<分布> [市内] 長良川河川敷の草地、北西部、北一色、達目洞などで記録がある。
[県内] 飛騨地方の一部地域、美濃地方の中濃および東濃・西濃地域などに分布。
[県外] 福島県以南の太平洋側、石川県以西の日本海側に分布。



撮影：梶浦敬一

ニホンジネズミ

トガリネズミ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Crocidura dsinezumi

<選定理由> C <定性的要件> ② <変更コード> －

<種の概要> 頭胴長7cm前後、尾長5cm前後、体重8g。ネズミと名前がついているがモグラの仲間、耳が大きく、鼻がとがっている。背は暗褐色で腹は淡灰褐色。尾が長く、先に向かうに従って次第に細くなっている。低地の湿地や低木林に多く、落ち葉の下などに生息している。繁殖は4～9月に数回行う。1回につき、仔を1～5頭産む。

<分布> [市内] 達目洞、岩田東、彦坂、岩倉町、黒野、上雛倉、一日市場で記録がある。
[県内] 東白川村、高山市国府町、大野町、美濃加茂市、郡上市白鳥町、中津川市、下呂市、七宗町などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。日本固有種。

<特記事項> 湿地や池沼などが開発などにより減少しているほか、市内の低木林などは土壌にチャートからなる小岩が多いため、本種の生息に適している環境は少ない。このため生息数がきわめて少ない。



撮影：梶浦敬一

ヒミズ

モグラ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Urotrichus talpoides

<選定理由> C <定性的要件> ② <変更コード> －

<種の概要> 頭胴長90～105mm、尾長27～38mm、後足長13.8～16mm、体重14.5～25.5g。小型のモグラで、耳介はない。手はやや大きい幅は長さより小さい。尾は太く棍棒状で、頭胴長の1/3の長さもち、比較的長い毛が生えている。背面は黒色が黒褐色で、腹面はやや淡色である。平地から亜高山帯の湿地や腐植層で半地下性の生活をしているが、地表にもよく出現する。昆虫類やミミズ類などのほか植物の種子も食べている。湿地などの減少で生息域がきわめて限定されている。

<分布> [市内] 彦坂、上雛倉で記録がある。
[県内] 高山市国府町、白川村、郡上市白鳥町、下呂市萩原町、下呂市田口などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。日本固有種。

<特記事項> 草地や湿地の開発により、市内では生息地がきわめて少ない。



撮影：梶浦敬一

コキクガシラコウモリ

キクガシラコウモリ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Rhinolophus cornutus

<選定理由> C <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 前腕長36～44mm、頭胴長35～50mm、尾長16～26mm、体重4.5～9g。外部形態はキクガシラコウモリに似るが、体の大きさが約半分である。体色は淡い褐色。洞穴性で廃坑やトンネルなども利用している。小型の蛾やガガンボなどの飛翔昆虫を捕食する。

<分布> [市内] 彦坂で記録がある。
[県内] 全域に分布するが、生息数は少ない。
[県外] ほぼ全国に分布。

<特記事項> 市内には生息に適する自然の洞穴やトンネルが見られない。



撮影：梶浦敬一

キクガシラコウモリ

キクガシラコウモリ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Rhinolophus ferrumequinum

<選定理由> C <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 前腕長52～65mm、頭胴長59～82mm、尾長28～45mm、体重17～35g。生息分布域が重なるコキクガシラコウモリとは明らかに大きさが違う。体色は淡い褐色で、頭部前面に鼻葉がある。洞穴性で古墳内や小屋の屋根裏も利用する。チョウ目やコウチュウ目など夜行性飛翔昆虫類を捕食する。

<分布> [市内] 芥見海戸山、芥見大退、岩崎、岩戸、上雛倉、北唐戸洞で記録がある。
[県内] 高山市、関ヶ原町、郡上市、瑞浪市、中津川市、養老町に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

<特記事項> 市内には生息に適する洞穴環境がほとんど無く、生息場所は廃屋などに限られている。



撮影：梶浦敬一

(3) 鳥類

岐阜市内で生息記録がある鳥類は254種であり、今回は、そのうちの24種（9.4％）を選定しました。

カテゴリー別にみると、絶滅危惧Ⅰ類はヨタカ、ヒメアマツバメ、シロチドリなど7種、絶滅危惧Ⅱ類はゴイサギ、ササゴイ、ヒクイナなど8種、準絶滅危惧はヤマドリ、カイツブリ、コサギなど9種で、絶滅と野生絶滅、情報不足に該当する種はありませんでした。

岐阜市版レッドリスト2023に新たに掲載された種は、ゴイサギ、ヒクイナ、ハヤブサ、コサギの4種でした。これら4種は、今までの調査でも岐阜市での生息が確認されていた種ですが、生息環境が限定される、繁殖力がきわめて弱いなどの理由によって選定されました。一方、岐阜市版レッドリスト2015で掲載されていたコシアカツバメ（前回：絶滅危惧Ⅱ類）とフクロウ（前回：準絶滅危惧）については、個体数が多いことが確認されたことから除外しました。

和名及び学名、各カテゴリー内での配列は「日本産鳥類目録 第7版」（日本鳥学会編，2012）に準拠しました。なお、各種の概要等の参考とした文献については、巻末の「参考・引用文献」に記載しました。

選定種一覧（鳥類）

カテゴリー区分	種名	種数
絶滅	該当なし	－
野生絶滅	該当なし	－
絶滅危惧Ⅰ類	ヨタカ、ヒメアマツバメ、シロチドリ、タマシギ、コアジサシ、セッカ、トラツグミ	7種
絶滅危惧Ⅱ類	ゴイサギ、ササゴイ、ヒクイナ、バン、ハチクマ、サシバ、ハヤブサ、コサメビタキ	8種
準絶滅危惧	ヤマドリ、カイツブリ、コサギ、イカルチドリ、オオタカ、アオバズク、サンショウクイ、サンコウチョウ、オオルリ	9種
情報不足	該当なし	－
合計		24種

ヨタカ

ヨタカ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧

Caprimulgus indicus

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 夏鳥として全国の高原や明るい林に渡来し、林道沿いの草地などで繁殖する。特に巢らしいものは作らず、直接地面に卵を産んでいることもある。夕方から夜間にかけて飛びながら昆虫を食べる。捕らえるというより口を大きく開き、飛び込んでくる虫を食べている。昼間は木の横枝に平行にとまって休み、まるで木のこぶのように見える。「キョッキョッキョッ…」と連続的に鳴く。

<分布> [市内] 北部の山林で鳴き声の記録があるが、繁殖しているかは不明である。
[県内] 以前は県下各地の山林で囁りを聞いたが、近年は繁殖の記録が減少している。
[県外] 夏鳥として北海道から九州の丘陵帯から山地帯にかけて飛来する。



撮影：大塚之稔

ヒメアマツバメ

アマツバメ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-

Apus nipalensis

<選定理由> B,D <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 本州中部以南に留鳥として生息し、太平洋岸に多く見られる。コンアカツバメやイワツバメの古巣を利用して繁殖するが、大量の羽毛を持ち込むため、入り口に羽毛が見えていることが多い。アマツバメより一回り小さく、尾羽は燕尾状にはなっていない。ハリオアマツバメを小型にした感じである。渡りの時期には、他のアマツバメ類に混じることがある。

<分布> [市内] 長良川にかかる鶺鴒大橋の橋桁にあったイワツバメの巣で繁殖したことがある。
[県内] 春と秋の渡りの時期に稀に観察される程度である。
[県外] 関東地方から九州の主に太平洋側の平地で繁殖する。



撮影：大塚之稔

シロチドリ

チドリ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Charadrius alexandrinus

<選定理由> A,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 九州以北に留鳥として生息し、主に海岸や河川下流域の砂地、砂礫地で繁殖する。冬は群れで生活し、ハマシギと混群をつくっていることがある。北海道では夏鳥である。よく似た種類にコチドリ、イカルチドリがいるが、本種は首の部分の黒い帯が前方で切れていることで識別できる。河川中流域では稀であるが、コアジサシのコロニー（集団繁殖地）内で同居していることがある。

<分布> [市内] 長良川の中州で記録がある。
[県内] 美濃地方の大きな河川の砂礫地や中州に分布。
[県外] 全国の海岸、河川下流域に分布。北日本では冬に移動する。



撮影：大塚之稔

タマシギ

タマシギ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Rostratula benghalensis

<選定理由> B,C <定性的要件> ①② <変更コード> 1,2

<種の概要> 本州中部以南の内陸の水田や湿地に留鳥として生息するが、近年は冬に見られる個体が少なくなった。一妻多夫という珍しい繁殖形態をもち、抱卵、子育ては雄が行う。繁殖地では、雌は夕方、なわばり宣言の「コオーコオー」という声を出して雄を誘う。役割が逆転していることで雌の方が羽色が派手である。雌雄ともに目の周囲に勾玉模様があることから、この名前が付いている。

<分布> [市内] 木田、佐波、三輪地内などで記録がある。
[県内] 主に美濃地方の休耕地や湿地で繁殖するが、数は少なく飛騨地方では稀に観察される程度である。
[県外] 本州中部以南に留鳥として分布。東北地方、北海道では稀である。



撮影：大塚之稔

コアシサシ

カモメ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Sterna albifrons

<選定理由> C <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 夏鳥として全国の海岸、河川などに渡来し、砂浜や河川の中州などで集団繁殖する。地面に直接、あるいは枯草などをほんの少し敷いただけの巣を作り、2~3卵を産む。空中をホバリングしながら狙いを定めて水中に飛び込み、小魚を捕えて食べる。外敵には「キリッキリッ」と鳴いて集団で威嚇したり、糞をかけたりしてコロニー内から追い出す。カラス類はこの攻撃を気にすることなく、卵や雛を食べてしまう。

<分布> [市内] 長良川の中州や河川敷、西中島地内の造成地で繁殖した記録がある。
[県内] 木曾川、長良川、揖斐川の中州などで繁殖記録がある他、飛騨市や土岐市では渡り途中の記録がある。
[県外] 本州以南の海岸、河川流域に夏鳥として飛来し繁殖する。



撮影：大塚之稔

セツカ

セツカ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-

Cisticola juncidis

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 本州中部以南の河川敷の草地や農耕地に留鳥として生息するが、積雪の多い地方のものは暖地に移動する。一夫多妻制で、繁殖期には囀り飛翔をよく行い、上昇するときには「ヒツヒツヒツ・・・」、下降するときには「チャチャッ チャチャッ・・・」と、特徴のある声で鳴く。雄はイネ科の植物の茎にチガヤの穂を編むようにして巣を作り、雌をなわばり内に誘い入れる。

<分布> [市内] 河川敷の草地や水田で見られ、以前は繁殖期に鳴き声をよく聞いた。
[県内] 主に美濃地方の草地に生息し、飛騨地方では稀である。
[県外] 本州中部以南に留鳥として分布。北方のものは冬季、暖地に移動する。



撮影：大塚之稔

トラツグミ

ヒタキ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-

Zoothera dauma

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 全国の平地から山地の林に留鳥として生息し、冬は暖かい地方に移動する。全長30cmでツグミ類の中では最も大きい。上面が黄褐色で下面にうろこ模様の斑点があるのが特徴で、トラという名もここからきている。暗い林内の地上でミミズや昆虫を捕食している。夜間や雨天の暗い日、「ヒー ヒョー」と気味悪い声で鳴くが、昔は「鶺鴒（ぬえ）」という怪物の声とされていた。

<分布> [市内] 以前は金華山、百々ヶ峰や北部の山林で繁殖していた可能性が高いが、近年は囀りが聞かれなくなった。
[県内] 全域の丘陵帯から山地帯の山林に分布。
[県外] 本州、四国、九州では漂鳥か留鳥、北海道では夏鳥として分布する。



撮影：大塚之稔

ゴイサギ

サギ科

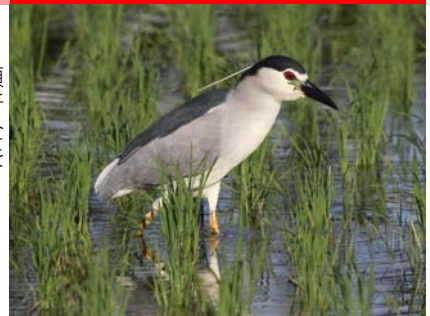
岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：-
環境省2020：-

Nycticorax nycticorax

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 主に河川流域や湖沼などに生息し、丘陵帯の林で他のシラサギ類と一緒に集団で繁殖する。寺社林で繁殖するものもいて、悪臭で嫌がられている場所もある。半夜行性で夕方、「ゴアッ」と鳴いて埒から餌を探しに飛び出す。若鳥は体全体に白い斑紋があり、星ゴイと呼ばれている。以前は田植えの頃、ドジョウやカエルを食す姿をよく見かけたが近年は全国的に数が減少している。

<分布> [市内] 佐波、高桑、曾我屋などの広い水田地帯で少数を見ることがある。
[県内] 美濃地方では留鳥として分布する。飛騨地方は少ない。
[県外] 本州以南では留鳥、東北以北では夏鳥として分布する。



撮影：大塚之稔

ササゴイ

サギ科

Butorides striata

<選定理由> C,E <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 夏鳥として本州以南に渡来し、河川や池で見ることができる。ゴイサギに似ているが、ゴイサギより一回り小さく、スマートに見える。「キューツ」と聞こえる声で鳴く。他のサギ類と一緒に繁殖することはなく、本種だけで河川沿いのヤナギなどに集団で繁殖する。寺社の境内や駐車場を囲む樹木でも繁殖する。ゴイサギは夜行性であるが、本種は昼間も普通に行動する。

<分布> [市内] 伊自良川、長良川の河川敷のヤナギで集団繁殖していたが、現在は少なくなった。
[県内] 岐阜市のほか美濃加茂市、瑞浪市、高山市で繁殖記録がある。
[県外] 本州、四国、九州に夏鳥として飛来。北海道では稀である。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－



撮影：大塚之稔

ヒクイナ

クイナ科

Porzana fusca

<選定理由> B,C <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 夏鳥として全国の水田、湿地、池、河川に生息する。ハトより一回り小さく、雌雄同色である。草むらに潜んでいることが多く、警戒心が強いのですぐに隠れてしまい、姿を確認することが難しい。鳴き声で気づくことが多い。繁殖期には「キョッキョッキョッキョッキョ…」と次第にテンポが早くなる特徴的な声で鳴く。小魚や昆虫などを食している。

<分布> [市内] 河川で希に声を聞くことがあるが、繁殖については不明である。
[県内] 主に美濃地方の湿地で少数が繁殖するが、局地的である。県南部では越冬個体も発見されている。
[県外] 夏鳥として全国の湿地に分布し、暖地では少数が越冬する。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：－
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：大塚之稔

バン

クイナ科

Gallinula chloropus

<選定理由> C,E <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 湖沼や池、河川、休耕田に生息し、関東以北では夏鳥であるが、中部以南では一年中見ることができる。「クルルツ」と聞こえる声で鳴く。全身は黒く、嘴の基部から額にかけて赤いのが特徴である。年に数回繁殖し、先に生まれた若鳥が次の雛の世話をする習性（ヘルパー）が知られている。

<分布> [市内] 天王川や伊自良川などの小河川や休耕田で見ることができる。
[県内] 主に美濃地方の小河川、池沼などの湿地に生息し、飛騨地方では少ない。
[県外] 留鳥として北海道から九州まで広く分布する。

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－



撮影：大塚之稔

ハチクマ

タカ科

Pernis ptilorhynchus

<選定理由> E,B <定性的要件> ① <変更コード> 1,2


<種の概要> 夏鳥として本州以北の低山の林に渡来し、繁殖する。トビより一回り小さく、頭部が長く見えるのが特徴である。地中に巣を作るクロスズメバチの幼虫や蛹を好んで食べるため、ハチの好きなクマタカという意味の名前が付いている。渡りは瀬戸内沿岸から九州北部を通過するルートが分かっており、長野県白樺峠や伊良湖岬など、ルートの途中によく知られた観察地がある。市内の金華山もその一つである。


<分布> [市内] 渡りで通過する個体が多く観察されるほか、市北部の山林では少数が繁殖。
[県内] 全域の丘陵帯の山林で繁殖する。
[県外] 北海道から九州の丘陵帯から山地帯の山林に飛来する。


岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧




撮影：大塚之稔

サシバ	タカ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類 環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類
<i>Butastur indicus</i>		
＜選定理由＞ B,E ＜定性的要件＞ ① ＜変更コード＞ -		
<p>＜種の概要＞ 夏鳥として本州から九州の低山の林に渡来し、繁殖する。カラス位の大きさのタカである。「ピッキイ」と聞こえる声で鳴く。秋には全国各地で渡り途中の個体を観察することができる。全身は褐色をしているが、稀に黒褐色の個体がいる。谷地のある林を好み、カエルやヘビ、大型の昆虫などを捕食する。</p> <p>＜分布＞ 〔市内〕 百々ヶ峰などで僅かに繁殖する。金華山では、秋期、渡り途中の個体を多数観察することができる。 〔県内〕 全域の低山の山林で繁殖する。 〔県外〕 本州、四国、九州では夏鳥として飛来し、冬期は沖縄や南西諸島に移動し越冬する。</p>		
		
		撮影：大塚之稔

ハヤブサ	ハヤブサ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜市2015（前回）：- 環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類
<i>Falco peregrinus</i>		
＜選定理由＞ B ＜定性的要件＞ ② ＜変更コード＞ 1,2		
<p>＜種の概要＞ 留鳥として全国的に河川や農地などの開放的環境に生息し、山地や海岸の断崖で繁殖する。近年は、ビルの窓辺や鉄塔の横組の上で繁殖する個体も見られるようになった。主にハト大以下の鳥類を餌とし、飛翔中の鳥の群れを乱して、1羽を狙い足で掴み取る。カラスよりやや小さく、雌雄同色であるが、雌の方がやや大きい。警戒するときには「キイキイ・」「クックッ・」と鋭い声でなく。</p> <p>＜分布＞ 〔市内〕 金華山麓の崖地で1番いが繁殖するだけである。 〔県内〕 丘陵帯の山岳の崖地で繁殖するが、数は少ない。 〔県外〕 全国の平地、海岸、農耕地に分布する。</p>		
		
		撮影：大塚之稔

コサメビタキ	ヒタキ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類 環境省2020：-
<i>Muscicapa dauurica</i>		
＜選定理由＞ B ＜定性的要件＞ ① ＜変更コード＞ 10		
<p>＜種の概要＞ 夏鳥として全国の平地から低山に渡来し、明るい落葉広葉樹林に生息する。枝先にとまって、飛んでいる昆虫を空中で捕え、また元の枝に戻るといった行動をする。渡りの時期には、市街地の公園などにも現れる。同じ仲間のサメビタキやエゾビタキも同時に見られることがあり、本種は全体に色が淡く、目の周りの白いリングがはっきりしているのが特徴である。</p> <p>＜分布＞ 〔市内〕 主に渡り途中の個体が観察されるが、市内北部の山林で繁殖したという記録がある。 〔県内〕 全域の丘陵帯の里山的環境に分布する。 〔県外〕 全国の丘陵帯から山地帯の落葉広葉樹林に分布する。</p>		
		
		撮影：大塚之稔

ヤマドリ	キジ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：-
<i>Syrmaticus soemmerringii</i>		
＜選定理由＞ B,F ＜定性的要件＞ ① ＜変更コード＞ -		
<p>＜種の概要＞ 本州から九州のよく茂った山林に留鳥として生息する。雄は赤味のある茶褐色で縞模様のある長い尾羽が特徴である。雌はキジの雌に似るが、褐色味が強い。暗い山林の地上で草や木の実を食べているため、見つけることは困難である。囀りの代わりに翼を強く羽ばたき「ドドドッ」という音を出し、「ヤマドリのほろ打ち」と呼ばれている。日本固有種。</p> <p>＜分布＞ 〔市内〕 市内北部の山林、金華山、百々ヶ峰などにわずかに生息している。 〔県内〕 全域の山林に分布する。 〔県外〕 留鳥として本州から九州の山林に生息する。全国には5亜種が分布する。</p>		
		
		撮影：大塚之稔

カイツブリ

カイツブリ科

Tachybaptus ruficollis

<選定理由> C,E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 留鳥として全国の河川、池、湖などに生息し、北方のものは、冬期に暖地へ移動し越冬する。全長26cmで、国内で見られるカイツブリの仲間の中では最も小さい。盛んに潜水して小魚や水生昆虫などを捕らえて食べる。ヨシの茎に水草を絡めて「浮き巣」と呼ばれる巣をつくり、水位の上昇、下降にしたがって巣も動くようになっている。親鳥は孵化した雛を背のせて移動する行動をとる。

<分布> [市内] 長良川、伊自良川、鳥羽川などで見られる。黒野洞地区、岩田地区の溜池では繁殖記録がある。
[県内] 主に美濃地方の池沼、河川に分布する。
[県外] 本州中部以南では留鳥として生息し、東北、北海道では夏鳥として飛来する。

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-



撮影：大塚之稔

コサギ

サギ科

Egretta garzetta

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 河川、池沼、水田地帯に留鳥として生息するが、一部は冬期、暖地や東南アジアに移動する。ダイサギやチュウサギとともにシラサギ類と呼ばれるが、近年は小型のサギ類が全国的に減少している。体の大きさだけでなく、嘴が黒く、足の先だけが黄色いことで他のシラサギ類と区別することができる。シラサギ類と一緒に集団で繁殖するが、人家に近い所では、糞による汚れや悪臭、雛の声の騒音などで問題となる。

<分布> [市内] 留鳥として広い水田地帯、河川に分布する。
[県内] 美濃地方の水田地帯や河川流域で見られ、飛騨地方では少ない。
[県外] 留鳥として本州以南に分布する。

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：-
環境省2020：-



撮影：大塚之稔

イカルチドリ

チドリ科

Charadrius placidus

<選定理由> E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 本州以南では、石の多い河川敷で見ることができる。コチドリが砂地や砂利の多い造成地に生息し、本種は主に河川沿いに生息することで棲み分けている。繁殖期には「ピヨ ピヨ ピヨ」と鳴きながらなわばり上空を飛翔する。小石の隙間の窪みに普通4個の卵を産む。外敵が近づくと、親鳥は怪我をした真似（疑傷行動）をして、外敵の気を引きつけ、卵や雛を守る。

<分布> [市内] 長良川流域の砂利のある広い河川敷で少数が繁殖する。
[県内] 河川中流域から下流域の砂礫地で見られるが、稀に上流域にも分布する。
[県外] 本州、四国、九州では留鳥として生息し、北海道では夏鳥である。

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-



撮影：大塚之稔

オオタカ

タカ科

Accipiter gentilis

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 留鳥として本州、北海道の低山の林で繁殖し、冬はカモなどが集まる水辺の林や農耕地でも見られる。ハンボソガラスとほぼ同じ大きさで、背が淡い褐色、体下面が白っぽく見える。古くは蒼鷹と呼ばれていたが、蒼には褐色味のある青という意味があり、オオタカがオオタカに転じたという説がある。幼鳥は全体が褐色で胸に縦斑があることで区別できる。近年、河川敷の林でも繁殖する個体が見られるようになった。

<分布> [市内] 百ヶ峰や金華山のほか、市北部の山林で少数が繁殖。
[県内] 全域の低山の山林で繁殖するほか、近年は河川敷の林などでも繁殖する個体がいる。
[県外] 北海道から九州の丘陵帯から山地帯の山林に留鳥として生息。

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧



撮影：大塚之稔

アオバズク

フクロウ科

Ninox scutulata

<選定理由> C <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 夏鳥として全国の平地から低山の林に渡来する。樹洞で繁殖するため、大木のある市街地の公園や寺社林でも見られることがあるが、近年は渡来数が減少している。キジバトより一回り大きく、青葉の頃に渡ってくるからとか、羽色が青葉のようであることから名がついている。夜間、飛び回って昆虫やコウモリ、小鳥の雛を捕食する。

<分布> [市内] 以前は市内の大木のある寺社林や公園でも繁殖が見られたが、最近では少なくなった。

[県内] 各地の丘陵帯の山林や大木のある寺社林で繁殖する。

[県外] 北海道から九州の丘陵帯から山地帯の巨木のある山林に飛来する。

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-



撮影：大塚之稔

サンショウクイ

サンショウクイ科

Pericrocotus divaricatus

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> 12

<種の概要> 夏鳥として九州と本州に渡来し、平地から低山の山林に生息する。全長が20cmでツートンカラーのスマートな姿をしている。横枝にコケとクモの糸で張り付けるように巣を作る。鳴き声が「ピリリリ ピリリリ」と聞こえ、「山椒は小粒でもピリリと辛い」という言葉からこの名が付いている。

<分布> [市内] 1970年代は市内の山林で普通に繁殖していたが、現在は渡りの時期に確認されるだけである。

[県内] 全域の丘陵帯から山地にかけて広く分布する。

[県外] 本州や四国の丘陵帯から山地帯に夏鳥として飛来し、南西諸島では留鳥である。

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類



撮影：大塚之稔

サンコウチョウ

カササギチドリ科

Terpsiphone atrocaudata

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード>

<種の概要> 夏鳥として本州以南の平地から低山の茂った林に渡来し、暗い林で繁殖する。雄は30cmもある長い尾を持ち、林内をひらひらと飛び回る。「チーチョイホイホイ」とテンポのよい声で囀るが、「月日星」と聞きなされ、三光鳥と呼ばれている。雌は雄ほど尾羽が長くないが、雄のように囀る。

<分布> [市内] 金華山、百々ヶ峰などで僅かに繁殖する。

[県内] 県域の丘陵帯の山林で繁殖しているが、渡来地は少ない。

[県外] 本州、四国、九州の丘陵帯から山地帯の山林に夏鳥として分布する。

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-



撮影：大塚之稔

オオルリ

ヒタキ科

Cyanoptila cyanomelana

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 夏鳥として飛来し、丘陵帯から山地の主に溪流沿いの林内に生息する。見通しのよい枝先や木の梢で「ピーリーリー ピールリ ピールリ ギツギツ」と、澄んだ声で囀る。巣は古木や岩の隙間に作るが、建物の軒に作ることもある。枝先にとまって林の空間を飛ぶ昆虫を捕え、元の枝に戻るといった捕食行動を行う。渡りの時期には市街地の公園で見られることもある。

<分布> [市内] 夏鳥として、金華山、百々ヶ峰の山林に少数が飛来。

[県内] 美濃地方、飛騨地方ともに丘陵帯から山地帯の溪流沿いの山林に分布。

[県外] 北海道から九州にかけて夏鳥として分布。

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-



撮影：大塚之稔

(4) 爬虫類

岐阜市内で生息記録がある爬虫類は、在来・外来含め計22種（ペットの一時的な逸走と思われる発見記録も含む）であり、この他にニホンイシガメとクサガメの雑種が複数発見されています。今回は、このうち、現時点で確実に在来種と思われるものの中から6種（27.3%）を選定しました。カテゴリー別にみると、絶滅危惧Ⅱ類はニホンイシガメ、準絶滅危惧はシマヘビ、情報不足はニホンスッポン、タカチホヘビ、シロマダラ、ジムグリで、絶滅と野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類に該当する種はありませんでした。

岐阜市版レッドリスト2015に掲載されていたクサガメ（前回：情報不足）は、今回は評価対象から除外しました。クサガメは、長らく在来種とされてきましたが、江戸時代に大陸から人為的に持ち込まれた個体が野外に広がった可能性があると考えられています。それ以降も、ペットとして養殖された輸入個体が放出や逸走により野外で定着していることはおそらく間違いありません。一方、クサガメが日本（もしくは岐阜県）に元々いなかったかどうかは議論の余地もあります。岐阜市内でのクサガメの個体数推移は不明ですが、カメ類の種構成割合としては市南部で低下しているものの、市北部では増加しており、生息確認地点数としてはこの10年でそれほど変わっていません。

和名及び学名、各カテゴリー内での配列は、「日本産爬虫両生類標準和名リスト（2022年7月19日版）」（日本爬虫両生類学会，2022）に準拠にしました。なお、各種の概要等の参考とした文献については、巻末の「参考・引用文献」に記載しました。

選定種一覧（爬虫類）

カテゴリー区分	種名	種数
絶滅	該当なし	－
野生絶滅	該当なし	－
絶滅危惧Ⅰ類	該当なし	－
絶滅危惧Ⅱ類	ニホンイシガメ	1種
準絶滅危惧	シマヘビ	1種
情報不足	ニホンスッポン、タカチホヘビ、シロマダラ、ジムグリ	4種
	合計	6種

ニホンシガメ

イシガメ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Mauremys japonica

<選定理由> B,C,E,F,G <定性的要件> ①④ <変更コード> 7

<種の概要> 雌は背甲長20cm、雄は12～14cmまで成長し、雌は甲の厚みもあり雄より大型になる。背甲後部がギザギザしている。配偶期は秋と春で、岐阜市での産卵期は6～7月頃、1回当たり5～9個の楕円体の卵を産む。孵化率は90%以上と考えられ、孵化幼体は主に9月頃に出巢する。クサガメやアカミミガメよりも陸上を利用することが多く、畑地や林床でも見つかる。雑食性である。

<分布> **〔市内〕** 市内全域に生息しているが、北部に大きく偏り、南部には少ない。
〔県内〕 美濃地方の平地から山麓部にかけて生息。飛騨地方の一部にも生息が確認されているが、主たる分布は美濃地方。
〔県外〕 本州、四国、九州に分布。日本固有種。

<特記事項> ニホンシガメには遺伝的に異なる2つの集団があり、中国地方を境（広島県～島根県あたり）に、以東の本州と四国に分布するAグループ、以西の中国地方と九州に分布するBグループに分けられる。美濃地方での調査個体は、Aグループであったことが報告されている。岐阜県を含め全国的に、開発による好適生息地（エコトーン）の減少に加え、ペット販売用の乱獲および海外への大量輸出、外来種のアライグマや、カラス、ネコによる食害、クサガメとの交雑による遺伝子汚染など、多くの危機に直面している。孵卵中の土中温度により性別が決定されるため、産卵環境が偏ると、個体群の性比に偏りが生じ、個体群動態が不安定になると思われる。岐阜市のニホンシガメは、前回の調査（2009～2013年）で分布が北部に大きく偏っていたが、近年の調査（2019～2020年）でその捕獲地点が半数以下となっている。また、前回ニホンシガメしか捕獲されなかった地点で、クサガメやアカミミガメも捕獲されている。



撮影：楠田哲士

シマヘビ

ナミヘビ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：－
環境省2020：－

Elaphe quadrivirgata

<選定理由> E <定性的要件> ①② <変更コード> 7

<種の概要> 全長80～150 cmほど。背面の地色は褐色で、胴部に4本の黒い縦線が入る。全身が真っ黒の黒化型（カラスヘビ）が見つかることもある。幼体は、成体とは異なり明瞭な縦線がなく、全身の赤みが強く、横斑がある。平地や山地などに広く生息し、主に昼行性のため目にする機会も多い。カエルなどの両生類、トカゲなどの爬虫類、小型の哺乳類や鳥類など食性は多岐にわたる。水田周辺では主にカエルを捕食する。

<分布> **〔市内〕** 市内全域の平地や山地などに広く生息する。
〔県内〕 美濃地方・飛騨地方とも発見されており、県全域に生息していると思われる。
〔県外〕 北海道、本州、四国、九州、周辺の島嶼などに分布。日本固有種。

<特記事項> 厳密な生息調査は行われていないが、目撃例から水田地帯を中心に広く多数生息していた。しかし、市内では達目洞や北部以外では見かけることが少なくなっている。水田周辺がコンクリートの側溝や畔、防草シートなどで整備され、水田がある程度残っていても生息しにくい環境が増加していることが関係していると思われる。水田地帯に大型の農道や道路が作られることでの轢死も問題である。



撮影：向井貴彦

ニホンスッポン

スッポン科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：情報不足

Pelodiscus sinensis

<選定理由> C <定性的要件> ④ <変更コード> -

<種の概要> 背甲長30 cmほどまで成長する。稀に40 cm近くになる。他のカメとは異なり甲羅には甲板がなく、背甲後部や腹甲全体が柔らかい。水かきがよく発達している。日光浴や産卵のために、一次的に陸地を利用するが、基本的には完全に水棲である。河川や池沼の水底を好み、砂や泥に潜り頭部を出してじっとしていることが多い。6～8月頃に20～50個程度の卵を産む。卵は直径約2 cmの球形である。肉食傾向が強く、貝類、甲殻類、魚類などを捕食する。

<分布> **〔市内〕** 市内全域に分布していると思われるが、確認地点はまばらである。
〔県内〕 美濃地方の主に平地の河川や池沼に分布する。
〔県外〕 本州、四国、九州に分布。日本のほか、ロシア極東、朝鮮半島、中国東部、台湾などに分布。

<特記事項> 日本では食用として古くから養殖個体が流通し、また幼体はペットとして安価に大量に取引されているため、養殖場や飼育場所での逸走または遺棄の可能性を考えると、自然分布のものが在来かどうかは不明である。水底生活を好むせいか、捕獲調査において他のカメに比べて捕獲しにくく、また生息域に偏りが見られるため、岐阜県内でも生息状況を正確に把握できていない。



撮影：吉川晶子

タカチホヘビ

タカチホヘビ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Achalinus spinalis

<選定理由> C <定性的要件> ② <変更コード> －

<種の概要> 全長30～60 cmの小型種。背面の地色は褐色、黄褐色あるいは灰褐色と変異があり、黒い背正中線がある。光にかざすと真珠光沢が見られる。他のヘビとは異なり、背中の鱗が重なっておらず、鱗と鱗の間に隙間があり、乾燥に弱い。森や林の林床に生息し、夜行性で、ミミズを中心とした土壌動物を食べている。落ち葉や倒木の下など、浅い地中に生息するが、雨天の時には地表に現れることがある。

<分布> **【市内】** 市の北東部および中央部の森で、まばらに記録がある。
【県内】 美濃地方・飛騨地方とも発見されており、県全域に生息していると思われる。
【県外】 本州、四国、九州、周辺の島嶼に分布。

<特記事項> 開発により生息場所である森や林が減少している。残っている林床でも、林業の関係で広葉樹ではなく分解されにくい針葉樹の葉に覆われたり、枝の茂りすぎで林床に日光が届かなくなると地温が上がらなくなったりして、好適な生息場所が減少している可能性がある。市内での確認数は少なく、希少であると考えられるが、市内の分布や生息状況を明らかにし、本種の実態を把握する必要がある。



撮影：森元伊織

シロマダラ

ナミヘビ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Lycodon orientalis

<選定理由> C <定性的要件> ② <変更コード> －

<種の概要> 全長30～70 cmほどの小型種。背面の地色は淡灰褐色で、胴に40個前後、尾に15～20個程度の黒褐色の横帯がある。幼蛇には、頸部に左右1対の白い斑紋がある。丘陵地から山地にかけての森や林、河畔林に生息する。ガレ場など地面の乾いたところで見かけることがよくある。小型のヘビ類やトカゲ類を捕食する。

<分布> **【市内】** 市の北部、および中央部の森でまばらに記録がある。
【県内】 美濃地方・飛騨地方とも発見されており、県全域に生息していると思われるが、情報は少ない。
【県外】 北海道、本州、四国、九州、周辺の島嶼などに分布。日本固有種。

<特記事項> 夜行性で、日中は倒木や石垣に隠れており、小型でもあるため見かける機会は少ない。市内の分布や生息状況を明らかにし、本種の実態を把握する必要がある。



撮影：森元伊織（本巣市で撮影）

ジムグリ

ナミヘビ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Euprepiophis conspicillatus

<選定理由> C <定性的要件> ② <変更コード> －

<種の概要> 全長70～100 cm。背面は淡黄褐色または緑がかった淡褐色で、黒点が散在している。腹面には四角形の黒斑が市松模様状に見られる。幼蛇は背面が赤褐色もしくは濃い朱色で、黒斑があり、頭部には黒い縞模様がある。主に山地を中心に森林のある地域に生息し、地中棲で、ネズミ類や食虫類などの小型哺乳類を捕食する。

<分布> **【市内】** 市の北西部の山地で、まばらに記録がある。
【県内】 美濃地方・飛騨地方とも発見されており、県全域に生息していると思われるが、情報は少ない。
【県外】 北海道、本州、四国、九州、周辺の島嶼などに分布。日本固有種。

<特記事項> 山林の生息環境が本種にとって悪化しており、個体数が減っていると思われる。市内では北部の山地でしか確認されていないが、2008年に南接する羽島市で確認されており、岐阜市内の分布や生息状況を明らかにし、本種の実態を把握する必要がある。



撮影：森元伊織（本巣市で撮影）

(5) 両生類

岐阜市内で生息記録がある両生類は16種であり、今回は、そのうちの11種（68.8%）を選定しました。

カテゴリー別にみると、絶滅危惧Ⅰ類はヤマトサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、絶滅危惧Ⅱ類はナゴヤダルマガエル、準絶滅危惧はオオサンショウウオ、モリアオガエル、情報不足はタゴガエル、ツチガエル、カジカガエルで、絶滅と野生絶滅に該当する種はありませんでした。また、岐阜市版レッドリスト2023に新たに掲載された種及び岐阜市版レッドリスト2015から除外した種はありませんでした。

和名及び学名、各カテゴリー内での配列は、「日本産爬虫両生類標準和名リスト（2022年7月19日版）」（日本爬虫両生類学会，2022）に準拠しました。なお、各種の概要等の参考とした文献については、巻末の「参考・引用文献」に記載しました。

選定種一覧（両生類）

カテゴリー区分	種名	種数
絶滅	該当なし	－
野生絶滅	該当なし	－
絶滅危惧Ⅰ類	ヤマトサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル	5種
絶滅危惧Ⅱ類	ナゴヤダルマガエル	1種
準絶滅危惧	オオサンショウウオ、モリアオガエル	2種
情報不足	タゴガエル、ツチガエル、カジカガエル	3種
	合計	11種

ヤマトサンショウウオ

サンショウウオ科

Hynobius vandenburghi

<選定理由> A,B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 全長は73~126mm。体色は淡灰褐色から暗褐色まで変異に富む。尾の上下に黄色の条線が見られる個体が多い。幼生はバランスを持つ。卵嚢はバナナ状からコイル状まで変異に富む。低地から丘陵地の樹林や竹林などの落葉下や腐植土中で生活している。放棄水田の水たまりや溝、池沼、湿原など、落葉などが堆積した比較的浅い止水や緩やかな流れのある場所に産卵する。県内での繁殖期は2~4月がピークと考えられる。ふ化した幼生は6~7月に変態、上陸する。

<分布> [市内] 北部の1カ所のみで生息を確認。住宅地と丘陵地間の排水溝が産卵場所。

[県内] 現時点の確実な分布は、岐阜市、海津市、揖斐川町の3カ所のみ。

[県外] 近畿東部(滋賀県、京都府、大阪府、奈良県)と中部南部地域(愛知県、岐阜県、三重県)に分布。

<特記事項> 「岐阜市自然環境の保全に関する条例」の貴重野生動植物種。

岐阜市2023: 絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回): 絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020: 絶滅危惧Ⅱ類



撮影: 高木雅紀

アカハライモリ

イモリ科

Cynops pyrrhogaster

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> 5,6

<種の概要> 全長は70~140mm。背面は黒または暗褐色で、名前の由来でもあるように腹部に赤色の斑紋や不規則な模様がある。皮膚にはフグ毒のテトロドトキシンに近い神経毒を有するが、触れただけでは害はない。低地から山地の池沼や水田、湿原の水溜まりや緩やかな流れの河川などに生息する。繁殖行動は4~7月頃と秋に行われ、雌は、求愛行動をする雄が落とされた精子が入った精包を体内に取り込む。体内受精した後、4~7月頃、水草などに1個ずつ産卵する。

<分布> [市内] 中北部の山沿いを中心に分布。平野部では激減。

[県内] 県内全域に分布。

[県外] 本州、四国、九州、佐渡島、淡路島、隠岐、舌岐、大隅諸島などに分布。

<特記事項> 平野部では激減している。

岐阜市2023: 絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回): 準絶滅危惧
環境省2020: 準絶滅危惧



撮影: 高木雅紀

アズマヒキガエル

ヒキガエル科

Bufo japonicus formosus

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> 3,5,6

<種の概要> 体長は雄43~161mm、雌53~162mm。体色は灰褐色、茶褐色、黄褐色など、個体により様々である。四肢は比較的短く、ずんぐりとしており跳躍力は弱く、水かきは小さい。目の後ろにある耳腺や背中にあるイボ状の突起からは、強心作用を持つステロイドを含む白い毒液を分泌し、外敵から身を守り、また、有害な細菌の繁殖を防いでいる。触れただけでは直ちに害はないが、触れた場合は手洗いをした方がよい。市内での繁殖期のピークは3月頃である。水たまりや水田、湿原や池沼などで、集団で繁殖行動が展開される。雌の数に比べて雄の数が多く、1匹の雌に多くの雄が群がる様子は、「蛙合戦」と呼ばれている。紐状の卵塊は5m以上になることもあり、卵数は、1,500~8,000個。オタマジャクシは真っ黒で、6月頃に変態し、体長8mm前後の幼体が上陸する。

<分布> [市内] 金華山周辺、市北部で記録がある。

[県内] 県内全域に分布。

[県外] 本州東北部に分布。

<特記事項> 平野部では激減し、絶滅に近い状態であると考えられる。繁殖場所と非繁殖期を過ごす樹林や竹林が残されていても、道路などで移動経路が分断されてしまうことも減少の大きな要因であると考えられる。

岐阜市2023: 絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回): 準絶滅危惧
環境省2020: -



撮影: 高木雅紀

ニホンアカガエル

アカガエル科

Rana japonica

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> 3,5,6

<種の概要> 体長は雄34~63mm、雌43~67mm。体色は赤褐色から黄褐色まで変異に富む。背中の両脇にある隆条(背側線)は鼓膜の後ろで曲がらず直線的で、腹面は黄白色で斑紋はない。幼生は背面に1対の黒点があるものが多い。平地ないしは丘陵地の樹林や竹林に生息し、山地には少ない。繁殖は日当たりのよい水の残った水田や湿原で行う。繁殖期は1~3月で、市内でのピークは2月頃である。成体は繁殖活動後、春眠し、5月頃に活動し始める。幼生は5~6月頃に変態、上陸する。

<分布> [市内] 北部を中心に分布。

[県内] 美濃地方に分布。

[県外] 本州、四国、九州、隠岐、大隅諸島に分布。

岐阜市2023: 絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015(前回): 絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020: -



撮影: 高木雅紀

ヤマアカガエル

アカガエル科

Rana ornativentris

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> ①②⑤ <変更コード> 3,5,6

<種の概要> 体長は雄41～68mm、雌36～87mm。背面の体色は赤褐色、暗褐色、淡褐色など変異に富む。背中の中線にある隆条(背側線)は直線的ではなく、体側、下顎、喉などに黒斑のある個体が多いことなどからニホンアカガエルと区別できる。成体は山地の樹林や竹林などの湿った場所で生息する。市内では、2月頃に、比較的浅く日当たりのよい山沿いの湿原や水田などで産卵する。

<分布> [市内] 市北部に分布。
[県内] 県内全域の山地または山沿いに分布。
[県外] 本州、四国、九州、佐渡島などに分布。

<特記事項> 山沿いの水田が耕作放棄されて乾燥化が進んだり、繁殖場所がイノシシなどに荒らされたりしていることが、本種の減少の一因であると考えられる。



撮影：高木雅紀

ナゴヤダルマガエル

アカガエル科

Pelophylax porosus brevipodus

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧ⅠB類

<選定理由> B,C,E <定性的要件> <変更コード> －

<種の概要> 体長は雄35～62mm、雌37～73mmでずんぐりした体型であり足も短い。正中線を欠く個体が多い。体色の雌雄差はなく変異に富み、背面の黒色の斑紋は丸く独立する。低地の水田とその周辺部に生息する。水田などの水辺から離れることなく、冬眠個体も水田の中やその周辺の土などで発見される。繁殖期は比較的長く、5～7月。産卵は水田やその周辺の止水で行われる。2度に分けて産卵する個体もある。

<分布> [市内] 都市部を除く水田地帯に分布。
[県内] 美濃地方を中心に分布。
[県外] 山陽地方東部、近畿地方、東海地方、中部地方南部、北陸地方西部に分布。

<特記事項> トノサマガエルとの交雑個体が発見されている。



撮影：高木雅紀

オオサンショウウオ

オオサンショウウオ科

Andrias japonicus

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

<選定理由> A,B,D <定性的要件> <変更コード> 2

<種の概要> 全長は300～1,500mm。世界最大の両生類である。体は茶褐色で黒色の斑紋があるが、変異が大きい。頭部などにイボ状の突起がある。眼は小さい。卵塊は数珠状である。流水性で河川の中上流部に生息する。市内では、繁殖している可能性は低いものと考えられ、上流から流されてきたものが長良川やその支流に迷い込んだ個体が発見されることが多いと考えられる。市内の長良川での幼生の発見記録もある。繁殖は支流部の上流で行われることが多く、繁殖期は8月下旬～9月で、8月上旬頃から河川を遡上し始め、上流部の河岸の横穴で産卵する。

<分布> [市内] 長良川およびその支流に分布。
[県内] 長良川流域および飛騨川流域などに分布。人為的に移入された場所も知られている。
[県外] 本州(岐阜県以西)、四国、九州の一部に分布。

<特記事項> 近年、愛知県、三重県、京都府や三重県、奈良県、岡山県、広島県などでチュウゴクオオサンショウウオや本種との交雑種がみつかり、岐阜県においても監視が必要である。「文化財保護法」の国指定特別天然記念物。「種の保存法」の国際希少野生動物種



撮影：矢追雄一(市外撮影)

モリアオガエル

アオガエル科

Zhangixalus arboreus

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

<選定理由> B,C,D,E <定性的要件> <変更コード> 5,6

<種の概要> 体長は雄42～60mm、雌59～82mm。指先の吸盤が大きい。背面は明緑色から暗緑色で、赤褐色から黒色の斑紋を有する個体もある。虹彩は赤みがかる。卵塊は泡状で直径100mm前後である。成体は普段は森林の樹上で生活し、人目につきにくい。繁殖期には池沼や湿原、水田などに現れ、水面上に張り出した枝や、草などに、白っぽい泡状の卵塊を生み付ける。孵化した幼生は降雨時などに下の水面へ落下し、止水中で成長する。

<分布> [市内] 北西部の山沿いと金華山周辺に分布。
[県内] 県内全域の低地から亜高山帯に分布するが、平野部にはあまり生息していない。
[県外] 本州、佐渡島などに分布。

<特記事項> 北西部では隣接する本巣市などと連続的に分布しているが、金華山周辺の個体群は人為的な移動による分布の可能性も考えられる。



撮影：高木雅紀

タグガエル

アカガエル科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Rana tagoi tagoi

<選定理由> B,E <定性的要件> <変更コード> －

<種の概要> 体長は雄30～58mm、雌31～54mm。背面の体色は明褐色、褐色、灰褐色など変異に富み、腹面は喉から胸にかけて黒褐色の小斑が密にある。体形は比較的幅広い。成体は、樹林や竹林などの湿った場所に生息し、3～5月に溪流の伏流水中や湿原の緩やかな流れなどの岩の隙間や落ち葉の下などで産卵する。繁殖期には、姿は見えないが、岩の下などから「グルクククク、グルグルグル」と、声だけが聞こえてくることもある。卵数は30～193個ほどで、卵黄を多く含む比較的大きな卵を産む。幼生は餌を食べずに、卵黄の栄養分のみで成長し、摂食せずに変態が可能である。

<分布> **〔市内〕** 北部の山沿いの地域を中心に分布。
〔県内〕 平野部を除く全域に分布。
〔県外〕 本州、四国、九州に分布。

<特記事項> 近い将来、いくつかの種に分けられる可能性がある。



撮影：岐阜市

ツチガエル

アカガエル科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Glandirana rugosa

<選定理由> B,C,E <定性的要件> <変更コード> －

<種の概要> 体長は雄37～46mm、雌44～53mm。体色は灰褐色から暗褐色で、不明瞭な暗色の小斑が点在する。正中線をもつものもある。背面には多数の短い隆条があり、他のカエルと違って皮膚の表面がヌルヌルしていない。そのため、「イボガエル」と呼ばれることが多い。触れると悪臭を放つことがあり、本種に襲いかかったニホンマムシが、悪臭を放たれて本種を吐き出したのを観察したことがある。水田、池沼や河川周辺の水辺に生息し、倒木の下や土中、池沼や河川の水底や土中で冬眠する。また、幼生で越冬するものが多い。繁殖期は5～9月で、30～60個ほどの卵を含む卵塊を複数回に分けて産卵する。

<分布> **〔市内〕** 金華山周辺と北西部を中心に分布。南部では激滅している。
〔県内〕 全域に分布しているが、平野部では激滅している。
〔県外〕 本州、四国、九州、隠岐、宍岐、五島列島などに分布。



撮影：高木雅紀

カジカガエル

アオガエル科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Buergeria buergeri

<選定理由> B,C <定性的要件> <変更コード> －

<種の概要> 体長は雄37～44mm、雌49～69mm。灰褐色から褐色など、個体により様々である。背面には顆粒状の小さな突起が点在し、不規則な淡い暗褐色の模様がある。山地の水のきれいな瀬のある河川やその支流、周辺の森林に生息するが、市内では長良川沿いで発見される。関市より上流では繁殖も確認されており、市内でも繁殖の可能性もある。4～7月に雄は浅瀬に集まり、水際や水面から出た石の上で高くきれいな声で鳴く。水中の石の下などに50～80個の卵を含む卵塊を数カ所に分けて産卵する。河川周辺の石の下などで冬眠する。

<分布> **〔市内〕** 金華山付近より上流の長良川沿い。
〔県内〕 南部の平野部を除く県内全域の山地、山沿いの河川周辺に分布。
〔県外〕 本州、四国、九州、五島列島に分布。

<特記事項> 全国各地で、本種を清流のシンボルとして保護活動が展開されている。



撮影：江頭幸士郎

(6) 魚類

岐阜市内で生息記録がある魚類は74種であり、今回は、そのうちの27種（36.5％）を選定しました。

カテゴリー別にみると、野生絶滅はウシモツゴ1種、絶滅危惧Ⅰ類はニホンウナギ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラなど7種、絶滅危惧Ⅱ類はスナヤツメ北方種、ヤリタナゴ、ウツセミカジカなど5種、準絶滅危惧はアブラボテ、カワヒガイ、ニシシマドジョウなど8種、情報不足はナガレカマツカ、カワアナゴ、マハゼなど6種で、絶滅に該当する種はありませんでした。

岐阜市版レッドリスト2023に新たに掲載された種は、ナガレカマツカ、スミウキゴリ、ボウズハゼの3種で、2015年以降の調査で岐阜市内での生息が確認された種です。一方、岐阜市版レッドリスト2015で掲載されていたコイ（野生種）（前回：情報不足）とアマゴ（サツキマス）（前回：絶滅危惧Ⅱ類）、アユ（天然遡上）（前回：準絶滅危惧）について、水産資源上の管理を優先し、放流個体か天然個体であるかの判断が困難であることから除外しました。また、その他の9種（ヌマムツ、タカハヤ、イトモロコ、トウカイゴタスジシマドジョウ、ナマズ、ボラ、ウキゴリ、ゴクラクハゼ、ヌマチチブ（前回：全て準絶滅危惧））については、個体数が多いことが確認された、もしくは増加傾向がみられることから除外しました。

和名及び学名、各カテゴリー内での配列は「日本産魚類全種リスト エクセル版 2022年11月21日 ver. 18」（本村，2022）及び「岐阜県の魚類 第二版」（向井，2019）を参考にしました。なお、各種の概要等の参考とした文献については、巻末の「参考・引用文献」に記載しました。

選定種一覧（魚類）

カテゴリー区分	種名	種数
絶滅	該当なし	－
野生絶滅	ウシモツゴ	1種
絶滅危惧Ⅰ類	ニホンウナギ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、カワバタモロコ、デメモロコ、ハリヨ、トウカイヨシノボリ	7種
絶滅危惧Ⅱ類	スナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種、ヤリタナゴ、ウツセミカジカ、カマキリ（アユカケ）	5種
準絶滅危惧	アブラボテ、カワヒガイ、ニシシマドジョウ、ホトケドジョウ、アカザ、スズキ、ドンコ、シマヨシノボリ	8種
情報不足	ナガレカマツカ、カワアナゴ、マハゼ、アシシロハゼ、スミウキゴリ、ボウズハゼ	6種
合計		27種

ウシモツゴ

コイ科

岐阜市2023：野生絶滅
岐阜市2015（前回）：野生絶滅
環境省2020：絶滅危惧ⅠA類

Pseudorasbora pugnax

<選定理由> B,E,G <定性的要件> - <変更コード> -

<種の概要> 全長8cm程度。口が小さく上を向き、口ひげは無い。側線は不完全で胸鰭上方までしか達しない。岐阜県、愛知県、三重県の東海3県固有で、平野部の水路からは絶滅し、現在では中山間地のため池にのみ生息する。近年の移殖放流を除くと野生生息地は10地点以下しか残されていない。

<分布> [市内] 私邸の庭池に1カ所のみ。
[県内] 美濃地方のため池3カ所のみ。
(保護用の放流池、ビオトープ等は除く)
[県外] 愛知県、三重県と岐阜県の東海3県に生息する固有種。

<特記事項> 市内では、水田水路の改変、ため池への外来魚の放流などによって、野外では絶滅したと考えられる。「岐阜県野生生物保護条例」の指定希少野生生物。



撮影：向井貴彦

ニホンウナギ

ウナギ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧ⅠB類

Anguilla japonica

<選定理由> B,D,E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 全長60cm程度。成魚は降海してグアム島近辺まで移動して産卵する。生まれた卵・仔魚は黒潮に乗って日本沿岸に到達して河川に遡上、数年間かけて成長する。天然遡上以外に、河口域で遡上を始めた「シラスウナギ」を捕獲して育てた個体が漁業用に放流されている。

<分布> [市内] 市内に広く分布するが、個体数は多くない。
[県内] 県内河川およびため池などに分布。
[県外] 北海道～九州に分布。

<特記事項> 日本沿岸への稚魚の来遊が激減しており、河口域の人為的改変による幼魚の生育場の消失や、河川改修による成魚の生息環境の減少、乱獲が減少要因と考えられている。



撮影：向井貴彦

イチモンジタナゴ

コイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧ⅠA類

Acheilognathus cyanostigma

<選定理由> B,D,E,F <定性的要件> ②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 全長8cm程度。口ひげは短く、タナゴ類の中では細身の体形。肩部から尾柄部までつながる明瞭な青緑色の縦帯がある。繁殖期の雄は腹部や臀鰭が桃色になる。湖沼や流れの緩やかな河川に生息するとされる。

<分布> [市内] 一部の河川にのみ分布。
[県内] 美濃地方の河川、ダム湖やワンドに分布。
[県外] 濃尾平野から近畿地方に分布。

<特記事項> 市内で確認される個体数はきわめて少ない。河川改修による環境改変と繁殖に必要な二枚貝の減少、愛好家等による過剰な採集が、本種の主な減少要因と考えられる。また、市内の個体群は、すでに琵琶湖産などの放流による遺伝的攪乱もしくは外来個体群への置き換わりが生じている。



撮影：向井貴彦

シロヒレタビラ

コイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧ⅠB類

Acheilognathus tabira tabira

<選定理由> B,D,E,F <定性的要件> ②⑤ <変更コード> -

<種の概要> 全長8cm程度。口ひげは短く、体高はやや高い。肩部に暗青色の斑点がある。繁殖期は春で、雄の婚姻色は主に青緑色で腹部が黒く、臀鰭外縁が白くなる。水田周辺の水路や、河川下流域、ワンドなどに生息する。

<分布> [市内] 一部地域のごく小規模な河川・水路にのみ分布。
[県内] 木曾川水系のダム湖、木曾三川の下流周辺に分布。
[県外] 濃尾平野から山陽地方に分布。

<特記事項> 市内で確認される個体数は少ない。河川改修による環境改変と繁殖に必要な二枚貝の減少、愛好家等による過剰な採集が本種の主な減少要因と考えられる。また、市内の個体群は、すでに琵琶湖産などの放流による遺伝的攪乱が生じている。



撮影：向井貴彦

カワバタモロコ	コイ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類 環境省2020：絶滅危惧ⅠB類
<i>Hemigrammocypripis neglecta</i>		
<選定理由> B,E,G <定性的要件> ⑥ <変更コード> -		
<種の概要> 全長4cm程度。小型のコイ科魚類で、繁殖期の雄は金色を帯びた婚姻色を表す。繁殖期は初夏で、抽水植物などの茂った水路で産卵する。		
<分布> [市内] 北西部と南東部でわずかに分布。 [県内] 美濃地方中山間地から平野部の河川、ため池に分布。 [県外] 静岡県～九州北部に分布。日本固有種。		
<特記事項> 水田水路の環境変化と溜池への外来魚の放流が主な減少要因と考えられる。市内での生息数はさわめて少ないが、産地不明の個体の放流が散発的に生じている。岐阜県では輪之内町が条例で保護している。		
		撮影：寺町 茂（市外撮影）



デメモロコ	コイ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類 環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類
<i>Squalidus japonicus japonicus</i>		
<選定理由> B,E <定性的要件> ②⑤ <変更コード> -		
<種の概要> 全長10cm程度。コウライモロコやイトモロコに類似するが、口ひげが短く、頬部が広く、頭部背面がやや盛り上がった体形をしている。野外で採集した直後の体色は銀色が強く、体側には青緑の縦条が目立つ。流れの緩やかな泥底の水路に生息するが、生活排水などで汚染された環境にはいない。		
<分布> [市内] 伊自良川水系の一部地域にのみ分布。 [県内] 美濃地方の一部の水田地帯の水路などに限って分布。 [県外] 濃尾平野および琵琶湖淀川水系にのみ分布。		
<特記事項> 河川改修による環境変化が主な減少要因と考えられる。市内での分布は非常に狭い範囲に限られている。		
		撮影：向井貴彦



ハリヨ	トゲウオ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類 環境省2020：絶滅危惧ⅠA類
<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2		
<選定理由> B,C,E <定性的要件> ②⑤ <変更コード> -		
<種の概要> 全長5cm程度。背鰭の3本の棘には鱗膜が発達しない。鱗は無く、体前部に鱗板がある。主に湧水の流れる河川に生息する。滋賀県と岐阜県のハリヨは遺伝的にも形態的にも異なっている。		
<分布> [市内] 主に伊自良川に分布。 [県内] 岐阜・西濃地方の、主に湧水のある河川に分布。 [県外] 岐阜県のほか三重県（絶滅）、滋賀県に分布。		
<特記事項> 湧水の減少や平野部の市街化、河川改修が減少要因と考えられる。市内の寺社の池と市街地の河川にも記録があるが、それらは人為的な放流の可能性が高い。「岐阜県野生生物保護条例」の指定希少野生生物。		
		撮影：寺町 茂



トウカイヨシノボリ	ハゼ科	岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類 岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類 環境省2020：準絶滅危惧
<i>Rhinogobius telma</i>		
<選定理由> B,E,G <定性的要件> ②⑤ <変更コード> -		
<種の概要> 全長5cm程度。第一背鰭が伸長せず、体に鞍状もしくは不定形の暗色斑がある。		
<分布> [市内] 西北部のため池にのみ分布。 [県内] 美濃地方の丘陵地のため池、水枯れしない水田地帯の水路に分布。 [県外] 岐阜県のほか愛知県、三重県の東海3県に生息する固有種。		
<特記事項> 圃場整備による湿地の消失、それによって孤立した生息地へのブラックバスの放流、水路のコンクリート化、池の改修による水抜き、国内の他地域から持ち込まれたヨシノボリ類との交雑などが減少要因である。		
		撮影：向井貴彦



スナヤツメ北方種

ヤツメウナギ科

Lethenteron sp. N.

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 全長15cm程度。眼の後ろに丸い鰓孔が7対あるため、八つの眼があるように見えることからヤツメウナギと呼ばれる。幼生期は目が無く、数年間砂泥中に潜って藻類や有機物を食べて成長する。秋に変態して目が形成された成魚は餌をとりずらに越冬し、翌春産卵する。

<分布> [市内] 伊自良川水系から長良川本流の下流域、湧水河川に分布。
[県内] 美濃地方の平野部から中山間地の湧水のある小河川に分布。
[県外] 滋賀県以东の本州と北海道に分布。日本固有種。

<特記事項> 平野部の湧水や伏流水に依存するため、小河川の改修や住宅地開発によって生息地が減少したと考えられる。岐阜県博物館には岐阜市加納長刀堀産スナヤツメ（採集年不明）の標本があり、かつては市内中心部の湧水にも生息していた可能性がある。



撮影：向井貴彦

スナヤツメ南方種

ヤツメウナギ科

Lethenteron sp. S.

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 全長15cm程度。形態および生活史はスナヤツメ北方種とほぼ同様。北方種と南方種の種判別にはDNA分析が有効であるが、北方種は成魚の目の虹彩が黒く、南方種は虹彩が銀色の傾向がある。岐阜県内では河川本流・支流の砂底に生息することが多い。

<分布> [市内] 伊自良川水系及び長良川本流に分布。
[県内] 飛騨・美濃地方の山間地から中山間地の河川に分布。
[県外] 東北地方以南の本州、四国、九州に分布。

<特記事項> 河川上・中流域の流れの緩やかな砂底に生息するため、水質悪化に弱いと考えられる。市内での採集事例が少なく、希少と考えられるが、砂中に潜むために生息量が過小評価されている可能性もある。



撮影：向井貴彦

ヤリタナゴ

コイ科

Tanakia lanceolata

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧

<選定理由> D,E,F <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 全長8cm程度。やや細長い体形のタナゴ類で、側線は完全。口ひげは明瞭。繁殖期は春。非繁殖期の体色は銀色だが、繁殖期の雄の婚姻色は背と腹が黒く、腹部は緑色を帯び、臀鰭が鮮やかな赤に色づく。マツカサガイに産卵するとされる。

<分布> [市内] 北部の支流に比較的広く分布。
[県内] 美濃地方の河川や水路に分布。
[県外] 東北地方から九州北部に分布。

<特記事項> 河川改修による環境変化と繁殖に必要な二枚貝の減少が、本種の主な減少要因と考えられる。愛好家等による採集の影響も考えられる。



撮影：寺町 茂

ウツセミカジカ

カジカ科

Cottus reinii

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧ⅠB類

<選定理由> B,E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 全長15cm程度。アユカケよりも頭部が小さく、鰓蓋の棘は小さい。鱗は無い。冬に河川で産卵し、生まれた仔魚は沿岸まで流下して生育した後、春になると河川に遡上する。生まれた仔魚が海に下らず河川上流域で一生を過ごすカジカ大卵型とは胸鰭条数で区別できる。

<分布> [市内] 長良川本流に分布。
[県内] 木曾三川の中・下流域に分布。
[県外] 本州と四国の太平洋側に分布。

<特記事項> 現在の長良川では個体数が少ない。下流域の環境変化による回避阻害の影響が考えられる。



撮影：向井貴彦

カマキリ (アユカケ)

カジカ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Rheopresbe kazika

<選定理由> B,E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 全長20cm程度。頭部が大きく、鰓蓋の棘が鉤状に発達する。鱗は無い。魚食性で、冬になると沿岸まで下って産卵する。生まれた仔魚は沿岸で生育した後、春になると河川に遡上する。

<分布> [市内] 長良川にわずかに分布。
[県内] 木曾三川の中・下流に分布。
[県外] 東北地方から九州に分布。

<特記事項> 長良川河口堰運用前の1992年8月に建設省(当時)がおこなった調査では、岐阜市から美濃市の範囲で100個体近く採集されているが、現在ではさわめて少ない。下流域の環境変化による回遊阻害の影響が考えられる。



撮影：寺町 茂（市外撮影）

アブラボテ

コイ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧

Tanakia limbata

<選定理由> D,E,F <定性的要件> ② <変更コード> 12

<種の概要> 全長5cm程度。ヤリタナゴに近縁だが、やや体高が高い。側線は完全で口ひげは明瞭。繁殖期は春。幼魚の体色は銀色だが、鱗がやや褐色を帯びる。繁殖期の雄の婚姻色は黄褐色で臀鱗は黒く染まる。ヤリタナゴよりも上流側、もしくは小規模な水路に多い。タガイやインガイに産卵するとされる。

<分布> [市内] 北部の支流に比較的広く分布。
[県内] 美濃地方の河川や水路に分布。
[県外] 濃尾平野以西の本州、四国、九州北部に分布。

<特記事項> 河川改修による環境変化と繁殖に必要な二枚貝の減少が、本種の主な減少要因と考えられる。愛好家等による採集の影響も考えられる。



撮影：向井貴彦

カワヒガイ

コイ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Sarcocheilichthys variegatus variegatus

<選定理由> D,E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 全長12cm程度。若魚は体側に明瞭な黒色縦条があるが、成長すると不明瞭になる。成熟した雄の婚姻色は頬部が桜色、背側が青く、体側が黄緑色を帯び、県内では地方名「さくらばえ」とも呼ばれる。成熟した雌は1~2cmの産卵管が伸びており、二枚貝の中に産卵する。濃尾平野の在来個体群は他地域とは遺伝的に大きく異なる。

<分布> [市内] 長良川および比較的規模の大きな支流に分布。
[県内] 美濃地方の河川中流域、支流に分布。
[県外] 濃尾平野~九州に分布。

<特記事項> 現在のところ生息数は多いが、産卵のために必要な淡水二枚貝類が減少しているため、存続基盤が脆弱である。



撮影：寺町 茂

ニシシマドジョウ

ドジョウ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-

Cobitis sp. BIWAE type B

<選定理由> E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 全長10cm程度。体側に黒色の点列があり、トウカイコガタスジマドジョウに類似するが、背面の暗色斑が規則的に配列し、体側中央部が青みを帯びることや、尾鰭の模様などで区別できる。やや流れのある砂底の河川に生息する。

<分布> [市内] 長良川本流および比較的規模の大きい支流に分布。
[県内] 美濃地方の河川中流域に分布。
[県外] 中部地方から山陰地方に分布。

<特記事項> 比較的水のきれいな砂底に生息するため、水質悪化に弱いと考えられる。市内での分布地点はトウカイコガタスジマドジョウよりも少ない。



撮影：寺町 茂

ホトケドジョウ

フクドジョウ科

Lefua echigonia

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：絶滅危惧ⅠB類

<選定理由> E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 全長5cm程度。ドジョウやシマドジョウ類とは違って鼻孔の近くに1対のひげがあり、ずんぐりした体形をしている。体色は褐色で細かな暗色小点が散在する。ほかの魚類が生息しないような丘陵地の小河川や細流および湿地帯に生息する。

<分布> [市内] 主に北部の丘陵地に分布。
[県内] 美濃地方の中山間地の小河川、水路に分布。
[県外] 東北地方から兵庫県に分布。

<特記事項> 丘陵地の宅地開発や高速道路等の建設によって、生息地が失われ続けている。「岐阜市自然環境の保全に関する条例」の貴重野生動物種。



撮影：寺町 茂

アカザ

アカザ科

Liobagrus reinii

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

<選定理由> B,E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 全長10cm程度。全身が赤褐色で、ひげが4対ある。主に河川の上流から中流域に生息する。胸鰭と背鰭の棘が鋭く、刺されると強く痛む。5～6月頃に石の下でゼリー質に包まれた黄色い卵を産む

<分布> [市内] 長良川本流および丘陵地の支流に分布。
[県内] 河川の上・中流域に広く分布。
[県外] 秋田県以南の本州、四国、九州に分布。

<特記事項> 長良川本流においては生息数が多いが、支流の河川改修によって生息地が減少している。



撮影：向井貴彦

スズキ

スズキ科

Lateolabrax japonicus

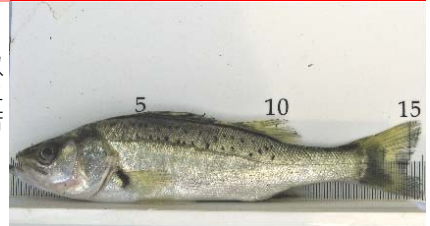
岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-

<選定理由> B,E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 成長すると90cm程度になるが、河川に遡上するのは全長20cm以下の個体が多い。吻は長く、顔は尖っており、口が大きい。背鰭が第一背鰭と第二背鰭に分かれている。体色はほぼ銀灰色。成魚は内湾や沿岸に生息し、幼魚や若魚が河川によく進入して抽水植物帯でエビや小魚を捕食する。

<分布> [市内] 長良川本流に分布。
[県内] 木曾三川の下流域に分布。
[県外] 北海道南部から九州に分布。

<特記事項> 市内では、かつては鮎漁の網に毎夜かかる程いとされる。1990年頃に伊自良川で採集された標本もあるが、1990年代半ば以降は長良川本流で稀にしか捕獲されていない。



撮影：寺町 茂

ドンコ

ハゼ科

Odontobutis obscurus

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-

<選定理由> E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 全長10cm程度。口が大きく、腹鰭は二つに分かれている。体色は褐色で体側に黒色斑が並ぶ。やや小規模で水のきれいな砂礫質の抽水植物が茂った河川に生息し、大きめの石の下面などに産卵する。エビや小魚などを捕食する。

<分布> [市内] 主に北部の小規模河川に分布。
[県内] 美濃地方の平野部から中山間地の河川に分布。
[県外] 愛知県から九州に分布。

<特記事項> 水質が良い河川で、砂泥底に産卵床となる大きめの石などの障害物が必要。河川改修によって河床が平坦化されることなどが原因で減少している。



撮影：寺町 茂

シマヨシノボリ	ハゼ科	岐阜市2023：準絶滅危惧 岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧 環境省2020：－
<i>Rhinogobius nagoyae</i>		
＜選定理由＞ E ＜定性的要件＞ ② ＜変更コード＞ －		
<p>＜種の概要＞ 全長7cm程度。腹鰭は吸盤状。体側に暗色横帯があり、頬部に朱色のミズズミ状の斑紋がある。繁殖期の雌の腹部は鮮やかなコバルトブルーを呈する。仔魚期に海まで下って成長した後に河川を遡上する。</p> <p>＜分布＞ 【市内】 長良川本流および武儀川に分布。 【県内】 長良川と揖斐川の中・下流域に分布。 【県外】 本州から琉球列島に分布。</p> <p>＜特記事項＞ 長良川下流域の環境変化によって、河口からの遡上が減少していると考えられる。</p>		
		撮影：向井貴彦



ナガレカマツカ	コイ科	岐阜市2023：情報不足 岐阜市2015（前回）：－ 環境省2020：－
<i>Pseudogobio agathonectris</i>		
＜選定理由＞ E ＜定性的要件＞ ① ＜変更コード＞ 9		
<p>＜種の概要＞ 体長20cm程度。吻が長く、口は下向きで口ひげがある。カマツカに似るが、胸鰭の外縁が湾曲する、口ひげが長く眼の前縁を越える、体側の暗色斑が大きく明瞭であるなどの特徴から区別できる。河川上・中流に生息する。</p> <p>＜分布＞ 【市内】 長良川本流、津保川に分布。 【県内】 美濃地方の各水系の上・中流に分布。 【県外】 静岡県から山口県までの本州西部太平洋側に分布。</p> <p>＜特記事項＞ 2019年に新種として記載された。岐阜県立博物館に長良川産の標本が登録されている。</p>		
		撮影：寺町 茂



カワアナゴ	カワアナゴ科	岐阜市2023：情報不足 岐阜市2015（前回）：情報不足 環境省2020：－
<i>Eleotris oxycephala</i>		
＜選定理由＞ B,E ＜定性的要件＞ ① ＜変更コード＞ －		
<p>＜種の概要＞ 全長15cm程度。口が大きく、腹鰭は二つに分かれている。体色の変化が著しく、全体が褐色の時や、背面が明色でそれ以外が暗褐色になることもある。汽水域から淡水域に生息し、エビなどの小動物や巻貝などを食べる。仔魚期は海で生活する。</p> <p>＜分布＞ 【市内】 長良川に分布。 【県内】 木曾三川下流域に分布。 【県外】 西南日本(沖縄を除く)に分布。</p> <p>＜特記事項＞ 1990年11月2日に岐阜市下奈良の長良川で採集された標本が岐阜県博物館に所蔵されている(GPM-Z13945)。標本ピンに書かれていた採集者のメモによると「エビ籠に入る。昔いて、絶滅したと思っていたら入った。」とのこと。</p>		
		撮影：向井貴彦



マハゼ	ハゼ科	岐阜市2023：情報不足 岐阜市2015（前回）：情報不足 環境省2020：－
<i>Acanthogobius flavimanus</i>		
＜選定理由＞ B,E ＜定性的要件＞ ＜変更コード＞ －		
<p>＜種の概要＞ 全長15cm程度。幼魚は頭部が大きく、第1背鰭に黒点があり、体側の斑紋もやや不明瞭だが、成長とともに頭部の比率が小さくなり、背鰭の黒色斑も消失、体側に並ぶ暗褐色斑が明瞭になる。主に汽水域に生息するが、夏季には淡水域にも多くの個体が遡上する。</p> <p>＜分布＞ 【市内】 岐阜大学構内の河川で記録がある。過去には長良川に分布したと考えられる。 【県内】 主に揖斐川中・下流域と木曾川の馬飼大堰より下流に分布。 【県外】 北海道から九州に分布。</p> <p>＜特記事項＞ 1990年代半ば以前は夏季に多数の個体が長良川にいたとされるが、写真や標本等はなかった。2018年に岐阜大学構内の河川で捕獲され、岐阜県立博物館に標本が登録されている。揖斐川流域では現在も大垣市まで遡上するため、本来は岐阜市も生息域だったと考えられる。</p>		
		撮影：向井貴彦（羽島市産）



アシシロハゼ

ハゼ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

Acanthogobius lactipes

<選定理由> B,E <定性的要件> <変更コード> －

<種の概要> 全長9cm程度。マハゼに似るが、鰭条数や縦列鱗数が少ないことで区別できる。河川下流域から汽水域の低塩分な砂質の環境に生息する。

<分布> [市内] 長良川に分布。
[県内] 主に揖斐川下流域と木曾川の馬飼大堰より下流に分布。
[県外] 北海道から九州に分布。

<特記事項> 2008年の河川水辺の国勢調査において、長良大橋付近で採集されている。長良川下流域に広く分布していたと推測されるが、1990年代以前の小型ハゼ類の信頼できる記録が皆無に近いため、実態は不明。少なくとも現在は非常に稀。



撮影：向井貴彦（羽島市産）

スミウキゴリ

ハゼ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：－
環境省2020：－

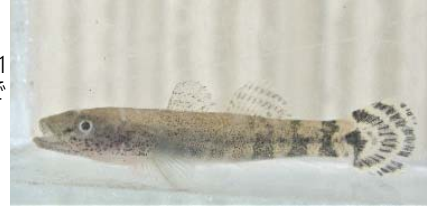
Gymnogobius petschiliensis

<選定理由> B,E <定性的要件> ① <変更コード> 9

<種の概要> 全長9cm程度。頭部は縦偏し、口が大きい。ウキゴリに似るが、第1背鰭の後端部に黒色斑がないことや体側の横斑の輪郭が不明瞭であることで区別できる。河川中・下流域の緩流部に生息する。

<分布> [市内] 正木川、板屋川で記録がある。岐阜市内では稀。
[県内] 木曾三川の中・下流域に分布。
[県外] 北海道から九州、屋久島、種子島に分布。

<特記事項> 岐阜県立博物館に板屋川産の標本が登録されている。



撮影：寺町 茂

ボウズハゼ

ハゼ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：－
環境省2020：－

Sicyopterus japonicus

<選定理由> B,E <定性的要件> ① <変更コード> 9

<種の概要> 全長12cm程度。吻端から頭部にかけて丸みを帯びる。体色は灰褐色で、体側には約10本の暗色横帯がある。腹鰭が吸盤状になっており、吸着力が非常に強い。河川上・中流域に生息し、川底の石の表面についた藻類を食べる。

<分布> [市内] 長良川で記録がある。岐阜市内では稀。
[県内] 揖斐川と長良川に分布。
[県外] 福島県から琉球列島、八丈島、小笠原諸島に分布。

<特記事項> 岐阜県立博物館に長良川産の標本が登録されている。



撮影：難波良光（市外撮影）

(7) 昆虫類

岐阜市内で生息記録がある昆虫類は3,514種であり、今回は、そのうちの28種（0.8％）を選定しました。

カテゴリー別にみると、絶滅はシルビアシジミ（日本亜種）、絶滅危惧Ⅰ類はアオハダトンボ、ベニイトトンボ、アオヤンマ、絶滅危惧Ⅱ類はホンサナエ、キロヤマトンボ、カワラバッタなど8種、準絶滅危惧はモートンイトトンボ、ナゴヤサナエ、トラフトンボなど8種、情報不足はオグマサナエ、クツワムシ、タイコウチなど8種で、野生絶滅に該当する種はありませんでした。

岐阜市版レッドリスト2023に新たに掲載された種は、コオイムシ、タイコウチ、スゲハムシの3種でした。これら3種は、今までの調査でも岐阜市での生息が確認されていた種ですが、研究等の新知見で危急性が示唆されたことから選定されました。

和名及び学名、各カテゴリー内での配列は「岐阜県昆虫目録Ⅰ～Ⅳ」（岐阜県昆虫分布研究会，2013，2014，2015，2018）と「日本産昆虫総目録」（九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編，1998，1990）を参考にしました。なお、各種の概要等の参考とした文献については、巻末の「参考・引用文献」に記載しました。

選定種一覧（昆虫類）

カテゴリー区分	種名	種数
絶滅	シルビアシジミ（日本亜種）	1種
野生絶滅	該当なし	－
絶滅危惧Ⅰ類	アオハダトンボ、ベニイトトンボ、アオヤンマ	3種
絶滅危惧Ⅱ類	ホンサナエ、キロヤマトンボ、カワラバッタ、ヒメタイコウチ、タガメ、コクロオバボタル、ツマグロキチョウ、ミドリシジミ	8種
準絶滅危惧	モートンイトトンボ、ナゴヤサナエ、トラフトンボ、マイコアカネ、クロゲンゴロウ、ベーツヒラタカミキリ、トラフカミキリ、ウラギンスジヒョウモン	8種
情報不足	オグマサナエ、クツワムシ、タイコウチ、コオイムシ、ヨツボシカミキリ、スゲハムシ、ゴマフツツガ、エゾスジヨトウ	8種
合計		28種

シルビアシジミ（日本亜種）

シジミチョウ科

岐阜市2023：絶滅
岐阜市2015（前回）：絶滅
環境省2020：絶滅危惧ⅠB類

Zizina otis emelina

<選定理由> E <定性的要件> - <変更コード> -

<種の概要> 翅を広げた大きさが25mm前後のチョウ。翅の表面は雄が青藍色で、外縁に黒帯がある。雌は暗褐色で前翅に青藍色が現れる。裏面は雌雄とも灰褐色で黒点がある。

<分布> [市内] 雄総、黒野、金華山で記録がある。
[県内] 大垣市、羽島市に記録がある。
[県外] 本州(栃木県以西)、四国、九州に分布。

<特記事項> 岐阜県では、岐阜市のほか大垣市、羽島市から記録されているが、いずれの地とも絶滅した。



撮影：名和秀雄

アオハダトンボ

カワトンボ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧

Calopteryx japonica

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 体長55～60mm前後のトンボ。翅は黒褐色。体は強い金属光沢のある緑色。平地や丘陵地の小河川が生息地。成虫は5～7月に発生するが6月に多い。雄は水際の植物のあるところを縄張りにしている。交尾後、雌は植物につかまり、水中に潜って産卵する。

<分布> [市内] 則松、石谷、北野西山、太郎丸向良で記録がある。
[県内] 大垣市、関市、美濃市、本巣市、揖斐川町、中津川市、恵那市、御嵩町に分布。
[県外] 本州～九州に分布。

<特記事項> 生息地は丘陵地～低山地にある沈水植物などの水生植物が繁茂する緩やかな流れの河川。近年、激減しているトンボの1種である。



撮影：中島和典

ベニイトトンボ

イトトンボ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧

Ceriagrion nipponicum

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②⑥ <変更コード> -

<種の概要> 翅の長さが20mm前後、腹部の長さが28mm前後のトンボ。体は雄があざやかな紅色で、雌は赤褐色である。抽水植物や沈水植物、浮葉植物が繁茂し、木陰のある池沼に生息している。成虫は5～10月にかけて発生するが、7～9月に多く見られる。

<分布> [市内] 達目洞、折立、黒野ばんが池で記録がある。
[県内] 羽島市、笠松町に分布。
[県外] 本州(関東平野以西)、四国、九州に分布。

<特記事項> 生息地はヨシやガマなどの抽水植物が繁茂している池沼などの水湿地。このような湿地の埋め立てなどによる生息環境の悪化によって個体数が激減。本県では30年以上記録がない。



撮影：渡辺千洋(市外撮影)

アオヤンマ

ヤンマ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧

Aeschnophlebia longistigma

<選定理由> B,E <定性的要件> ①②⑥ <変更コード> -

<種の概要> 翅の長さは46mm前後、腹長が54mmのトンボ。腹部は太く、鮮やかな黄緑色で、顔の額の後ろには丁字型の斑紋がある。成虫は4月上旬～7月中旬に発生し、池沼周辺の樹林や草地で生息。幼虫は抽水植物の茎や水底の沈積物などにつかまって生活している。

<分布> [市内] 黒野今川、黒野ばんが池、長良で記録がある。
[県内] 各務原市、瑞穂市、羽島市、海津市、笠松町、養老町などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

<特記事項> かつて岐阜県南部に生息していたが近年生息地の環境が悪化し、ほとんど見ることが出来なくなった。市内では30年以上記録がない。



撮影：渡辺千洋(市外撮影)

ホンサナエ

サナエトンボ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Shaogomphus postocularis

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 体長50mm前後のトンボ。体は黒色で黄色い模様がある。平地や丘陵地の水域に生息。成虫は4～6月に発生。幼虫は漕やよどみの水生植物の根元や泥に潜って生活している。卵から成虫になるまで2～3年かかる。

<分布> [市内] 太郎丸向良で記録がある。
[県内] 多治見市、本巣市、美濃市、恵那市、可児市、土岐市などに分布。
[県外] 北海道～九州に分布。日本固有種。

<特記事項> 近年、県内各地で局所的に多数の個体が確認されているが、市内では未確認。



撮影：渡辺千洋(市外撮影)

キロヤマトンボ

エソトンボ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧

Macromia daimoji

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 翅の長さは50mm前後、腹長が56mm前後のトンボ。体は黒色で、翅は黄色を帯びている。5月下旬～8月に発生するが、特に6月に多い。丘陵地の砂泥底の緩やかな流れの河川で発生し、雄は流れに沿って川面を飛翔する習性がある。

<分布> [市内] 日野で記録がある。
[県内] 美濃加茂市、瑞浪市、中津川市、御嵩町などに分布。
[県外] 本州(福島県以南)、四国、九州に分布。

<特記事項> 市内では30年以上前に日野で記録があるのみ。



撮影：渡辺千洋(市外撮影)

カワラバッタ

バッタ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Eusphingonotus japonicus

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 雄は25～30mmで雌が40～43mmのバッタ。体色は灰色で、生息している河原の石と似ているので保護色となっている。前翅は長く、2本の暗色横帯がある。後翅は中央部に弧をえがく褐色の帯状紋があり、内部は鮮やかな青色をしている。翅を後腿節とすり合わせ「カシャカシャ」と音を出す。

<分布> [市内] 長良古津で記録がある。
[県内] 笠松町、垂井町、揖斐川町(旧徳山村)などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。日本固有種。

<特記事項> 市内では30年以上前の記録があるだけであったが、2009年に長良古津で再発見された。



撮影：中島和典

ヒメタイコウチ

コオイムシ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Nepa hoffmanni

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 体長20mm前後で、体が黒褐色の水生昆虫。主な生息地は湿地であるが、湧水近くのコケの間や、水深の浅い水路の落葉の中でも見られる。成虫で越冬し、4～6月に水際近くの土やコケの上に産卵し、孵化した幼虫は秋に成虫になる。

<分布> [市内] 大洞、安食で記録がある。
[県内] 各務原市、可児市、多治見市、土岐市、恵那市、中津川市など県南に広く分布。
[県外] 岐阜県のほか静岡県、愛知県、三重県、兵庫県、香川県に分布。

<特記事項> 県内各地の湿地環境が悪化し、個体数が大幅に減少している。市内でもその傾向が見られる。



撮影：岐阜市

タガメ

コオイムシ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Lethocerus deyrolli

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 体長45～65mm前後の大型水生昆虫。体は褐色で、前足は太く先には鋭い爪がある。低地～丘陵地にある水生植物が繁茂した池沼、水田、用水路などが主な生息地。成虫で越冬し、6月頃から水面から出た植物の茎に産卵。卵は雄によって守られる。

<分布> [市内] 大洞、日野、溝口下、山県北野で記録がある。
[県内] 各務原市、恵那市、関市、可児市、多治見市、山形市、坂祝町などに分布。
[県外] 日本全国に分布。

<特記事項> 2020年2月に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」の特定第二種国内希少野生動植物種に指定された。



撮影：野平照雄(市外撮影)

コクロオバボタル

ホタル科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧ⅠB類

Lucidina okadai

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 体長7mm前後のホタル。体は黒褐色。前胸背には橙色の斑紋がある。湿地および休耕地などの周辺に生息。成虫は6～7月に発生。幼虫は地上でミミズを捕食している。ホタル科の昆虫であるが成虫は発光しない。

<分布> [市内] 達目洞、大洞で記録がある。
[県内] 可児市、高山市(旧高根村)、関市、山県市などに分布。
[県外] 岐阜県のほか三重県に分布。日本固有種。

<特記事項> 分布は局所的ではあるが、達目洞では毎年見ることができる。



撮影：野平照雄

ツマグロキチョウ

シロチョウ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧ⅠB

Eurema laeta

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 翅を広げた大きさが35mm前後のチョウ。翅の色は黄色。前翅の縁には帯状の黒色斑紋がある。成虫は5月から活動し、年3～4回発生を繰り返しながら11月頃まで見られる。成虫で冬を越し、翌年産卵する。

<分布> [市内] 岩佐、佐野、彦坂、三田洞、三輪、山県北野で記録がある。
[県内] 県内各地に分布。生息地は局所的。
[県外] 本州(宮城県以西)、四国、九州に分布。

<特記事項> 近年、県内各地で増えているようである。市内では各地に生息しているが、いずれも局所的であり、増加傾向は見られない。



撮影：西田眞也(市外撮影)

ミドリシジミ

シジミチョウ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-

Neozephyrus japonicus

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 翅を広げた大きさが35mm前後のチョウ。成虫は6～7月に発生。ハンノキに群れをなして生息し、夕方になると活発に活動する。産卵は普通ハンノキの小枝に1～2個。太い幹では10個以上産むこともある。そのまま卵で越冬。

<分布> [市内] 長良古津、大洞、北野、佐野、太郎丸、志段見、雛倉など市内各地で記録がある。
[県内] 県内各地に広く分布。
[県外] 日本全国に分布。

<特記事項> 市内の生息地はいずれも湿地環境が悪化し、幼虫の食樹であるハンノキが少なくなり、生息数は著しく減少している。



撮影：中島和典

モートンイトトンボ

イトトンボ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Mortonagrion selenion

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 翅の長さが15mm前後、腹長は17～24mmのトンボ。オスは体の前半が黄緑の地に黒紋、後半は橙赤色である。メスは、羽化直後は橙色であるが、成熟すると緑色になる。低い抽水植物の間などで活動しているが、あまり目立たない。

<分布> [市内] 達目洞、山県北野、古津で記録がある。
[県内] 県内各地に分布。
[県外] 日本全国に分布。

<特記事項> 市内の生息地は開発などで悪化し、個体数は減少している。



撮影：大塚英樹

ナゴヤサナエ

サナエトンボ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Stylurus nagoyanus

<選定理由> B,D <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 翅の長さが35mm前後、腹長は42mm前後のトンボ。体は黒色で黄色の条がたくさんある。成虫は6月下旬～8月頃に発生する。羽化後は河川敷や周辺の樹林へ移動し、成熟すると河川へ戻り繁殖活動を行う。

<分布> [市内] 長森岩戸、金園町、柳津下左波で記録がある。
[県内] 大垣市、羽島市、関市、海津市、安八町などに分布。
[県外] 日本全国(東北南部から九州の一部)に分布。日本固有種。

<特記事項> 市内では数例記録があるにすぎない。



撮影：渡辺千洋(市外撮影)

トラフトンボ

エソトンボ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-

Epiptera marginata

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 翅の長さが33～38mmで腹長が33～39mmのトンボ。体は黒と橙褐色の模様。成虫は4月後半頃から羽化し、成熟成虫は5月を中心に見られる。独特の産卵様式を持ち、卵塊を形成してから水面に落とし、さらにその卵塊はひも状となる。成熟したメスは水面上を徘徊飛翔する習性がある。

<分布> [市内] 折立、柳戸、長良、黒野、日野で記録がある。
[県内] 大垣市、美濃市、羽島市、岐阜市、海津市、中津川市、可見市など県南部に分布。
[県外] 本州北東部から九州南部にかけて分布。

<特記事項> かつて市内にも分布していたが、1980年代以降は確認記録がない。



撮影：渡辺千洋(市外撮影)

マイコアカネ

トンボ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-

Sympetrum kunkeli

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 翅の長さが25mm前後、腹長は24mm前後のトンボ。体は橙色。顔面は黄白色で2つの黒い眉斑がある。成虫は6月下旬～11月に発生する。羽化直後の若い個体は羽化水域周辺の林縁や草の茂みなどで生活して夏を過ごす。

<分布> [市内] 大洞、折立、黒野、長良で記録がある。
[県内] 海津市、笠松町、関市、美濃加茂市、各務原市、中津川市など美濃地方に分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

<特記事項> 市内では1980年以降の確認記録はない。



撮影：渡辺千洋(市外撮影)

クログンゴロウ

ゲンゴロウ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Cybister brevis

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 体長20～25mm前後のゲンゴロウ。背面は光沢のある緑色～褐色。水生植物の豊富な池沼、湿地、放棄水田が主な生息地。成虫は8～9月に発生し、そのまま越冬。翌年産卵。幼虫は水生昆虫を捕食して生活し、大きくなると上陸して土中で蛹になる。

<分布> [市内] 山県岩、山県北野、佐野、奥、岩で記録がある。
[県内] 土岐市、中津川市、郡上市などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

<特記事項> 市内では局所的に分布し、個体数も少ない。



撮影：寺町 茂

バーツヒラタカミキリ

カミキリムシ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-

Eurypoda (Neoprion) batesi

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 体長20～40mmのカミキリムシ。上翅は光沢のある茶褐色で、点刻は少ない。昼間はシイなどの大きな照葉樹の腐朽部に潜み、夜間活動する。灯火にも飛来する。本種は暖地にあるカシやシイなどの照葉樹林に生息しているが、大径木のある林に多い。

<分布> [市内] 金華山で記録がある。
[県内] 岐阜市にのみ分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

<特記事項> 県内では岐阜市の金華山で確認記録があるのみ。



撮影：野平照雄(市外撮影)

トラフカミキリ

カミキリムシ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：-

Xylotrechus chinensis

<選定理由> B,C,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 体長17～26mmのカミキリムシ。体は黄色と黒の縞模様で、スズメバチによく似ている。触角は短く、脚が長い。成虫は7～8月に発生。幼虫はクワの材内を食べて成長。幼虫の加害によってクワが枯死することもあるので害虫として知られている。

<分布> [市内] 柳津町佐波で記録がある。
[県内] 高山市、中津川市、下呂市などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。

<特記事項> かつて県内各地に広く分布していたが、近年減少。市内では柳津町佐波で確認記録があるのみ。



撮影：中島和典

ウラギンスジヒョウモン

タテハチョウ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Argyronome laodice japonica

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 翅を広げた大きさは55mm前後のチョウ。翅は橙褐色で黒い斑紋が点在している。後翅の裏面には濃い褐色紋と銀白色の列状の斑紋がある。成虫は6月下旬頃から発生し、夏になると活動を休止(夏眠)して、秋になると再び活動を始める。幼虫で越冬する。

<分布> [市内] 網代、達目洞、山県北野、日野、本郷で記録がある。
[県内] 飛騨市、高山市、下呂市、郡上市、中津川市、大垣市などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。生息地は減少傾向。

<特記事項> かつて市内にも広く分布していたが、1982年以降の確認記録はない。



撮影：豊島健太郎(市外撮影)

オグマサナエ

サナエトンボ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：準絶滅危惧

Trigomphus ogumai

<選定理由> B,E <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 翅の長さが27～30mm、腹長は33～36mmのトンボ。胸の側面に黒い筋が1本あることと、前肩条という黄色い筋がはっきりしているのが特徴。平地から丘陵地にかけての古い溜池や浅い池沼や水田など、止水域に生息する。

<分布> [市内] 折立、日野、長良川金華橋付近で記録がある。
[県内] 中津川市、恵那市、瑞浪市、可児市、海津市、関ヶ原町など県内各地に分布。
[県外] 本州(長野・岐阜・愛知県以西)、四国(徳島県)、九州に分布。日本固有種。

<特記事項> かつて県内各地に分布していたが、近縁減少。市内では1970年以前に確認記録があるのみ。



撮影：渡辺千洋(市外撮影)

クツワムシ

クツワムシ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：-

Mecopoda niponensis

<選定理由> B <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 体長が30～35mm、翅端までは50mm内外のキリギリスの仲間。体は緑色と褐色のタイプがあり、緑色でも雄の背面にある発音器付近は褐色を帯びている。翅は大きく幅広い。夜になると雄は「ガチャガチャ」と大きな声で鳴く。成虫は7月下旬より発生し、11月上旬まで活動する。

<分布> [市内] 日野、達目洞で記録がある。
[県内] 関市、可児市などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。日本固有種

<特記事項> 確認記録が少なく、詳しいことはよくわかっていない。



撮影：中島和典

タイコウチ

タイコウチ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：-
環境省2020：-

Laccotrephes japonensis

<選定理由> B,E <定性的要件> ① <変更コード> 7

<種の概要> 体長30～38mmの水生カメムシ。背面は暗褐色～茶褐色。前脚は鎌状。呼吸管は長く、その長さは体長と同程度。浅い止水域に生息する。

<分布> [市内] 八百津町、恵那市、笠松町、可児市、各務原、多治見市で記録がある。
[県外] 北海道、本州、九州、対馬に分布。

<特記事項> 岐阜市周辺では、2000年代以降に生息密度が低い。



撮影：加藤健一（市外撮影）

コオイムシ

コオイムシ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：-
環境省2020：準絶滅危惧

Appasus japonicus

<選定理由> B,E <定性的要件> ① <変更コード> 7

<種の概要> 体長17～26mmの水生カメムシ。背面は淡褐色～茶褐色。メスが雄の背中に卵塊を産卵し、オスは孵化まで卵の世話をする。水生植物が多い止水域に生息する。

<分布> [市内] 大洞、瑞龍寺山で記録がある。
[県内] 揖斐川町、郡上市、中津川市、関市、山県市、恵那市、瑞浪市、笠松町、各務原市、多治見市、羽島市、海津市で記録がある。
[県外] 北海道、本州、九州、対馬に分布。

<特記事項> 同属のオオコオイムシと酷似しており記録が混在している可能性があるため、標本の精査による記録の再検討が必要である。



撮影：加藤健一（市外撮影）

ヨツボシカミキリ

カミキリムシ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧ⅠB類

Stenygrium quadrinotatum

<選定理由> B,E <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 体長8～14mmの小さなカミキリムシ。体は赤褐色で、上翅中央部に2対の白紋がある。主な生息地はコナラ、クリ、ミズナラなどの広葉樹が混成した雑木林。成虫は5～8月に発生し、ノリウツギ、リョウブなどの花に集まる。灯火にも飛来する。

<分布> [市内] 長良古津、金華山、百々ヶ峰で記録がある。
[県内] 高山市、下呂市、中津川市、土岐市、美濃市、白川村、揖斐川町、八百津町、七宗町などに分布。
[県外] 本州、四国、九州、沖縄に分布。

<特記事項> かつては県内各地に多数生息していたが、近年激減し、ほとんど見ることが出来なくなった。市内では1978年以降確認記録がない。



撮影：野平照雄(市外撮影)

スゲハムシ

ハムシ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：-
環境省2020：-

Plateumaris sericea

<選定理由> B,E <定性的要件> ① <変更コード> 7

<種の概要> 体長6.5～8.8mmのネクイハムシ類。背面は金属光沢があり、黒、紫、青、緑、黄、赤など色彩変異が大きい。湿地、池、水路等に生息し、成虫は5～7月にスゲ属、イグサ属、ガマ属など多様な植物に訪花する。

<分布> [市内] 達目洞で記録がある。
[県内] 飛騨市、白川村、高山市で記録がある。
[県外] 北海道、本州、九州、佐渡に分布。

<特記事項> 和名として「キヌツヤミズクサハムシ」があてられることも多い。



撮影：石川 均（市外撮影）

ゴマフツトガ

ツトガ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：準絶滅危惧

Chilo pulveratus

<選定理由> B,E <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 翅を広げた大きさが19mm前後の小さな蛾。前翅は明るい藁色で、暗灰色鱗を散布し、後翅は白い。前翅頂が鋭くとがる。成虫は年1回、6～7月に発生する。河跡湖が残る河川敷や、低山地のヨシやススキなどの自生する明るい湿地に見られる。

<分布> [市内] 山県北野で記録がある。
[県内] 多治見市、笠松町などに分布。
[県外] 本州、四国、沖縄本島に局地的に分布。

<特記事項> 確認記録が少なく、詳しいことはよくわかっていない。



撮影：宮野昭彦(市外撮影)

エゾスジトウ

ヤガ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Doerriessa striata

<選定理由> B,E <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 翅を広げた大きさが23～30mmの小さな蛾。前翅は藁色で白色の筋が入る。後翅は白色。丘陵地や山地の湿地や草原に生息するが、発生は局地的で、食草や生活史など詳しいことはわかっていない。成虫は6～8月に発生する。

<分布> [市内] 山県北野で記録がある。
[県内] 土岐市、瑞浪市、関市、美濃市などに分布。
[県外] 北海道、本州(中部・北部)に分布。

<特記事項> 市内での確認記録は1事例のみである。



撮影：船越進太郎(市外撮影)

(8) 貝類（軟体動物）

岐阜市内で生息記録がある貝類（軟体動物）は113種であり、今回は、そのうちの42種（37.2%）を選定しました。

カテゴリー別にみると、絶滅危惧Ⅰ類はミナミタガイ、オバエボシガイ、ヨコハマシジラガイなど13種、絶滅危惧Ⅱ類はササノハガイ、マツカサガイ東海固有種、ヌマガイなど12種、準絶滅危惧はキュウシュウゴマガイ、マルタニシ、ヒラマキミズマイマイなど11種、情報不足はカラスガイ、カワシンジュガイなど6種で、絶滅と野生絶滅に該当する種はありませんでした。

岐阜市版レッドリスト2023に新たに掲載された種は、ヨコハマシジラガイとミズコハクガイの2種でした。これら2種は、2015年以降の調査で岐阜市内での生息が確認された種です。一方、岐阜市版レッドリスト2015で掲載されていたモノアラガイとヒメマルマメタニシについて、岐阜市内で確認されているモノアラガイ（前回：情報不足）はナデガタモノアラガイ *Radix* sp. であると考えられます。岐阜市内においてナデガタモノアラガイは生息地及び個体数も多いことから除外しました。また、ヒメマルマメタニシ（前回：絶滅危惧Ⅱ類）は外来種の可能性が高いことから、レッドリストからは削除し、ブルーリストに掲載しました。

和名及び学名、各カテゴリー内での配列は「Biology and Evolution of the Mollusca で提唱された軟体動物の分類体系と和名の対応」（福田，2021）と「岡山県野生生物目録2019 Ver1-3（2022年6月14日更新）」（福田，2022）及び「イシガイ科貝類の新たな分類体系」（近藤，2020）を参考にしました。なお、各種の概要等の参考とした文献については、巻末の「参考・引用文献」に記載しました。

選定種一覧（貝類（軟体動物））

カテゴリー区分	種名	種数
絶滅	該当なし	－
野生絶滅	該当なし	－
絶滅危惧Ⅰ類	ミナミタガイ、オバエボシガイ、ヨコハマシジラガイ、カタハガイ、イシガイ、ミズコハクガイ、イボイボナメクジ、キセルモドキ、ナタネキバサナギ、レンズガイ、クチベニマイマイ、ミノマイマイ（クロイワマイマイ亜種）、ヤマタカマイマイ	13種
絶滅危惧Ⅱ類	ササノハガイ、マツカサガイ東海固有種、ヌマガイ、オオタニシ、クロダカワニナ、ミジンナタネ、ナミギセル、タカキビ、ヒゼンキビ、ヒラベッコウ、ヤマナメクジ、コベソマイマイ	12種
準絶滅危惧	キュウシュウゴマガイ、マルタニシ、ヒラマキミズマイマイ、ニホンケシガイ、ナガオカモノアラガイ、ウメムラシトラ、ヒメカサキビ、コオオベソマイマイ、ケハダビロウドマイマイ、オトメマイマイ、ヒルゲンドルフマイマイ	11種
情報不足	カラスガイ、カワシンジュガイ、マシジミ、コシダカヒメモノアラガイ、ヒメオカモノアラガイ、ビロウドマイマイ属の一種	6種
合計		42種

ミナミタガイ

イシガイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－

Beringiana fukuharai

<選定理由> B,D,E,F,G <定性的要件> ② <変更コード> -

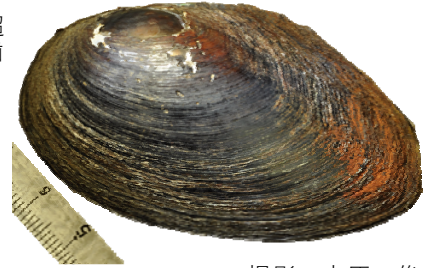
<種の概要> 殻が長卵形で薄く、膨らみが弱く、中型で通常の殻長は10cmを超えない。殻頂は前方に寄り、殻頂付近には同心円状の皺がある。擬主歯も後側歯もない。殻表は黒褐色で、内面はやや青みがかった真珠光沢をもつ。

<分布> [市内] 合渡、黒野、三輪北、七郷、常磐、方県、木田などで棲息を確認した。

[県内] 旧分類の“タガイ”として、海津市(旧海津町油島)、揖斐川町北方、笠松町米野木曾川などに分布。

[県外] 旧分類の“タガイ”として、北海道、本州、四国、九州に分布。日本固有種。

<特記事項> 生息環境の改修工事や汚染が進み、幼生の宿主となる魚類が外来魚に捕食されるなどの理由で、本種の生息地や個体数は激減した。ミトコンドリアCOI遺伝子分析の結果、岐阜市の個体はミナミタガイに同定された。



撮影：市原 俊

オバエボシガイ

イシガイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Inversidens brandtii

<選定理由> A,B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 殻は卵円形で膨らみ、後端は嘴状にやや尖る。日本産イシガイ科貝類としては最も小型種で殻長は通常5cmを超えない。殻頂付近には弱い縮緬状の彫刻がある。収足筋痕は前閉殻筋痕とつながる。鰓葉に蓄えられた卵はグロキディウム幼生に成長した後放出され、グロキディウム幼生はオイカワ、ヒガイ、タモロコ、モツゴの魚類の体表に付着し寄生生活を経て底生生活に入る。

<分布> [市内] 岩野田、黒野、常磐、方県で棲息を確認した。

[県内] 揖斐川町、関市などに分布。

[県外] 本州(岐阜県・愛知県以西)、九州に分布。日本固有種。

<特記事項> 伊勢湾流入河川以西に分布し、岐阜県は分布の東限にあたる。



撮影：市原 俊

ヨコハマシジラガイ

イシガイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：－
環境省2020：準絶滅危惧

Inversiumio jokohamensis

<選定理由> B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> 4

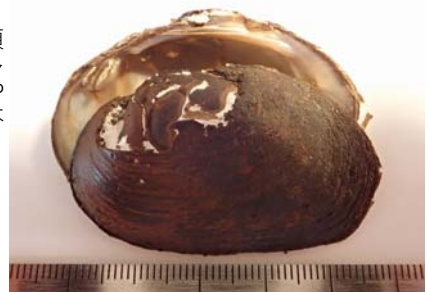
<種の概要> 殻形態は、マツカサガイにきわめてよく似る。殻は長卵形で、殻頂はやや前方に位置し、後端はわずかに尖る。殻頂付近に顆粒状の模様があるが、多くの個体は殻頂部が溶食されている。マツカサガイより膨らみがやや強く、外靱帯がやや大きく、わずかに突出する。マツカサガイの妊卵期が晩春から夏であるのに対し、本種は一年中妊卵するため、これにより両種を識別した。

<分布> [市内] 方県

[県内] 岐阜市を除き非公開

[県外] 北海道と三重県以東（日本海側は兵庫県以東）の本州。日本固有種。

<特記事項> 近年、岐阜県では生貝が確認されていない。



撮影：川瀬基弘

カタハガイ

イシガイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Obovalis omiensis

<選定理由> A,B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 日本産イシガイ科二枚貝としては中型で殻長は通常8cmを超えない。左右両殻ともやや強い三角形の1主歯を持つが後側歯はない。この特徴が片歯(かたは)という和名の由来である。殻表は平滑で、後背縁に放射状肋がある。内面は青味を帯びた真珠光沢をもつ。小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。宿主はオイカワ、カワムツ、ヨシノボリで、主に鰓に付着寄生する。

<分布> [市内] 黒野、三輪北、常磐、西郷、方県、網代で棲息を確認した。

[県内] 関市、揖斐川町に分布。

[県外] 本州(岐阜県・愛知県以西)、四国、九州に分布。日本固有種。

<特記事項> 三河湾以西の本州から九州に分布し、岐阜県は分布の東限にあたる。



撮影：市原 俊

イシガイ

イシガイ科

Nodularia douglasiae

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：－

<選定理由> B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 殻は細長く5cm程度に成長する。黒い殻色をもつ。日本全国に広く分布し、河川の中流・下流や水路、湖沼に生息する。タナゴ類の産卵対象となる。用水路の三面張りや生活排水、農薬の流入などで生息環境の悪化が進んでおり、日本各地で生息場所や生息個体数は減少している。市内では、長良川以北の水路や稀に小河川に生息していたが、個体数は各地点ともに非常に少なかった。近江盆地には亜種のタテボシガイが分布する。日本固有種。

<分布> [市内] 黒野、鷺山、三輪北、長良東、日置江、日野、柳津などで棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、関市、羽島市、坂祝町、笠松町などに分布。
[県外] 近江盆地を除く日本全国に分布。

<特記事項> 宿主はオイカワ、カワムツ、ヨシノボリで、幼生は鰓に付着寄生する。



撮影：市原 俊

ミズコハクガイ

ヒラマキガイ科

Gyraulus soritai

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：－
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

<選定理由> B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> 4

<種の概要> 殻径2.0 mm 程度。平巻き状左巻きの微小種で、殻は薄く、殻表は淡黄色のごく薄い殻皮で覆われ、鈍い光沢がある。ヒメヒラマキミズマイマイおよびやや小さめのヒラマキミズマイマイとよく似ているが、殻口側からみると本種は殻頂がやや突出することで区別できる（ヒメヒラマキミズマイマイとヒラマキミズマイマイは殻頂が窪む）。

<分布> [市内] 大洞（岐阜県内初記録）。
[県内] 岐阜市大洞のみ。
[県外] 関東・北陸以西に分布。

<特記事項> 2020年8月に岐阜市大洞の湧水が流入する放棄水田で発見（岐阜県初記録）された。



撮影：川瀬基弘

イボイボナメクジ

ホリアシヒダナメクジ科

Granulilimax fuscicornis

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：準絶滅危惧

<選定理由> B,D <定性的要件> ① <変更コード> －

<種の概要> 体長25mm程度。肉食性であり他の陸貝を捕食する。休止時は触角を引き込み昆虫の幼虫のようにも見えるが、匍匐時は触角を伸ばし体も細長く伸びる。背面の中央には不明瞭な太い縦線があり、それを囲むように細い明瞭な環状の線が模様としてみられる。普通のナメクジとは別系統である。市内では滅多に見つからない。

<分布> [市内] 岩野田北、常盤で棲息を確認した。
[県内] 養老町、大垣市などに分布。
[県外] 和歌山、静岡、愛知、三重、山梨の各県、四国に分布。



撮影：川瀬基弘

キセルモドキ

キセルモドキ科

Mirus reinianus

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：－

<選定理由> B <定性的要件> ① <変更コード> 5

<種の概要> 殻高25～29mm、殻径6.5～8.5mm、黄褐色で狭長な右巻きの殻をもつ。殻表には成長線に沿った不規則で微細な顆粒状の彫刻がある。殻口は強く反転し肥厚する。滑層は磁白色。軸唇縁の下端はやや角があり、臍孔隙は狭い。倒木裏面、朽ち木内部、湿潤な落葉や枯草の堆積下に生息する。

<分布> [市内] 金華山周辺(1967年)に記録がある。
[県内] 揖斐川町(旧久瀬村)、山県市(旧美山町)、郡上市(旧八幡町)、高山市(旧朝日村)、瑞浪市、池田町などに分布。
[県外] 本州(関東～近畿・中国)、四国、九州に分布。

<特記事項> 10年以上にわたり岐阜市全域の陸貝調査を実施しているが死殻すら発見できない。時に、金華山を集中的に調査したが、同様に死殻すら発見できなかった。



撮影：川瀬基弘(市外撮影)

ナタネキバサナギ

キバサナギガイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Vertigo ovata

<選定理由> B,C <定性的要件> ① <変更コード> -

<種の概要> 殻は微小で殻高3mm程度、殻径2mm程度、褐色または赤みがかった淡褐色で平滑な蛹形の巻貝。螺頂は円く、体層は次体層の1.5倍程度。縫合は深く、各螺層はよく膨らむ。殻口は半円形で殻口内に歯が出る。臍孔は広く開いている。本種は湿地性種であるため、湿地または水田周辺など湿地に準ずる環境に生息する。市内では湿地状の休耕田などに生息していたが、生息地点数・生息個体数ともに非常に少ない。

<分布> [市内] 芥見、岩野田、常磐で棲息を確認した。
[県内] 不詳。
[県外] 千島列島以南、北海道、本州、四国に分布。

<特記事項> 本種の生息環境である湿地や湿地に準ずる環境は減少しており、これが減少要因の一つと考えられる。



撮影：川瀬基弘(市外撮影)

レンズガイ

バッコウマイマイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Otseopsis japonica

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 殻高7~9mm、殻径13mm前後で、殻は薄い。半透明で淡い黄褐色。凸レンズ形で、周縁はキール状になる。螺塔は低い円錐形で、螺頂は鈍い。成長線は不規則に現れる。殻底は膨れ、中央の軸部はくぼむ。殻口は斜位。唇は薄く、底唇は湾曲し、上方の周縁角付近は広がり反転して溝状となる。狭い臍孔がある。軟体は淡いアメ色。両肩部は太く漆様黒帯縦条が現れる。足部側面の中ほどから後方にわたり黒い小さな斑紋が若干散在する。

<分布> [市内] 芥見、金華、日野で棲息を確認した。
[県内] 美濃市、揖斐川町に分布。
[県外] 関東地方、静岡県、島根県、九州全域に分布。

<特記事項> 九州では連続的に分布するが、本州の記録は不連続で局限され、生物地理学的に興味深い種であることが指摘されている。



撮影：川瀬基弘

クチバニマイマイ

ナンバンマイマイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-

Euhadra amaliae

<選定理由> B <定性的要件> ⑥ <変更コード> -

<種の概要> 殻高20~24mm、殻径26~37mmで、殻は中形。淡い黄白色で光沢があり、やや薄い。螺塔は低い円錐形。色帯は0234型、0034型、0204型、0000型、0030型、0004型、(1~3)0型など多くの型がある。周縁は円く、殻口は下降して斜位、ほぼ円形。唇縁は肥厚して広がる。外唇は淡紅色、内部は紫紅色。臍孔は中位の大きさで開く。軟体の背部は白色で、両肩部は黒い縦条である。その上縁は顕著、下縁は次第に消失する。

<分布> [市内] 真砂町4丁目(1984/7/30)に記録がある。
[県内] 大野町、恵那市、本巣市(旧根尾村)、白川町、瑞浪市、郡上市(旧白鳥町)などに分布。
[県外] 本州中部以西、近畿地方、伊豆三宅島に分布。

<特記事項> 1984年に市内での確認記録があるが、現在では市内全域で死殻すら見つからないことから絶滅した可能性もある。



撮影：川瀬基弘(市外撮影)

ミノマイマイ(クロイワマイマイ亜種)

ナンバンマイマイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅰ類
環境省2020：-

Euhadra senckenbergiana minoensis

<選定理由> B <定性的要件> ⑥ <変更コード> -

<種の概要> 殻高24.5mm、殻径36mmで、殻は小形。黄褐色~濃い赤褐色で無光沢に近い。色帯はほとんど0204型で、2は細く4は臍孔域よりかなりひろがる個体もある。特に体層は膨らみが強い。螺旋状の成長線は密に現れ、火炎彩は少し見られる。殻口は広くほとんど円形で、その外唇はやや厚く広く反転する。臍孔は著しく小さく、急に狭くなる。軟体は背面が淡い虎模様である。

<分布> [市内] 下尻毛(1984/7/10)、北柿ヶ瀬(1984/7/9)に記録がある。
[県内] 揖斐川町、恵那市、大垣市、美濃市、美濃加茂市などに分布。
[県外] 岐阜県のほか滋賀県、三重県(中部以北)に分布。

<特記事項> 1984年に市内での確認記録があるが、現在では市内全域で死殻すら見つからないことから絶滅した可能性もある。



撮影：西尾和久(市外撮影)

ヤマタカマイマイ

ニッポンマイマイ科

Satsuma papilliformis

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 殻高30mm、殻径25mm程度になる卵形の陸産巻貝である。色は淡黄褐色で周囲に細い淡い茶褐色の線があることが多い。希に無帯のこともある。殻口の底唇と軸唇とは直角になる。臍孔は閉じる。殻口外唇は広がって乳白色になる。軟体は淡い茶褐色で、顆粒状模様を現している。自然度の高い林内や川沿いの朽木や落葉の下など湿度の高い場所に生息する。

<分布> [市内] 方県、網代で棲息を確認した。
[県内] 本巣市、山県市、郡上市、白川村、高山市、飛騨市などに分布。
[県外] 長野・富山県以西、福井、島根、近畿地方一円に分布。



撮影：川瀬基弘(市外撮影)

ササノハガイ

イシガイ科

Lanceolaria oxyrhyncha

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧

<選定理由> A,B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> 9

<種の概要> 日本産イシガイ科貝類としては大型で殻長は15cmに成長する個体もある。膨らみは弱い。前縁は丸く、後端は鋭く尖る。殻頂は前方に寄る。殻表には不明瞭な皺状の彫刻がある。内面は真珠光沢が強い。宿主はオイカワ、ヨシノボリ、カワムツで、主に鰓に寄生する。小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。移動能力は高いが、あまり移動しない。日本固有種。

<分布> [市内] 芥見東、鏡島、三輪南、市橋、常磐、方県、藍川などで棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、海津市(旧海津町)、揖斐川町、関市などに分布。
[県外] 本州(岐阜県・愛知県以西)、四国、九州に分布。

<特記事項> 分布は三河湾流入河川以西であり、岐阜県は分布の東限に位置する。



撮影：市原 俊

マツカサガイ東海固有種

イシガイ科

Pronodularia cf. japonensis 2

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧

<選定理由> B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 日本産イシガイ科貝類としては中型で殻長は通常9cmを超えない。殻は卵円形で、膨らみは弱く平たい。湖沼産の個体は大型になることがある。殻のほぼ全面に強いさざ波状の彫刻がある。右殻の擬主歯は三角状である。内面は真珠層に覆われる。小川や用水路の礫～砂泥底に生息する。25°Cで完全に乾燥させても数日間は生きられる。寿命は約10年。妊卵期は晩春から夏にかけてで、幼生は主として日中に流下している。日本固有種。

<分布> [市内] 黒野、三輪南、七郷、長森東、日野、網代、木田などで棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、揖斐川町、関市、下呂市(旧萩原町)などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

<特記事項> 宿主はオイカワ、カワムツ、ドジョウ、ヨシノボリで、グロキディウム幼生は鰓や鰓に付着寄生する。



撮影：市原 俊

ヌマガイ

イシガイ科

Sinanodonta lauta

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-

<選定理由> B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 殻は薄く卵形で膨らみ、大型個体の殻長は20cmを超える。擬主歯はない。殻表は黒色～緑褐色で、細かい成長線を除き、ほぼ平滑であるが殻頂付近には同心円状の皺がある。後端はやや尖る。内面は真珠層に覆われる。溜池や用水路の砂～泥底に生息する。幼生はグロキディウムと呼ばれ、オイカワ、カマツカ、ヨシノボリの鰓や鰓に付着寄生する。妊卵期は春から夏で、幼生もその間に放出される。

<分布> [市内] 岩野田、鏡島、厚見、鷺山、常磐、則武、柳津、鶉などで棲息を確認した。
[県内] 海津市(旧海津町、旧南濃町)、羽島市正木町、瑞浪市、恵那市などに分布。
[県外] 北海道、本州、四国、九州に分布。日本固有種。



撮影：市原 俊

オオタニシ

タニシ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Heterogen japonica

<選定理由> E <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 殻高は50～60mm程度で、環境条件がよいと80mm前後まで成長する。殻は高い円錐形でヒメタニシに似るがより大型で、殻底に比較的明瞭な角があるものが多い。殻表は平滑で光沢がある。水田にも見られるが、水の干上がらない池沼や湧水のある場所などに多い。育児嚢で稚貝を育てる卵胎生。胎児殻は小さく、周縁に著しい角のあるそばん玉状。通常胎児は30～40個程度。食用にされる。

<分布> [市内] 芥見、黒野、三輪南、長森南、方県、網代、藍川などで棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、恵那市(旧山岡町、旧岩村町を含む)、大垣市、七宗町などに分布。
[県外] 東北地方以南、四国、九州に分布。

<特記事項> かつては食用にするほど多産したが、近年では水質汚濁、農薬散布、用水路の改修などのため生息地、生息数とも著しく減少した。



撮影：市原 俊

クロダカワニナ

カワニナ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：準絶滅危惧

Semisulcospira kurodai

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 殻高は30～35mm程度。外形は棍棒状でカワニナやチリメンカワニナに比べて細高く、殻底肋が5～6本と少ない。胎児殻の体層には瘤状突起がある。蓋は革質の卵形。雌雄異体の卵胎生で育児嚢をもつ。流れがきわめて緩やかな河川下流域や水路、溜池に生息する。泥が堆積している場所を好む。

<分布> [市内] 黒野、鷲山、常磐、長森南、長良、長良西、方県などで棲息を確認した。
[県内] 関市、川辺町、笠松町、羽島市、海津市などに分布。
[県外] 東海地方以西、近畿地方、紀伊半島、中国地方に分布。

<特記事項> カワニナと同属であるが、遺伝子分析の結果は琵琶湖固有種のタテダカワニナなどと近縁であり分類学的な再検討が必要であろう。



撮影：市原 俊

ミジンナタネ

ナタネガイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-

Punctum atomus

<選定理由> B <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 殻高0.5mm、殻径は1mm程度、3層で、殻はきわめて薄く微小。中位の臍孔、蒼黄色、光沢があり鋭い密縦脈と細螺脈をもつ。螺層はよく膨れ、縫合は深く、体層周縁と底面は円い。殻口は円く新月形で唇縁は薄く、軸唇は広くひろがる。きわめて微小な種であるため、リター分析を行わないと見逃されることがある。市内の調査では全域のリター分析を行ったが、発見されたのは1地点のみであり、生息数がきわめて少ない。

<分布> [市内] 芥見に記録がある。
[県内] 不詳。
[県外] 北海道、松島、三宅島(伊豆)、西郷(模式産地)に分布。



撮影：市原 俊

ナミギセル

キセルガイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：-

Stereophaedusa japonica

<選定理由> B,E <定性的要件> ② <変更コード> -

<種の概要> 殻高26mm、殻径7mm、12層で、殻は中形。やや棍棒型で淡黄～紫褐色。殻口は卵形で全縁、白色。外唇は厚くひろがり反転する。上板は斜位で内唇にいたる。下板は顕著に発達し、弓状に湾曲し、上板に近づいている。下軸板は弱く唇縁に現れる。主襞は長く、その下の上腔襞が少し斜めにあり、それより短い下腔襞がある。地域による個体変異があり多くの地方名が与えられている。

<分布> [市内] 方県、網代で棲息を確認した。
[県内] 大垣市、大野町、揖斐川町(旧久瀬村、旧徳山村)、山県市(旧美山町)、本巣市(旧根尾村)などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

<特記事項> ナミギセルが好む生息環境である落葉樹林の減少が、本種の生息地や個体数の減少要因と考えられる。



撮影：川瀬基弘

タカキビ

シタラ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Coneuplecta praealta

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 殻高は4mm、殻径2.5mm程度で小型である。殻はきわめて薄く、淡い褐色で半透明である。螺塔は高い円錐形状の形態である。螺層は多く、その頂部は鈍い。体層に周縁角があり、殻底はわずかに膨れる。殻口は半円形、その唇縁は薄い。軸唇は少し広がり三角形となる。臍孔がある。山地の森林内に生息し、薄暗い谷など湿潤な環境下において、アオキなどの常緑低木の葉の裏側に付着していることが多い。

<分布> [市内] 岩野田、金華、三輪北、常磐、方県、網代、藍川で棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、下呂市(旧下呂町)、揖斐川町に分布。
[県外] 本州(山口県以東・近畿・中部・関東地方)、九州に分布する。



撮影：市原 俊

ヒゼンキビ

シタラ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Parakaliella hizenensis

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 殻径3mm程度の微小種。殻は薄く半透明で黄褐色～褐色。螺塔はやや高く円みのある円錐形。各螺層はよく膨らみ縫合はやや深い。ハリマキビよりも体層が一回り小さく、ヒメハリマキビよりも丸みをおびることで区別できる。市街地や平地には分布しない山地性種であり、市内では北部の山間部の数地点で生息記録があるが個体数は少ない。

<分布> [市内] 岩野田、三輪南、常磐、長良東、方県、網代、藍川で棲息を確認した。
[県内] 養老町(養老山系の北部の石灰岩地帯)、揖斐川町に分布。
[県外] 本州(愛知県・中国地方)、九州に分布。



撮影：川瀬基弘

ヒラベッコウ

ベッコウマイマイ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：情報不足

Bekkochlamys micrograpta

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 殻高5mm、殻径10mm程度で殻はやや小形。半透明、淡い黄褐色で光沢が強い。螺塔は低く扁平で、わずかに緩やかに突きでる。各層は緩やかに広がり、体層は著しく広くなり、その幅は次体層の倍である。周縁は円い。殻表は滑らかで、繊細な成長線と細密な螺線によって彫刻されている。殻口はわずかに斜位で広い新月形、その周縁は鋭く尖る。殻軸は前方へ広がる。臍孔は狭く、その幅は殻径の1/10ぐらいである。

<分布> [市内] 芥見南、岩野田北、金華、合渡、島、日置江、藍川などで棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、恵那市(旧串原村)、高山市(旧高根村)、白川村などに分布。
[県外] 本州、四国、九州とその属島に分布。



撮影：川瀬基弘

ヤマナメクジ

ナメクジ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：一

Meghimatium fruhstorferi

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 軟体は巨大で、13～16cmに及ぶ個体もある。灰褐～黒褐色で、その両側に幅広く黒縦帯があり、足部近くで淡くなる。背上の中央に黒い斑点が縦にあり、背面から側面にわたり黒～灰色の顆粒状隆起で縞模様を現している。山地性で冬期は老樹の洞穴内深くに潜入して越冬している。

<分布> [市内] 三輪南、三輪北で棲息を確認した。
[県内] 大垣市、郡上市(旧白鳥町)、飛騨市(旧吉城郡神岡町、旧河合村稻越)などに分布。
[県外] 本州、四国、九州、久米島に分布。



撮影：岐阜市

コベソマイマイ

ナンバンマイマイ科

Satsuma myomphala

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> 1

<種の概要> 殻高30～35mm、殻径40～50mm、殻は大形でやや薄い。螺塔は低く、淡い黄褐～赤褐色。周縁に赤褐色の色帯がある。縫合は浅い。殻口は斜位でやや広い半円形。外唇は薄くわずかに反転する。臍孔は閉じる。軟体の背面はアメ色。本種は山麓から平地に生息し、国内の分布域では南の方が小型化する傾向があり多産する地域もあるが、東海地域では比較的個体数が少なく希少な種である。

<分布> [市内] 芥見、岩、黒野、長良東、日野、梅林、方県、網代などで棲息を確認した。
[県内] 恵那市(旧明智町)、関市(旧板取村を含む)、養老町、御嵩町、富加町(旧富加村)などに分布。
[県外] 本州(中部以西)、四国、九州に分布。



撮影：川瀬基弘

キュウシュウゴマガイ

ゴマガイ科

Diplommatina tanegashimae kyushuensis

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 殻高2.7mm、殻径1.5mm、7層。肥満した紡錘形で、淡い黄褐色。次体層が最大となる。肋条は細かく弱い。最終層は正面で肋条が消えて、平滑に近い。殻口の内部は肥厚し、腔滑層の縁は厚くなる。殻軸の下端で口縁は弱く角張る。腔襞は長く強く、明瞭である。本種はタネガシマゴマガイの亜種である。

<分布> [市内] 常磐、方県、網代で棲息を確認した。
[県内] 不詳。
[県外] 本州中部～九州に分布。

<特記事項> 岐阜県が東限になる可能性もあるが詳細な分布情報がない。



撮影：川瀬基弘

マルタニシ

タニシ科

Cipangopaludina chinensis laeta

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

<選定理由> E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 殻高は40～50mm程度。殻は円錐形で各螺層の膨らみは強く縫合は深い。殻表面には刻点列状の彫刻がある。近縁種のオオタニシに似ているが、オオタニシよりやや小型で、殻の形が丸みを帯びる。主に、水田・池・沼などの淡水の止水域に生息する。育児嚢で稚貝を育てる卵胎生。胎児殻は小型で、30～40個。6～7月頃に胎児を産出する。比較的乾燥に強い。食用になる。

<分布> [市内] 合渡、黒野、七郷、常磐、西郷、網代、木田、藍川などで棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、羽島市、高山市、飛騨市、垂井町、池田町などに分布。
[県外] 北海道～九州、沖縄に分布。

<特記事項> 近年では水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化のため生息地、生息数とも著しく減少した。



撮影：市原 俊

ヒラマキミズマイマイ

ヒラマキガイ科

Gyraulus spirillus

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：情報不足

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 殻径5mm程度の扁平な平巻き形。周縁は円いか、わずかにキール状になる。本種はヒメヒラマキミズマイマイに比べて大型で同サイズのそれと比較すると巻き数が少ないことで区別できる。殻表は灰褐色や黄褐色を帯びた半透明で微細な成長脈がある。殻は付着物に覆われていることが多い。遺伝子分析により市内には、本種とヒメヒラマキミズマイマイが生息することを確認したが、本種の分布は後者に比べてきわめて局所的であった。

<分布> [市内] 岩、黒野、鷲山、常磐、則武、長良西、島、木田で棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、本巣市(旧根尾村松田)、恵那市(旧明智町)、笠松町、中津川市、笠松町などに分布。
[県外] 北海道以南～九州南西諸島までの日本全国に分布。

<特記事項> 水質汚濁や冬季の乾田化などが減少の原因と考えられる。



撮影：市原 俊

ニホンケシガイ

オカミガイ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：—

Carychium hachijoense nipponense

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> —

<種の概要> 殻高1.3mm、殻径0.6mm、4層で、殻は著しく微小。螺頂は裁断したように鈍くなる。透明な淡い黄褐色で平滑、光沢がある。体層はやや大きい。縫合はやや深く、殻口は斜位で、細長く小さい。内唇の中ほどに尖る板(歯)状があり、外唇内方にやや大きい節がある。きわめて微小であるため、リター分析により確認された。市内全域のリター分析を行ったが分布がきわめて局所的であった。微小種であるため各地の詳細な分布情報は少ない。

<分布> [市内] 芥見、三輪南、長良東で棲息を確認した。
[県内] 高山市(旧吉城郡上宝村、旧大野郡高根村、旧朝日村)、白川村などに分布。
[県外] 奥羽地方以南、関東、近畿、徳島、隠岐島に分布。



撮影：市原 俊

ナガオカモノアラガイ

オカモノアラガイ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Oxyloma hirasei

<選定理由> B,C <定性的要件> ①② <変更コード> —

<種の概要> 殻高10~13mm程度。殻はとても薄く、やや光沢のある黄褐色の半透明。卵形~紡錘形で体層は長い。殻口が著しく長く広がり殻口高は殻高の8割程度を占める。淡水産のモノアラガイなどに似ているが、眼が触角の先端についていることで区別できる。陸産種であるが、水田・水路周辺の草地や水路の水際など淡水産貝類調査の際に比較的好く見つかることが多い。

<分布> [市内] 茜部、芥見、鷺山、三里、島、日野、本郷、網代などで棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、大垣市、笠松町などに分布。
[県外] 本州(関東・中国)、四国、九州北部に分布。

<特記事項> 本種が付着するマコモなどの挺水植物の生息する湿地や水田が激減しているため、本種の生息地、生息数も減少している。



撮影：川瀬基弘

ウメムラシタラ

シタラ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

Sitalina japonica

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> —

<種の概要> 殻高約1.2mm、殻径1.8mm程度で、殻は微小。螺塔が低く、巻数は少なく、低い円錐形。縫合はくびれ、各層には段差を有し、3本程度の螺状殻皮を持つ。体層底部は平たく、周縁の角は尖らない。殻は淡黄褐色。殻口は肥厚・反転せず、内部に歯はない。雌雄同体。低標高の比較的自然度の高い森林の落葉下に生息する。コシタカシタラガイと比べると体層の周縁に3本の螺状肋があることで識別できる。

<分布> [市内] 芥見、金華、三輪南、三輪北、長良東、日置江、日野などで棲息を確認した。
[県内] 揖斐川町、高山市高根町、揖斐郡大野町、大垣市赤坂町に分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。



撮影：川瀬基弘

ヒメカサキビ

シタラ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：—

Trochochlamys subcrenulata

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> —

<種の概要> 殻高2.2mm、殻径3mm程度で、殻は微小。淡い褐色で半透明。カサキビより著しく低い円錐形。螺層は緩やかに膨れる。体層の周縁角は鋭く突起している。殻表は繊細な糸状縦脈と多少不明瞭な螺状脈を現す。殻口はやや菱形、その周縁は薄い。軸唇はやや垂直にわずかに広がる。臍孔は狭く開いている。軟体は淡灰~赤褐色。触角は黒褐色。宅地開発などによる自然林の減少や乾燥化により生息地や個体数は減少していると考えられる。

<分布> [市内] 岩野田、京町、常磐、梅林、方泉、明德、網代で棲息を確認した。
[県内] 瑞浪市、本巣市(旧本巣郡本巣町)に分布。
[県外] 本州、伊豆諸島、四国、九州及び付属島嶼に分布。



撮影：川瀬基弘

コオオバソマイマイ

ナンバンマイマイ科

Aegista mimula

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 殻高5～7.5mm、殻径9～11mmで、殻は偏平で薄い。螺塔は低い円錐形。褐色で光沢がない。殻表には伏したごく鱗片のようなものが弱い線条にそって密生する。体層の周縁は円いが弱く角ばる。殻口は斜位、やや円形。唇縁は白く狭くひろがり、やや反転して厚くなる。臍孔は広く開く。四国（香川県）・本州（秋田県～島根県）と広く分布し、地方変異がある。

<分布> [市内] 岩、三輪南、三輪北、方県、網代で棲息を確認した。
[県内] 高山市(旧朝日村、旧丹生川村)、飛騨市(旧河合村)、多治見市、大野町などに分布。
[県外] 奥羽地方以南～島根県、香川県に分布。



撮影：川瀬基弘

ケハダピロウドマイマイ

ナンバンマイマイ科

Nipponochloritis fragilis

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 殻高15～20mm程度で、殻はやや小形。黄褐色。螺塔は低い。縫合はやや深く、各層はよく膨れる。体層は急に膨大となる。殻表に比較的荒い針毛様の殻皮が発達する。殻口は成熟しても反転しない個体が多い。ピロウドマイマイ(トウカイピロウドマイマイ)に比べて、殻皮毛の密度が低く粗いのが特徴である。山間部の倒木下や伐採して積み上げられた竹材の下などに生息するが、生息地は少なく個体数も少ない。

<分布> [市内] 鷺山、三輪北、方県、網代で棲息を確認した。
[県内] 揖斐川町、大野町など伊吹山周辺地域に分布。
[県外] 北陸以南、近畿地方、中部地方に分布。

<特記事項> 遺伝子分析の結果、市内のケハダピロウドマイマイは、エチゼンピロウドマイマイに近縁であることが分かった。



撮影：川瀬基弘

オトメマイマイ

ナンバンマイマイ科

Trishoplita goodwini

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 殻高6.5～8.3mm、殻径8.8～11.7mmで、殻は小形。薄く、半透明でやや光沢があり、青白色。螺塔は円錐形。殻表には弱い成長線がある。周縁には鈍い角がある。殻口は少し下降して斜位、円形に近い。唇縁は薄く、わずかにひろがる。軸唇は白色、かなりひろがる。臍孔は中ぐらいの大きさ。自然林で溪流ぞいのササ類や竹などが繁茂しているところに、生息している。

<分布> [市内] 金華、三輪南、城西、常磐、長良東、日置江、日野などで棲息を確認した。
[県内] 大垣市、郡上市(旧白鳥町)、本巣市(旧本巣町)、山県市(旧美山町)、揖斐川町(旧谷汲村、旧藤橋村)などに分布。
[県外] 石川・福井県以南、岐阜・三重県以西の近畿地方、四国に分布。



撮影：川瀬基弘

ヒルゲンドルフマイマイ

ナンバンマイマイ科

Trishoplita hilgendorfi

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：準絶滅危惧

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 殻高8mm、殻径12mm程度で、殻はやや大きく低円錐形で、体層は丸く膨らみ、周辺に弱い角がある。殻の色彩は淡黄色から黄褐色で、殻質は薄く、殻表に薄い殻皮を持つ。産地によって殻の色彩、周辺角の強さなど殻の形態は変異する。近似種のマメマイマイに比べて、より大きくなることで区別できる。地方種や亜種として、アメイロヒルゲンドルフマイマイやオオヒルゲンドルフマイマイなどが知られている。

<分布> [市内] 京町、合渡、島、日野、梅林、白山、方県、明德などで棲息を確認した。
[県内] 伊吹山、垂井町、美濃市、大垣市、大野町、揖斐川町(旧春日村)などに分布。
[県外] 伊吹山系、鈴鹿山系の石灰岩地に分布。



撮影：川瀬基弘

カラスガイ

イシガイ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：準絶滅危惧

Cristaria plicata

<選定理由> B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 日本産の淡水産二枚貝としては最大級で殻長は約40cmにまで成長する。ドブガイ類(タガイやヌマガイなど)と混同されることが多いが、本種にはドブガイ類にはない後側歯があり区別は明確である。殻表は滑らかで、しばしば緑色の放射状の模様が見られる。本種の属するイシガイ科二枚貝は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで、水量が多く水質の良い砂泥底を生息場所としている。市内では絶滅寸前である。

<分布> [市内] 鏡島、合渡、鷺山、則武、木田に記録がある。
[県内] 揖斐川水系下流域に分布。
[県外] 北海道、本州に分布。

<特記事項> 妊卵期は晩秋から早春で、幼生はその間に放出される。宿主はヨシノボリで、幼生は鰭や鰓に付着寄生する。



撮影：市原 俊

カワシンジュガイ

カワシンジュガイ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Margaritifera laevis

<選定理由> B,D,E,F,G <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 殻長10cm程度になる淡水産二枚貝。殻は褐色から黒色になり、内側は青味がかかった真珠光沢が強い。背縁は前方に傾斜し、前縁は楕円形に突出する。前閉殻筋痕は丸い耳状である。一般に、夏季でも水温が20度以上にならないような河川上流の泥～礫底に生息する。生育場所の流速は比較的速く、多くは早瀬～平瀬に生息する。8年で性成熟し、最大寿命は80年程度と推定されている。ヤマメ、アマゴ、ニジマスが宿主となる。

<分布> [市内] 黒野、常磐、方県に記録がある。
[県内] 高山市、下呂市、郡上市、揖斐川町などに分布。
[県外] 北海道、本州に分布。

<特記事項> 市内での生息はきわめて稀で、グロキディウム幼生の寄生した魚類の移動にともなう偶因分布の可能性がある。



撮影：市原 俊

マシジミ

シジミ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：絶滅危惧Ⅱ類

Corbicula leana

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 殻は30mm程度の垂三角形で、殻色は黄褐色から黒褐色を呈し光沢はほとんどない。小型の二枚貝で、湖岸や河川の砂地に分布する。汽水域に分布するヤマトシジミと比べると、殻の高さが低く、光沢がにぶい。また殻の表面に小さく黒い斑模様がある。幼貝は緑黄色で成長すると黒くなる。比較的きれいな水が流れる川や池に生息する。市内では外来種のタイワンシジミが分布を拡大し、マシジミの生息地は激減している。

<分布> [市内] 厚見、岩、合渡、島、藍川、鶉などで棲息を確認した。
[県内] タイワンシジミの侵入していない県内各地の河川や湖沼に分布。
[県外] 東北～九州、四国に分布。

<特記事項> マシジミをタイワンシジミのシノニムとする見解もあり、文献により異なる見解が示されている。



撮影：市原 俊

コシダカヒメモノアラガイ

モノアラガイ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：情報不足
環境省2020：情報不足

Galba sp.

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> -

<種の概要> 殻高5mm、殻径2.5mm程度で、殻口高は殻高の5割程度を占めるが、ヒメモノアラガイのように広くはならない。生時は軟体部が透けて黒っぽく見えるが、殻は黄白色から鮎色の半透明である。ヨーロッパ原産の外来種であると考えられているが、在来種である可能性も否定できない。市内では、劣化した水路のコンクリート壁面の亀裂など水際付近に生息していた。

<分布> [市内] 岩野田、三里、三輪南、早田、則武、長良西、鶉などで記録がある。
[県内] 不詳。
[県外] 北海道以南、群馬県、愛知県、徳島県、九州に分布。



撮影：川瀬基弘

ヒメオカモノアラガイ

オカモノアラガイ科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：情報不足

環境省2020：－

Succinea lyrata

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 殻長7～12mmで、殻は卵形で短く、淡黄色。螺塔は幅広くやや高く円錐形で3螺層。弱い皺があり、体層は強く大きい。殻口は幅広い卵形で、殻高の3/4の長さである。内部は琥珀色である。オカモノアラガイよりも著しく小型で、よく膨らみ、縫合は深い。中国大陸、トカラ列島、喜界島・沖永良部島・沖縄・八重山に分布する。

<分布> [市内] 厚見、合渡、黒野、三輪北、常磐、鶉で棲息を確認した。
[県内] 美濃加茂市、下呂市(旧下呂町)、郡上市(旧八幡町)、各務原市などに分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。



撮影：川瀬基弘

ピロウドマイマイ属の一種

ナンバンマイマイ科

岐阜市2023：情報不足

岐阜市2015（前回）：情報不足

環境省2020：情報不足

Nipponochloritis sp.

<選定理由> B <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 殻高12mm、殻径17mm程度、殻はやや球形で、黄褐色。殻表には短い殻毛が密にある。螺塔はほとんど平らで、縫合の間は緩やかに中高となる。次体層と体層は下降し、円形となる。殻口はわずかに斜位、広い円形、その唇縁は薄い。滑層は内唇から外側へ広がり半円状となる。臍孔がある。ケハダピロウドマイマイに比し殻皮毛の密度が高いものを本種に位置づけた。

<分布> [市内] 芥見、岩、岩野田、三輪南で棲息を確認した。
[県内] 可児市、瑞浪市、多治見市など東濃地域を中心に分布。
[県外] 東北・関東・中部・近畿・四国地方などに分布。

<特記事項> DNA分析の結果、従来から *Nipponochloritis oscitans* とされている種には複数種が含まれるため、*Nipponochloritis* sp. とした。



撮影：川瀬基弘

(9) 甲殻類（十脚類）

岐阜市内で生息記録がある甲殻類（十脚類）は9種であり、今回は、そのうちの4種（44.4%）を選定しました。

カテゴリ別にみると、絶滅危惧Ⅱ類はミゾレヌマエビ、準絶滅危惧はサワガニ、モクズガニ、情報不足はヌカエビで、絶滅と野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類に該当する種はありませんでした。また、岐阜市版レッドリスト2023に新たに掲載された種及び岐阜市版レッドリスト2015から除外した種はありませんでした。

和名及び学名、各カテゴリ内での配列は「岐阜県の動物 哺乳類・爬虫類・両生類・十脚類」（向井ほか，2021）を参考にしました。なお、各種の概要等の参考とした文献については、巻末の「参考・引用文献」に記載しました。

選定種一覧（甲殻類（十脚類））

カテゴリ区分	種名	種数
絶滅	該当なし	－
野生絶滅	該当なし	－
絶滅危惧Ⅰ類	該当なし	－
絶滅危惧Ⅱ類	ミゾレヌマエビ	1種
準絶滅危惧	サワガニ、モクズガニ	2種
情報不足	ヌカエビ	1種
合計		4種

ミゾレヌマエビ

ヌマエビ科

岐阜市2023：絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Caridina leucosticta

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 体長3cm程度。両側回遊性の小卵型ヌマエビ類で、眼上棘が無く、頭胸甲の前側角部が尖らない。額角上縁の先端部に他から離れた数個の棘がある。体色は茶色や透明だが、背面の正中線上に1本の幅広い黄褐色の縞がある。ミナミヌマエビに比べると腹部に対して頭胸部が小さく、額角が長いこともあってスマートな体形に見える。

<分布> [市内] 長良大橋近辺に分布。夕べが池でも採集記録がある。
[県内] 木曾三川の下流域に分布。
[県外] 西南日本に広く分布。

<特記事項> 市内での分布は限られている。2002年に岐阜大橋付近で採集された記録もあるが、写真や標本が無いため誤同定の可能性がある。



撮影：向井貴彦

サワガニ

サワガニ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Geothelphusa dehaani

<選定理由> E <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 甲幅3cm程度。丘陵地の小さな流れや上流域で普通に見ることができる身近なカニ。本州にいる他のカニ類は全て幼生期を海で過ごす、サワガニだけは親と同じ形の子ガニが卵から生まれて、一生を山で過ごす。地方によって体色に大きな変異がある。

<分布> [市内] 丘陵地の河川に分布。
[県内] 県内に広く分布。
[県外] 本州、四国、九州に分布。

<特記事項> 丘陵地の細流に生息するため、宅地開発や水路の三面コンクリート護岸化によって生息地が減少していると考えられる。



撮影：森口宏明

モクスガニ

モクスガニ科

岐阜市2023：準絶滅危惧
岐阜市2015（前回）：準絶滅危惧
環境省2020：－

Eriocheir japonica

<選定理由> E <定性的要件> ①② <変更コード> －

<種の概要> 甲幅8cm程度。鋏脚に密な毛が生えることが特徴。川で数年間育ち、成体は秋に交尾と産卵のために海に下る。降河期のが漁獲され、茹でてかみそが賞味される。

<分布> [市内] 長良川と周辺の支流に分布。
[県内] 木曾三川の中・下流域周辺に分布。
[県外] 北海道から沖縄まで分布。

<特記事項> 下流域の環境変化による遡上・降下への影響が考えられる。漁業用の放流が行われているため、市内で獲れるものは必ずしも海から上がってきたとは限らず、存続基盤が脆弱と判断される。



撮影：寺町 茂

ヌカエビ

ヌマエビ科

岐阜市2023：情報不足
岐阜市2015（前回）：絶滅危惧Ⅱ類
環境省2020：－

Paratya improvisa

<選定理由> B,E <定性的要件> ①② <変更コード> 17

<種の概要> 全長3cm程度。眼上棘が有り、頭胸甲の前側角部が尖らない。額角上縁の先端部に他から離れた棘は無い。体色は透明な個体が多い。体を伸ばした状態で腹部中央がやや盛り上がった体形をしている。以前は、同属のヌマエビの亜種とされており、一生を淡水で暮らす「北・中部群」（ヌカエビ）と海に下る「南部群」（ヌマエビ）の2つに分けられていた。

<分布> [市内] 北東部の河川とため池に分布。
[県内] 美濃地方の河川とため池に分布。
[県外] 中部地方以北に分布。

<特記事項> 市内での分布は限られている。やや水がきれい流れのある環境に生息する傾向にある。



撮影：向井貴彦